

植物

1	セイバンモロコシ	被害甚大種	94	オニウシノケグサ	準被害危惧種
2	ノギナシセイバンモロコシ(ヒメモロコシ)	被害甚大種	95	ヒロハウシノケグサ	準被害危惧種
3	オオフサモ	被害甚大種	96	オオスズメノカタビラ	準被害危惧種
4	アレチウリ	被害甚大種	97	コバンソウ	準被害危惧種
5	エゾノギシギシ	被害甚大種	98	シマスズメノヒエ	準被害危惧種
6	ナガエツルノゲイトウ	被害甚大種	99	ホテイアオイ	準被害危惧種
7	ヨウシュヤマゴボウ	被害甚大種	100	ナガバオモダカ	準被害危惧種
8	ワルナスビ	被害甚大種	101	コカナダモ	準被害危惧種
9	セイタカアワダチソウ(セイタカアキノキリンソウ)	被害甚大種	102	タカサゴユリ	準被害危惧種
10	メリケンキンソウ	被害甚大種	103	メリケンガヤツリ	準被害危惧種
11	アゾラ雑種系	被害甚大種	104	カロライナツユクサ	準被害危惧種
12	オオカナダモ	被害危惧種	105	セイヨウミヤコグサ	準被害危惧種
13	ミドリハカタカラクサ	被害危惧種	106	エビスクサ	準被害危惧種
14	マルバツユクサ	被害危惧種	107	タチオランダゲンゲ(雑種)	準被害危惧種
15	メリケンカルカヤ	被害危惧種	108	ゲンゲ(レンゲ)	準被害危惧種
16	シナダレスズメガヤ	被害危惧種	109	オキジムシロ	準被害危惧種
17	ネズミムギ	被害危惧種	110	アメリカフウロ	準被害危惧種
18	キシウスズメノヒエ	被害危惧種	111	ヒメフウロ	準被害危惧種
19	タチスズメノヒエ	被害危惧種	112	オオマツヨイグサ	準被害危惧種
20	ネズミホソムギ(ホソムギ×ネズミムギ)	被害危惧種	113	マメゲンバイナズナ	準被害危惧種
21	イヌムギ	被害危惧種	114	ハナダイコン(シヨカツサイ)	準被害危惧種
22	カモガヤ	被害危惧種	115	タンシウチワ	準被害危惧種
23	ホソムギ	被害危惧種	116	オオイタドリ	準被害危惧種
24	キシウブ	被害危惧種	117	オランダミミナグサ	準被害危惧種
25	ハマスゲ	被害危惧種	118	ムシトリナデシコ	準被害危惧種
26	イタチハギ(クロバナエンジュ)	被害危惧種	119	ブラジルチドメグサ	準被害危惧種
27	アレチヌスビトハギ	被害危惧種	120	コブシ	準被害危惧種
28	コメツブツメクサ	被害危惧種	121	ナンテン	準被害危惧種
29	ムラサキツメクサ	被害危惧種	122	オシロイバナ	準被害危惧種
30	シロツメクサ	被害危惧種	123	オオキバナカタバミ	準被害危惧種
31	キダチコマツナギ(トウコマツナギ)	被害危惧種	124	マメアサガオ	準被害危惧種
32	コメツブウマゴヤシ	被害危惧種	125	マツバウンラン	準被害危惧種
33	ウマゴヤシ	被害危惧種	126	タチイヌノフグリ	準被害危惧種
34	ナヨクサフジ	被害危惧種	127	ヒメアメリカアゼナ	準被害危惧種
35	ハリエンジュ(ニセアカシア)	被害危惧種	128	タケトアゼナ	準被害危惧種
36	ムラサキカタバミ	被害危惧種	129	ブタクサ	準被害危惧種
37	オッタチカタバミ	被害危惧種	130	ウスベニチチコグサ	準被害危惧種
38	コニシキソウ	被害危惧種	131	アレチノギク	準被害危惧種
39	オオニシキソウ	被害危惧種	132	オオキンケイギク	準被害危惧種
40	ニシキソウ	被害危惧種	133	ベニバナボロギク	準被害危惧種
41	ハイニシキソウ	被害危惧種	134	タカサブロウ外来型(アメリカタカサブロウ)	準被害危惧種
42	ホソバヒメミソハギ	被害危惧種	135	ランドボロギク	準被害危惧種
43	メマツヨイグサ(アレチマツヨイグサ)	被害危惧種	136	ケナシヒメムカシヨモギ	準被害危惧種
44	カラシナ	被害危惧種	137	ヘラバヒメジョオン	準被害危惧種
45	ミチタネツケバナ	被害危惧種	138	タチチチコグサ	準被害危惧種
46	オランダガラシ	被害危惧種	139	チチコグサモドキ	準被害危惧種
47	ホソアオゲイトウ	被害危惧種	140	ウラジロチチコグサ	準被害危惧種
48	アオビユ(ホナガイヌビユ)	被害危惧種	141	トゲチシャ	準被害危惧種
49	ノゲイトウ	被害危惧種	142	ナルトサウギク	準被害危惧種
50	ケアリタソウ	被害危惧種	143	アカミタンポポ	準被害危惧種
51	メキシコマンネングサ	被害危惧種	144	オオハンゴンソウ	準被害危惧種
52	ヒレタゴボウ	被害危惧種	145	キクタニギク	準被害危惧種
53	オオバナミズキンバイ	被害危惧種	146	ノヂシャ	準被害危惧種
54	アメリカミズユキノシタ	被害危惧種	147	ケチウセンアサガオ	準被害危惧種
55	コマツヨイグサ	被害危惧種	148	ヒロハフウリンホオズキ	準被害危惧種
56	ニワウルシ(シンジュ)	被害危惧種	149	ヤナギハナガサ(サンジャクバーベナ)	準被害危惧種
57	アレチギシギシ	被害危惧種	150	アレチハナガサ	準被害危惧種
58	ナガバギシギシ	被害危惧種	151	タキバアレチハナガサ	準被害危惧種
59	シロバナマンテマ	被害危惧種	152	ビロードモウズイカ	準被害危惧種
60	アメリカネナシカズラ	被害危惧種	153	キキョウソウ	準被害危惧種
61	マルバルコウ	被害危惧種	154	メリケンムグラ	準被害危惧種
62	ノアサガオ	被害危惧種	155	イヌカタヒバ	準被害危惧種
63	アメリカイヌホオズキ	被害危惧種	156	シラゲガヤ	要注目種
64	オオカワヂシャ(オオカワヂサ)	被害危惧種	157	ナガハグサ	要注目種
65	オオイヌノフグリ	被害危惧種	158	ヒメヒオウギズイセン	要注目種
66	オオマツバウンラン	被害危惧種	159	ヒレニワゼキショウ	要注目種
67	ヘラオオバコ	被害危惧種	160	オオニワゼキショウ	要注目種
68	アメリカアゼナ	被害危惧種	161	イヌクグ	要注目種
69	ヒメオドリコソウ	被害危惧種	162	ハタケニラ	要注目種
70	クワモドキ(オオブタクサ)	被害危惧種	163	シャグマハギ	要注目種
71	ヒロハハウキギク	被害危惧種	164	ワタリミヤコグサ	要注目種
72	アメリカセンダングサ	被害危惧種	165	アメリカスミレサイシン	要注目種
73	オオアレチノギク	被害危惧種	166	ナガエコミカンソウ(ブラジルコミカンソウ)	要注目種
74	ヒメジョオン	被害危惧種	167	フウセンカズラ	要注目種
75	ヒメムカシヨモギ	被害危惧種	168	セイヨウフウチョウソウ	要注目種
76	ハルジオン	被害危惧種	169	ハゼラン	要注目種
77	ハキダメギク	被害危惧種	170	ヒメマツバボタン	要注目種
78	ノボロギク	被害危惧種	171	スイセンノウ	要注目種
79	セイヨウタンポポ	被害危惧種	172	キウイフルーツ	要注目種
80	オオオナモミ	被害危惧種	173	ムラサキノマイ	要注目種
81	コセンダングサ	被害危惧種	174	アカザカズラ	要注目種
82	ブタナ	被害危惧種	175	フラサバソウ	要注目種
83	オニノゲシ	被害危惧種	176	ヒサウチソウ	要注目種
84	オニヤブソテツ(広義)	被害危惧種	177	ヤセウツボ	要注目種
85	ボタンウキクサ	準被害危惧種	178	ヤナギバルイラソウ	要注目種
86	ハルガヤ	準被害危惧種	179	セイヨウニンジンボク	要注目種
87	メハルガヤ(ケナシハルガヤ)	準被害危惧種	180	イワヨモギ	要注目種
88	オオクサキビ	準被害危惧種	181	マメカミツレ	要注目種
89	アメリカスズメノヒエ	準被害危惧種	182	ハリアサガオ	要注目種
90	ナギナタガヤ	準被害危惧種	183	シラホシムグラ	要注目種
91	ハナヌカススキ	準被害危惧種	184	タマオオスズメノカタビラ	情報不足種
92	ヒメコバンソウ	準被害危惧種	185	ハナガサギク(ヤエザキハンゴンソウ)	情報不足種
93	ヒゲナガスズメノチャヒキ	準被害危惧種			

分類群	植物
1. 京都府内の外来生物の特徴	<p>京都府には太平洋側に面した貿易港がなく、また中北部には外来植物が入りにくい広大な森林地域が広がっているため、新しく入ってくる外来種は比較的少なく、また広がるスピードもやや遅い傾向があるのは事実である。しかしそれが油断につながり、淀川水系のボタンウキクサやオオバナミズキンバイのように下流地域に多大の迷惑をかけてきたという側面もある。いっぽうネズミムギのような「産業管理外来種」や、セイバンモロコシのような「その他の総合対策外来種」、オオフサモやアレチウリといった「緊急対策外来種」は南部地域に多く、それらの種子の供給源として大阪府側に継続的な被害を与えている事実も見逃せない。その傾向はとくに木津川や桂川の河川敷で顕著である。もう一つの特徴は、アメリカミズユキノシタやナガバオモダカのように、日本でも京都府南部の一地域に特異的に多い外来植物が見られることである。アメリカミズユキノシタやナガバオモダカはその代表的なもので、戦後の一時期に駐留した米軍が関係しているともいわれるが、真偽不明である。こういったものも爆発的に増えて他府県の水域に被害を与えるポテンシャルは高いと見られる。警戒が必要である。</p>
2. 基準選定の考え方	<p>国としての指定基準についてはそのサイトを参照されたいが、府内での基準については広く生態系全般の「予想される被害」を基準に選定した。例えば国指定の「産業管理外来種」であるネズミムギなどは密生して生育すると単一種の独占群落を作りやすく、生物多様性にも大きな悪影響を及ぼす。ゲンゲ(国指定の基準なし)は窒素を固定して富栄養化をもたらし、生物多様性の観点からは危惧される。</p>
3. タイプ変更・新規追加種について	<p>今回現状では軽微な被害(Cランク)にとどまっているものを中心に、40種以上を追加した。いずれも「産業管理」の点では問題は少ないが、在来種と交雑したり人的被害が予想されたり、富栄養化に伴って生物多様性の現象が危惧されるものである。</p>
4. 対策	<p>現状では軽微な被害にとどまっているものには、日ごろの監視が必要。被害甚大なものについては、①多年草は定着初期に除去することが重要であるが、特に地下茎で増えるイチビやセイバンモロコシなどは除草剤が効きにくく、トラクターなどで耕すとかえって繁殖拡大につながる。②ネズミムギのような一年草の密集地は、種子をつける前に刈り取る。近くの広がりやすい場所では逆に刈り取りを遅らせ、種子が発芽しても被陰地のままとして繁殖を抑える。人力での除去を併用するとなおよい③水草類は除去して乾燥地に放置して枯らすのが最良</p>
5. 備考	<p>セイバンモロコシやイチビ、ワルナスビのように除去困難な地下茎繁殖型多年草については、ショートキープのような成長調整剤を使って抑制する実験が国交省淀川河川事務所や河川財団によって進められている。一部では良い結果も出てきているので、つねに情報探索に務められたい。</p>

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	セイバンモロコシ	学名	<i>Sorghum propinquum</i>	目科名	単子葉植物イネ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	その他の総合対策 外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	A	原産地	地中海地方
	導入・侵入年代	1940年代	導入・侵入原因	牧草		
②分布範囲	全国	本州-九州				
	府内	舞鶴市、福知山市、綾部市、南丹市、亀岡市、京都市、久御山町、京田辺市、木津川市、南山城村				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] ■生態系被害、 ■農林水産業被害、 □人身・健康被害、 □生活被害 [影響内容] □上位捕食者となる、 ■植生への影響、 ■競合・駆逐、 □遺伝子かく乱、 □在来種への病気・寄生虫の媒介、 ■土壌・環境攪乱、 ■希少種・固有種への影響 [性質特性] ■定着性が高い、 ■環境適応性が高い、 ■繁殖能力が高い、 ■拡散能力が高い [被害程度] ■対策の緊急性が高い、 ■被害が大きい、 □特殊性、 ■回復困難性					
④生態的特性	草丈2.5mに達する大型の多年草。路傍、堤防、鉄道沿草地、海岸道路脇などに生える。葉は巾1~2cm、長さ20~70cm。種子から発芽後2年目から地下茎を伸ばし始め、そうなると茎を引き抜いても地下茎は地中に残り、除去は至難。					
⑤近似種との見分方	ノギナンセイバンモロコシは本種の一品種であり、同一群落中に出現することもある。生態的にも同様で、区別する必要はない。					
⑥被害状況	群生し大型であるため他の植生への影響は計り知れない。チガヤ群生地には侵入しづらいことが知られているが、木津川流域では本種の繁殖によってカワラサイコなどの希少種が大幅に減ってきている。					
⑦必要な防除対策	他上部の苳り取りと他の地下部の除去しか手はないが根絶は至難であろう。夏場の成長は特に速く、草刈り一か月後には再び開花し始める。種子の成熟状態での機械除草はかえって種子を散布しているのと同様であるため、開花時期を見極め結実前に刈り取ることが重要。完全除去のためには地表から30センチ程度の土壌入れ替えが必要である。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、長田武正「日本イネ科植物図譜」（平凡社、1989）、長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草」（全農教、1987）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	□IUCNワースト100、□日本生態学会ワースト100、□特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ノギナシセイバンモロコシ（ヒメモロコシ）	学名	<i>Sorghum propinquum f. muticum</i>	目科名	単子葉植物イネ科
	カテゴリー（2019）	被害甚大種	タイプ（2019）	Aa	国リストカテゴリー	その他の総合対策外来種
	カテゴリー（2005）	-	タイプ（2005）	A	原産地	地中海地方
	導入・侵入年代	1940年代	導入・侵入原因	牧草		
②分布範囲	全国	本州－九州				
	府内	舞鶴市、福知山市、綾部市、南丹市、亀岡市、京都市、久御山町、京田辺市、木津川市、南山				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/>生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/>農林水産業被害、 <input type="checkbox"/>人身・健康被害、 <input type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/>植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/>競合・駆逐、 <input type="checkbox"/>遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input checked="" type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input checked="" type="checkbox"/>定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input checked="" type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>被害が大きい、 <input type="checkbox"/>特殊性、 <input checked="" type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	セイバンモロコシと同様。草丈2.5mに達する大型の多年草。路傍、堤防、鉄道沿草地、海岸道路脇などに生える。葉は巾1～2cm、長さ20～70cm。種子から発芽後2年目から地下茎を伸ばし始め、そうすると茎を引き抜いても地下茎は地中に残り、除去は至難。					
⑤近似種との見分方	セイバンモロコシの一品種であり、同一群落中に出現することもある。生態的にも同様で、区別する必要はない。					
⑥被害状況	群生し大型であるため他の植生への影響は計り知れない。チガヤ群生地には侵入しづらいことが知られているが、木津川流域では本種の繁殖によってカワラサイコなどの希少種が大幅に減ってきている。					
⑦必要な防除対策	セイバンモロコシと同様。他上部の刈り取りと他の地下部の除去しか手はないが根絶は至難であろう。夏場の成長は特に速く、草刈り一か月後には再び開花し始める。種子の成熟状態での機械除草はかえって種子を散布しているのと同様であるため、開花時期を見極め結実前に刈り取ることが重要。完全除去のためには地表から30センチ程度の土壌入れ替えが必要である。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	-					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オオフサモ	学名	<i>Myriophyllum brasiliense</i>	目科名	双子葉植物綱 離弁花類 アリノトウグサ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	緊急対策外来種
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	ブラジル
	導入・侵入年代	大正時代	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	北海道ー沖縄				
	府内	京丹後市、舞鶴市、福知山市、綾部市、亀岡市、京都市、京田辺市、井手町、精華町、木津川				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input checked="" type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input checked="" type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input checked="" type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	池、河川、水路などの水辺に生える多年草。よく群生する。茎は水中を延び、節から水上茎を伸ばし、葉は羽状、白緑色。止水域や静水域では大繁殖することが多い。					
⑤近似種との見分方	在来種のフサモは雌雄同株、茎はオオフサモよりも細かい。					
⑥被害状況	水辺の他の植物に強い影響を及ぼす。					
⑦必要な防除対策	定期的な抜き取りが重要。茎の一部が流失すると、下流で根付いて再び成長する。そのため除去に際しては下流側にネットを設置して、慎重に回収する配慮が必要である。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	アレチウリ	学名	<i>Scios angulatus</i>	目科名	双子葉植物離弁花類ウリ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	緊急対策外来種
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1952年	導入・侵入原因	種子混入		
②分布範囲	全国	北海道－九州				
	府内	京丹後市、福知山市、綾部市、亀岡市、長岡京市、城陽市、京田辺市、精華町、木津川市、笠置町、南山城村				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input checked="" type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	草地を覆い、木に登り（10m以上）旺盛に繁茂する1年草。果実に長い棘が密生。荒地、河川敷、路傍などに多い。クズと違って秋の低温下でも成長するため、しばしばクズのうえに被さる。水湿地を好むが、24時間以上根部が水に浸ると枯れる。					
⑤近似種との見分方	今のところ他に似たものはない					
⑥被害状況	著しく植生への影響があり、堤防や路傍では植生を単純化させ、樹木も枯らすことがある。					
⑦必要な防除対策	短日性であるため、開花は8月中旬以降になる。花期や種子未熟期（9月上旬）までに刈り取るのが効果的である。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	エゾノギシギシ	学名	<i>Rumex obtusifolius</i>	目科名	双子葉植物離弁花類 タデ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	その他の総合対策 外来種
	カテゴリー (2005)	被害甚大種	タイプ (2005)	Aa	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	1909年北海道に帰化	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道ー沖縄				
	府内	福知山市、綾部市、南丹市、亀岡市、京都市、京田辺市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	休耕田、畦、路傍、河川敷など至るところで繁茂。					
⑤近似種との見分方	葉の下面脈上に突起毛、中は赤く染まる。花被片は卵形、下部に針状の突起がある。					
⑥被害状況	耕作地などで繁茂し害草になるほか、風媒花であるため希少種のマダイオウやキブネダイオウと簡単に交雑し、遺伝汚染をもたらす。					
⑦必要な防除対策	がっしりとした成株の根部は抜き難いため、小苗のうちの除去を心がける。結実前に花茎を切除することも、種子繁殖を防ぐうえで有効。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、北村四郎・村田源「原色日本植物図鑑草木Ⅱ」（保育社、1987）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ナガエツルノゲイトウ	学名	<i>Alternanthera philoxeroides</i>	目科名	双子葉植物離弁花類ヒユ科
	カテゴリー(2019)	被害甚大種	タイプ(2019)	Aa	国リストカテゴリー	緊急対策外来種
	カテゴリー(2005)	-	タイプ(2005)	-	原産地	熱帯アメリカ
	導入・侵入年代	1980年代後半?	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	本州（関東以西）－沖縄				
	府内	亀岡市、京都市、向日市、大山崎町、宇治市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input checked="" type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input checked="" type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	多年草で水湿地を好み開放水面に張り出すことが多いが、陸生の状態でも繁茂する。葉は対生し地表を這うか斜上し、途中から発根する。夏から秋にかけて葉腋から細い枝を出し、その先端に直径1.5センチほどの丸い花穂をつける。					
⑤近似種との見分方	ホソバツルノゲイトウが最も似ているが、全体に繊細で、水面に張り出すことはない。					
⑥被害状況	止水や静水地域では水面に広く張り出して占有するため、生物相が単純化する。繁殖力が強く、茎の断片からでも繁殖するため、除去作業によってかえって被害地が増えることがある。					
⑦必要な防除対策	原則として生植物の移動は禁止されているため、現地の岸から十分離れたところで乾燥させるか、深く穴を掘って埋め込む。除去にあたってま下流側もしくは周囲に目の細かいネットを張り巡らし、水流によって断片が流れ出さないように注意する。種子繁殖は知られていない。					
⑧改訂の理由	府内産確定					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ヨウシュヤマゴボウ	学名	<i>Phytolacca americana</i>	目科名	双子葉植物離弁花類ヤマゴボウ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害甚大種	タイプ (2005)	Aa	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	明治初期	導入・侵入原因	薬用		
②分布範囲	全国	小笠原を除く日本全土				
	府内	京丹後市、舞鶴市、福知山市、綾部市、京丹波町、南丹市、亀岡市、京都市、城陽市、京田辺市、精華町、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	至るところで群生し、やがて純大群落となる場合もある。大型多年草。とくに有機物を多く含む森林伐採跡地で群生する傾向がある。					
⑤近似種との見分方	ヤマゴボウ、マルミノヤマゴボウらの花序は直立するが、ヨウシュヤマゴボウの花序は下垂する。茎が赤みを帯びるのも特徴である。					
⑥被害状況	純群落を作った場合、他の在来種をよせつけない。					
⑦必要な防除対策	徹底した草刈り、特に種子を稔らせないこと。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、北村四郎・村田源「原色日本植物図鑑草木Ⅱ」（保育社、1987）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ワルナスビ	学名	<i>Solanum carolinense</i>	目科名	双子葉植物合弁花類ナス科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害甚大種	タイプ (2005)	Aa	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	明治末	導入・侵入原因	牧草に混入		
②分布範囲	全国	沖縄を含むほぼ全国				
	府内	京丹後市、舞鶴市、綾部市、京丹波町、南丹市、亀岡市、京都市、城陽市、京田辺市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、堤防、グランウンド、川原などの陽地に生える多年草、群生する。茎は斜上、星状毛と棘がある。花は淡紫色、地下茎でも繁殖しやっかいである。					
⑤近似種との見分方	キンギンナスビに似るが、これらの果実は平たく径3-4cm。ワルナスビの果実は球形。径1.5cm。又、茎・葉がヒラナスにも似る。しかしこれには棘が無い。					
⑥被害状況	大群落をなす。このため他の植生は破壊される。棘があって扱いにくく農地でもやっかいな存在となる。					
⑦必要な防除対策	根気よく地下茎を除去する必要がある。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	セイトカアワダチソウ (セイトカアキノキリンソウ)	学名	<i>Solidaga altissima</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー (2005)	被害甚大種	タイプ (2005)	Aa	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	明治時代	導入・侵入原因	観賞用(?)		
②分布範囲	全国	北海道ー琉球				
	府内	宮津市、福知山市、亀岡市、京都市、京田辺市、精華町、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/>生態系被害、 <input type="checkbox"/>農林水産業被害、 <input type="checkbox"/>人身・健康被害、 <input type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/>植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/>競合・駆逐、 <input type="checkbox"/>遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input checked="" type="checkbox"/>定着性が高い、 <input type="checkbox"/>環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/>被害が大きい、 <input type="checkbox"/>特殊性、 <input checked="" type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	路傍、荒地、休耕田、河川敷、車道の法面などの陽地に生え、草丈1.5～3mに及び高茎植物。多年草、地下茎で繁殖する。近年やや衰退の傾向にあるが、今でも河川敷に大群落をなしているところがある（福知山市大江町付近の由良川）					
⑤近似種との見分方	オオアワダチソウが似ているが、花期が早く7～9月頃に咲く。セイトカアワダチソウの花期は遅く10～11月。全体粗い毛が前者より、はるかに多い。この他カナダアキノキリンソウも府内に帰化している可能性があるが、これとの区別は難しい。					
⑥被害状況	晩秋の密源植物として人為的に広められたことがある。密生し純群落を成すので他の植生への影響は、計り知れない。日本の原風景への悪影響も甚大である。					
⑦必要な防除対策	開花時の薊り取りもある程度有効であろうが、地下茎を掘り取らねば効果は期待できない。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	メリケントキンソウ	学名	<i>Soliva sessilis</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー(2019)	被害甚大種	タイプ(2019)	Aa	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	-	タイプ(2005)	-	原産地	南アメリカ
	導入・侵入年代	1930年代	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	関東南部以西の本州、四国、九州、沖縄				
	府内	京都市、向日市、長岡京市、八幡市、宇治市、京田辺市ほか				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	日本では秋～春型の成長をする一年草。カミツレ類に似ているが小型で、見えるような地上茎はなく、 <input type="checkbox"/> ゼット型に育つ。春に開花し、刺を持った果実が初夏に完熟する。					
⑤近似種との見分方	マメカミツレに似ているがはるかに小型で、見えるような地上茎をもたないため、区別は容易である。					
⑥被害状況	初夏に熟す果実は上向きの刺を持ち、靴底などに刺さって運ばれる。芝地などに生えると、寝ころんだ時に背中に痛みを感じるほか、ペットの足や野球のボールに刺さり、血がにじむことがある。					
⑦必要な防除対策	都市公園や運動広場の常連で、春までに見つけて根ごと抜き取るのが最も効果的である。運動公園などでは表土ごと毎年冬に削り取る。芝地では抜き取りのほか、高温の湯をスポット的に注入する方法もある。草刈り機の使用は種子を拡散させるに等しく、逆効果といえる。靴底をチェックして種子を持ち込まない・持ち出さないという啓発も重要。（3-4月に成長調整物質のショートキープを散布すると選択的に枯れるという報告もある。）					
⑧改訂の理由	すでに都市部で繁殖					
⑨参考文献	清水ほか「日本帰化植物写真図鑑（Ⅱ）」（全農教）ほか、各地の自治体のHPがある。					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	アゾラ雑種系	学名	<i>Azolla cristata</i>	目科名	シダ類アカウキクサ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	緊急対策外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	A	原産地	交配種系はフィリピンはか
	導入・侵入年代	1990年代前半	導入・侵入原因	アイガモ農法でアイガモの餌用・肥料用・田のマルチング用として福岡県に導入された		
②分布範囲	全国	関東以西、四国・九州（沖縄除く）				
	府内	全域（標本から2000年ころには精華町や現木津川市山城町に入っていた）				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] ■生態系被害、 ■農林水産業被害、 □人身・健康被害、 □生活被害 [影響内容] □上位捕食者となる、 ■植生への影響、 ■競合・駆逐、 ■遺伝子かく乱、 □在来種への病気・寄生虫の媒介、 ■土壌・環境攪乱、 □希少種・固有種への影響 [性質特性] ■定着性が高い、 ■環境適応性が高い、 ■繁殖能力が高い、 ■拡散能力が高い [被害程度] ■対策の緊急性が高い、 ■被害が大きい、 □特殊性、 ■回復困難性					
④生態的特性	在来のオオアカウキクサに比べて暑さに強く、夏は緑色になって旺盛に生育する。ほぼ栄養繁殖で広がり、在来のオオアカウキクサを圧倒・駆逐する。冬になると全体に赤みを帯びるが、オオアカウキクサのように紫赤色にはならず、赤褐色のことが多い。水鳥の脚について容易に運ばれるため、侵入防除は困難					
⑤近似種との見分方	雑種アゾラ自体が数種の複合につけられた名であり、近似種を含めて互いの区別は難しいが、色や毛の性質が重要である					
⑥被害状況	田を含めた開放水域で水面を埋め尽くし、水中の植物プランクトンを壊滅させるほか、近似種の在来アカウキクサ類を絶滅させる。					
⑦必要な防除対策	酢酸を薄めて水面に散布することもあるが、すぐに復活することが多い。対処的に網ですくって回収する方法も採られる。天敵はミズマダラメイガ類による食害であり、自然に群生が消滅することもある。在来種であるオオアカウキクサが知られていない地域では、将来的には天敵を増やして散布する研究が望まれる。					
⑧改訂の理由	府内では雑種アゾラによって在来種のオオアカウキクサが激減したほか、水生生物相の単純化が加速してきている。					
⑨参考文献	環境省. 外来生物法ウェブサイト (Accessed on 2011-12-13) http://www.env.go.jp/nature/intro/ 自然環境研究センター (編著) (2008) 決定版 日本の外来生物. 平凡社, 東京 鈴木 (2001) 現場最前線での植物保全と遺伝子多様性. 矢原 (編) 「保全と復元の生物学」. 文一総合出版. pp.:81070 植村ほか (2010) 日本帰化植物写真図鑑 第2巻 Plant invader 500種. 全国農村教育協会, 東京. 角野康郎 (2014) 日本の水草水草図鑑、文一総合出版					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
(執筆者) 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オオカナダモ	学名	<i>Egeria densa</i>	目科名	単子葉植物トチカガミ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	A	原産地	南アメリカ
	導入・侵入年代	1940年代	導入・侵入原因	植物生理学の実験用として		
②分布範囲	全国	本州－九州				
	府内	綾部市、南丹市、亀岡市、京都市、向日市、京田辺市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	池、河川、水路などに生え、茎を水面になびかせる。常緑の多年草で日本にはみ株のみ。5～10月にかけて白色の花をつける。花弁3個、長さ9～11mm。種子による繁殖が出来ないため、栄養繁殖を行う。					
⑤近似種との見分方	別属のコカナダモに較べ茎・葉・花ら全て大きく、オオカナダモに似たものは他にない。					
⑥被害状況	細い水路などと覆い尽くすほど繁茂し、農作業の妨げとなっている。京都市の深泥池ではときに大発生し池底をヘドロ状にするため、稀少生物に大きな被害を与えている。					
⑦必要な防除対策	こまめに除去するしか手はない。ちぎれた枝から発根・生育するので除去するにも注意が必要。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 津軽俊介・光田重幸

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ミドリハカタカラクサ	学名	<i>Tradescantia fluminensis</i> 'Viridis'	目科名	単子葉植物ツユクサ科
	カテゴリー(2019)	被害危惧種	タイプ(2019)	Aa	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	-	タイプ(2005)	-	原産地	南アメリカ
	導入・侵入年代	昭和初期	導入・侵入原因	園芸観賞用		
②分布範囲	全国	本州以南				
	府内	府南部の都市部（亀岡市、京都市、宇治市、京田辺市）周辺の林内				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/>生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/>農林水産業被害、 <input type="checkbox"/>人身・健康被害、 <input type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/>植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/>競合・駆逐、 <input type="checkbox"/>遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input checked="" type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input checked="" type="checkbox"/>定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input checked="" type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>被害が大きい、 <input type="checkbox"/>特殊性、 <input type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	環境順応性が高く、とくに林（竹を含む）内で茎を伸ばして大繁殖し、しばしば林床植生を単純化させる。園芸改良雑種であるため、通常結実しない。					
⑤近似種との見分方	ノハカタカラクサは葉の裏面が紫色を帯び結実するが、本種は緑色で通常結実しない。					
⑥被害状況	府南部で林床植生が単純化する深刻な被害地が目立つ					
⑦必要な防除対策	園芸種は斑入りの可憐なものであるが、ときどき先祖返りの無斑シュートを伸ばす。それを野山に放棄することから繁殖するため、放棄しないよう周知徹底が必要である。本種は乾燥に強く、茎から容易に発根する。					
⑧改訂の理由	近年急速に広がってきており、甚大な被害地が増えてきている。					
⑨参考文献	清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教.2001）、 森昭彦. 帰化&外来植物 見分け方マニュアル950種.（秀和システム 2020.）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	マルバツユクサ	学名	<i>Commelina benghalensis</i>	目科名	単子葉植物ツユクサ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	関東以西の本州～沖縄、熱帯アジア
	導入・侵入年代	府内へは2000年頃	導入・侵入原因	農業用・園芸用堆肥に種子が混入？		
②分布範囲	全国	関東以西の本州～九州、沖縄（自生あり）、国内外来？として内陸部にも侵入				
	府内	農業用ハウス周辺を中心に、広くみられる。府南部では路傍や畑地、堤防付近に散発				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/>生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/>農林水産業被害、 <input type="checkbox"/>人身・健康被害、 <input type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/>植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/>競合・駆逐、 <input type="checkbox"/>遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input checked="" type="checkbox"/>定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>被害が大きい、 <input type="checkbox"/>特殊性、 <input checked="" type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	葉は鈍頭～円頭で尖らず、周辺が波打つ。花はツユクサよりずっと小さく、また淡色のことが多い。秋になると地下に閉鎖花をつけ、結実する。					
⑤近似種との見分方	近年この仲間には近似種がいくつも入ってきているが、本種の葉は丸く花も小さいので区別は容易である。					
⑥被害状況	府内ではまだ、目立った被害は報告されていない。					
⑦必要な防除対策	秋口に地下にできる閉鎖花由来の種子で繁殖することが多く、刈り取るなら夏までに。抜き取るのなら地下部の白い果実を切らないよう、散逸しないようにする必要があるが、現実的には困難である。					
⑧改訂の理由	農耕地周辺に逸出					
⑨参考文献	植村修二他『増補改訂 日本帰化植物写真図鑑 第2巻』（2015）、全農教					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	メリケンカルカヤ	学名	<i>Andropogon virginicus</i>	目科名	単子葉植物イネ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	その他の総合対策 外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	A	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1940年代	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	関東以西				
	府内	舞鶴市、福知山市、京丹波町、南丹市、亀岡市、京都市、長岡京市、精華町、木津川市、京田辺市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input checked="" type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input checked="" type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、草地、池端、市街地の空地、果樹園、農耕地、河川敷などのやや湿った陽地に生える多年草。稈は叢生し高さ50～90cm。穎果が熟すと白色の毛叢とともに風で散布される。					
⑤近似種との見分方	枯れる前に全草褐色帯微赤色となり株立ての茎（稈）上部や枝先から白い毛叢が見え特異の姿となる。これに似たものは他にない。					
⑥被害状況	群生し大群落をなす。姿形はやさしいが他の植物に与える影響は大なるものがある。					
⑦必要な防除対策	開花前の刈り取りはもちろん、地下部を掘り起こす必要があり、群生地では除去至難。重機が必要になる。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅲ」（全農教、1997）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、長田武正「日本イネ科植物図譜」（平凡社、1989）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	シナダレスズメガヤ	学名	<i>Eragrostis curvula</i>	目科名	単子葉植物イネ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	A	原産地	南アフリカ
	導入・侵入年代	1950年ごろ	導入・侵入原因	緑化用、砂防用		
②分布範囲	全国	北海道ー琉球				
	府内	福知山市、綾部市、南丹市、亀岡市、京都市、京田辺市、精華町、木津川市、笠置町				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input checked="" type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input checked="" type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input checked="" type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input checked="" type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、車道脇、山間の林道脇、河川敷などに生え、叢生し大株となる多年草。根生葉は長さ40～60cmと長く斜面を覆う。耐乾性があり湿地をきらう。各地で高速道路の工事が、さかんなころ法面に吹き付けられた。そのころウィーピングラブグラスの名で有名となった。					
⑤近似種との見分方	この属では他に似たものはない。					
⑥被害状況	群生地では他の植生を圧迫する。河川敷では水流を弱め、泥やシルトを堆積させるため、イカルチドリなどの営巣ができなくなるほか、砂礫地に生える稀少植物に悪影響がある。農林関係での被害は今のところ報告されていない。					
⑦必要な防除対策	根ごと掘取る。花期の刈り取り。河川敷に生えるものは大株になり群生することが多いので、除去には重機が必要。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅲ」（全農教、1997）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、長田武正「日本イネ科植物図譜」（平凡社、1989）、長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ネズミムギ	学名	<i>Lolium multiflorum</i>	目科名	単子葉植物イネ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	産業管理外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	A	原産地	ヨーロッパ・北西アフリカ
	導入・侵入年代	明治初期	導入・侵入原因	牧草		
②分布範囲	全国	北海道～琉球				
	府内	京丹後市、福知山市、綾部市、南丹市、亀岡市、京都市、八幡市、久御山町、京田辺市、木津				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/>生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/>農林水産業被害、 <input type="checkbox"/>人身・健康被害、 <input type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/>植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/>競合・駆逐、 <input type="checkbox"/>遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input checked="" type="checkbox"/>定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input checked="" type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>被害が大きい、 <input type="checkbox"/>特殊性、 <input type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	休耕田、農作業道、用水路脇、車道脇、林道脇、堤防草地、河川敷などの陽地に生える1～2年草。叢生し高さ1m前後になる。しばしば群生。					
⑤近似種との見分方	ホソムギと似ているがネズミムギは1小穂に8～20小花があり第2苞穎は小穂の長さの2分の1以上。ホソムギは1小穂に10以下の小花があり、苞穎の長さは小穂の3分の1～4分の3。またホソムギの小花は無芒であるが、ネズミムギの小花は5～12mmの芒がある。					
⑥被害状況	群生して他の植生を排除する。ムギ畑では、これが生えると減収するという。					
⑦必要な防除対策	定期的な草刈り。秋～春型の成長をするため、夏から初秋に草刈りすると種子が一斉に発芽して大きく育ってしまう。初期発芽を抑えるため、本種の例年の群生地では草刈りを秋の後半にするのが望ましい。5月から結実し始めるため、それ以前の春に草刈りして種子を作らせないことも重要になる。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅲ」（全農教、1997）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、長田武正「日本イネ科植物図譜」（平凡社、1989）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	キシユウスズメノヒエ	学名	<i>Paspalum distichum</i>	目科名	単子葉植物イネ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	その他の総合対策 外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	A	原産地	世界の熱帯
	導入・侵入年代	1920年代	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	本州（関東以西）－琉球				
	府内	亀岡市、京都市、向日市、八幡市、京田辺市、城陽市				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] ■生態系被害、■農林水産業被害、□人身・健康被害、□生活被害</p> <p>[影響内容] □上位捕食者となる、■植生への影響、■競合・駆逐、□遺伝子かく乱、 □在来種への病気・寄生虫の媒介、□土壌・環境攪乱、■希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] ■定着性が高い、■環境適応性が高い、■繁殖能力が高い、■拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] ■対策の緊急性が高い、□被害が大きい、□特殊性、■回復困難性</p>					
④生態的特性	田の畦、休耕湿田、用水路の縁及び水をおとした用水路内、河川敷、池の岸辺など水辺や湿地に多い。茎は這い枝を立てる。水路では茎（稈）は水面に浮遊。花序の総は短く普通2個。					
⑤近似種との見分方	チクゴスズメノヒエが形態・生態ともに最も似ているが、これはやや大型で葉鞘や節は多毛。キシユウスズメノヒエは葉鞘の口部に毛がある外無毛。					
⑥被害状況	暖地では水田に侵入し問題となっている。稈（茎）が這い節々から根を下ろすので除去が困難。水面に浮いた状態でも広がるため、湿地や岸近くの植生を単純化させる。					
⑦必要な防除対策	水面に広がったものは刈り取り除去できるが、陸生のは根ごと掘り取る必要がある。少しでも根のついた茎が残ると再生するため、完全な除去は困難。生えるところが湿地～水湿地であるだけに、安易な除草剤の使用は他の生物への悪影響が大きい。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅲ」（全農教、1997）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、長田武正「OD版日本イネ科植物図譜増補」（平凡社、2002）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	□IUCNワースト100、□日本生態学会ワースト100、□特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	タチスズメノヒエ	学名	<i>Paspalum urvillei</i>	目科名	単子葉植物イネ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	その他の総合対策 外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	A	原産地	南アメリカ
	導入・侵入年代	1958年確認	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	本州（関東以西）－琉球				
	府内	綾部市、亀岡市、京都市、長岡京市、八幡市、宇治市、京田辺市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/>生態系被害、 <input type="checkbox"/>農林水産業被害、 <input type="checkbox"/>人身・健康被害、 <input type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/>植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/>競合・駆逐、 <input type="checkbox"/>遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input checked="" type="checkbox"/>定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input checked="" type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/>被害が大きい、 <input type="checkbox"/>特殊性、 <input type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	<p>叢生する多年草。路傍、荒地、農耕地、堤防、河川敷などに生える。下部の葉鞘は中ほどまで有毛。花序は直立する10～20個の総からなる。小花の背面は全面に長毛が多い。</p>					
⑤近似種との見分方	<p>稈（茎）を直立させるこの仲間にアメリカスズメノヒエとシマスズメノヒエがあるが、この2種には花序の総が明らかに少なくタチスズメノヒエのように直立もしない。</p>					
⑥被害状況	<p>群生し他の植生を駆逐する。京都府内では見かけないが暖地では畑の害草となる。温暖化傾向の折り、今後の推移に要注意。2010年頃から府内でも広くみられるようになり、現在では同じ外来植物であるシマスズメノヒエよりも多くなって来ている。</p>					
⑦必要な防除対策	<p>出穂期の草刈りが拡散を防ぐ手だてとして有効であろうが、広い範囲となれば至難である。根が深く張るので、剣先スコップなどで掘り取る。他の生物にも影響が出るため、安易な除草剤の使用は避けられたい。</p>					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	<p>清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社.2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草」（全農教、1987）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教.2001）、長田武正「日本イネ科植物図譜」（平凡社、1989）</p>					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<p><input type="checkbox"/>IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/>日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/>特定外来生物（外来生物法）、</p>					
						（執筆者） 津軽俊介・光田重幸

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ネズミホソムギ (ホソムギ×ネズミムギ)	学名	<i>Lorium × hybridum</i>	目科名	単子葉植物イネ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ab	国リスト カテゴリー	産業管理外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	A	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	不明	導入・侵入原因	牧草		
②分布範囲	全国	不明				
	府内	京丹後市、亀岡市、京都市、京田辺市、城陽市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input checked="" type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、荒地、農耕地、堤防、河川敷、砂丘後背地の砂地などの陽地に生える。本種はネズミムギとホソムギとの雑種で両親とともに群生する。（原産地のヨーロッパでも普通に雑種として知られ、ネズミムギやホソムギと同時に日本に入ってきたとみられるが、はっきりした証拠はない。）					
⑤近似種との見分方	雑種であるから、それぞれの親に似るものがあり同定はかなり難しい。					
⑥被害状況	両親らと群生し、かなり大きな群落をつくることもある。他の植生を排除してしまう。					
⑦必要な防除対策	定期的な草刈り。秋～春型の成長をするため、夏から初秋に草刈りすると種子が一斉に発芽して大きく育ってしまう。初期発芽を抑えるため、本種の例年の群生地では草刈りを秋の後半にするのが望ましい。5月から結実し始めるため、それ以前の春に草刈りして種子を作らせないことも重要になる。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社.2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅲ」（全農教、1997）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教.2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	イヌムギ	学名	<i>Bromus catharticus</i>	目科名	単子葉植物イネ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	B	原産地	南アメリカ
	導入・侵入年代	1880年代	導入・侵入原因	牧草		
②分布範囲	全国	北海道ー沖縄				
	府内	舞鶴市、綾部市、亀岡市、京都市、久御山町、八幡市、京田辺市、精華町、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/>生態系被害、 <input type="checkbox"/>農林水産業被害、 <input checked="" type="checkbox"/>人身・健康被害、 <input type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/>植生への影響、 <input type="checkbox"/>競合・駆逐、 <input type="checkbox"/>遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input checked="" type="checkbox"/>定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input checked="" type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>被害が大きい、 <input type="checkbox"/>特殊性、 <input type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	路傍、空地、畑、畦、河川敷などに生える2～多年草。叢生し、やや大型となり草丈1m以上に達する。小穂は長さ2～3cm、扁平。					
⑤近似種との見分方	ヤクナガイヌムギと似ているがこれの外穎には長さ2～12mmの茎がある。イヌムギの外穎の茎は長さ2～3mmと短いので区別できる。					
⑥被害状況	荒地や河川敷などで時に群生し他の植生を圧倒する。手を抜けば畑や庭へ侵入する。					
⑦必要な防除対策	根ごと掘り取る。開花期の刈り取り。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社.2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅲ」（全農教、1997）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教.2001）、長田武正「日本イネ科植物図譜」（平凡社、1989）、長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	カモガヤ	学名	<i>Dactylis glomerata</i>	目科名	単子葉植物イネ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	産業管理外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	B	原産地	ヨーロッパ-西アジア
	導入・侵入年代	文久年間及び明治初期	導入・侵入原因	牧草		
②分布範囲	全国	北海道-沖縄				
	府内	京丹後市、舞鶴市、京丹波町、南丹市、亀岡市、八幡市、京田辺市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、林道脇、堤防、河川敷などの陽地に生え叢生する多年草。草丈50~130cmに達する。稈頂や枝先に卵形、長卵形、巾18mm前後、長さ25mm前後の小穂をつける。					
⑤近似種との見分方	この属ではカモガヤのみが帰化し、他に似たものはない。					
⑥被害状況	トウモロコシ、ムギ類、果樹園に侵入し雑草として、やっかいになるという。					
⑦必要な防除対策	多年草であるから地下部を除去することと花期に刈り取ること。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅲ」（全農教、1997）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、長田武正「日本イネ科植物図譜」（平凡社、1989）、長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ホソムギ	学名	<i>Lolium perenne</i>	目科名	単子葉植物イネ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	産業管理外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	A	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	明治初期	導入・侵入原因	牧草		
②分布範囲	全国	北海道～琉球				
	府内	宮津市、舞鶴市、亀岡市、京都市、京田辺市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	ネズミムギと同様である。					
⑤近似種との見分方	ネズミムギと外見がそっくりであるがこれの小穂はネズミムギより少なく普通10個以下で芒もないことで区別できる。ただし、両者の雑種・ネズミホソムギは両者の形質を有し、中間的なものが多く、それとの区別は難しい。					
⑥被害状況	ネズミムギと同様である。					
⑦必要な防除対策	ネズミムギと同様である。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社.2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草」（全農教、1987）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教.2001）、長田武正「日本イネ科植物図譜」（平凡社、1989）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	キショウブ	学名	<i>Iris pseudoacorus</i>	目科名	単子葉植物アヤメ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	B	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	明治30年ごろ	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	北海道～九州				
	府内	綾部市、亀岡市、標本採集例は少ないが、もっと広域に分布すると思われる。				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input checked="" type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	川、池の岸辺、時に山間車道脇の湿ったところなどに生える多年草。横にはう地下茎がある。花は黄色で美しい。					
⑤近似種との見分方	アヤメ属の植物で日本には黄色の花を咲かせるものは他にない。					
⑥被害状況	群生するので在来のカキツバタ（アヤメ属）を圧迫し、また他の植生への悪影響大である。府内で交雑の報告例は聞かないが、この仲間には浸透交雑が知られており、注意を要する。					
⑦必要な防除対策	根ごと（地下茎も）掘り取るのがベストであるが作業は困難。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ハマスゲ	学名	<i>Cyperus rotundus</i>	目科名	単子葉植物カヤツリグサ科
	カテゴリー(2019)	被害危惧種	タイプ(2019)	Ba	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	-	タイプ(2005)	-	原産地	本州～沖縄～熱帯各地
	導入・侵入年代	不明	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	本州、四国、九州、沖縄				
	府内	標本は少ないが、畑地を中心に府内全域に分布していると推測				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] ■生態系被害、 ■農林水産業被害、 □人身・健康被害、 □生活被害</p> <p>[影響内容] □上位捕食者となる、 ■植生への影響、 □競合・駆逐、 □遺伝子かく乱、 □在来種への病気・寄生虫の媒介、 ■土壌・環境攪乱、 □希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] ■定着性が高い、 ■環境適応性が高い、 ■繁殖能力が高い、 ■拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] ■対策の緊急性が高い、 ■被害が大きい、 □特殊性、 ■回復困難性</p>					
④生態的特性	<p>湿りがちの土壌を好む多年草で、冬には地上部が枯れることが多いが、地下に走出枝や塊茎を張り巡らせて繁殖する。「スゲ」の名前がついているが、スゲ属ではなくカヤツリグサ属で、茎に断面は三角形。変異が多く、近年広がっているものは国内外来か国外起源がよくわかっていない。</p>					
⑤近似種との見分方	ハマスゲの花序全体は茶褐色に見え、黄色いキハマスゲ（シヨクヨウガヤツリ）と容易に区別できる。					
⑥被害状況	耕作地でなければ除草剤を使うことも選択肢の一つであるが、硬めの厚い黒色マットで発生地を数年の間覆う方法が最もラクで確実。スコップなどで地面を20センチ以上掘り下げ塊茎を除去すると再び耕作できるようになるが、数年でもとの状態に戻ることが多い。					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	一部は確実に国内外来種					
⑨参考文献	北村四郎・村田源・小山鐵夫『原色日本植物図鑑 草本編(Ⅲ)・単子葉類（改定49刷）』（1987）：保育社 武田薬報編集係編(1994)『薬用植物』：植村修二他『増補改訂 日本帰化植物写真図鑑 第2巻』（2015）、全農教					
⑩特記事項 ※該当にチェック	□IUCNワースト100、 □日本生態学会ワースト100、 □特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	イタチハギ（クロバナエンジュ）	学名	<i>Amorpha fruticosa</i>	目科名	双子葉植物離弁花類マメ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	アメリカ
	導入・侵入年代	大正時代初頭	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	北海道ー沖縄				
	府内	京丹後市、舞鶴市、綾部市、京丹波町、南丹市、亀岡市、京都市、大山崎町、京田辺市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	落葉低木、河川敷、海岸、山地の裸地など陽地に生え、しばしば群生する。花は暗ムラサキ色、果実には腺が多い。					
⑤近似種との見分方	他に似たものはない。					
⑥被害状況	在来種への圧迫。					
⑦必要な防除対策	果実が熟す前に株ごとに除去。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	アレチヌスビトハギ	学名	<i>Desmodium paniculatum</i>	目科名	双子葉植物離弁花類マメ科
	カテゴリー(2019)	被害危惧種	タイプ(2019)	Aa	国リストカテゴリー	その他の総合対策外来種
	カテゴリー(2005)	被害危惧種	タイプ(2005)	Aa	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1940年代	導入・侵入原因	不明だが、旅行者の衣類に付着して入ったと思われる		
②分布範囲	全国	北海道、関東以西				
	府内	舞鶴市、福知山市、綾部市、亀岡市、京都市、京田辺市ほか				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input checked="" type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	人の衣服や動物に付着し、繁殖力旺盛。果実は3-5個の小節葉からなる。多年草。					
⑤近似種との見分方	アメリカヌヒビトハギ、イリノイヌスビトハギなどが日本に帰化しており、その区別は難しい。					
⑥被害状況	繁殖力が強いめしばしば群生し、在来の植生を圧迫する。					
⑦必要な防除対策	多年草であるため、地上部の刈り取りだけでは根絶できない。初秋の開花時頃に根ざわから刈り取れば、その年の種子は激減する。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	コメツブツメクサ	学名	<i>Trifolium dubium</i>	目科名	双子葉植物離弁花類 マメ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	ヨーロッパ、西アジア
	導入・侵入年代	1935年初見	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道ー沖縄				
	府内	京丹後市、福知山市、宮津市、綾部市、京丹波町、亀岡市、京都市、八幡市、京田辺市、精華町、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	市街地、河川敷、農作業道、荒地、造成地など陽地に生え、茎は平状又は直立、仲間が多い。					
⑤近似種との見分方	外見は別属のコメツブウマゴヤシに似る。果実は熟しても花被に包まれている。クスダマツメクサとは、花序や花が小ぶりであるので区別できる。					
⑥被害状況	しばしば、群生するため在来種への影響大。					
⑦必要な防除対策	一年草のため、結実前の刈り取りや全草除去が効果的である。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、北村四郎・村田源「原色日本帰化植物図鑑 木本Ⅰ」（保育社、1989）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ムラサキツメクサ	学名	<i>Trifolium pratense</i>	目科名	双子葉植物離弁花類 マメ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	明治初頭	導入・侵入原因	牧草に輸入		
②分布範囲	全国	北海道ー沖縄				
	府内	京丹後市、京丹波町、亀岡市、久御山町、京田辺市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	市街地、河川敷、農地、路傍などの陽地に生える多年草。茎は直立-斜上。花は薄紅紫色。まれに白色。葉の中央部に逆V字の紋がある。マメ科であり根粒菌で遊里窒素を固定するため、やせ地でも旺盛に繁殖する。					
⑤近似種との見分方	本種は花序の直下に一對の葉がある。					
⑥被害状況	しばしば群生し、他の草を圧迫する。マメ科であるためやせ地に強く、堤防などで繁殖すると土が富栄養気味になり、ミミズやモグラが繁殖する。それが堤防決壊の遠因になる。					
⑦必要な防除対策	堤防斜面などで大繁殖が見られる場合は、地下部を含めて抜き捨てる。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、佐竹義輔他著「日本の野生植物（草本Ⅱ）」（平凡社、2003）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	シロツメクサ	学名	<i>Trifolium repens</i>	目科名	双子葉植物離弁花類 マメ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	ヨーロッパ、アフリカ、西アジア
	導入・侵入年代	1846年頃	導入・侵入原因	詰草（梱包材）として渡来		
②分布範囲	全国	北海道ー沖縄				
	府内	福知山市、綾部市、南丹市、亀岡市、京都市、京田辺市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/>生態系被害、 <input type="checkbox"/>農林水産業被害、 <input type="checkbox"/>人身・健康被害、 <input type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/>植生への影響、 <input type="checkbox"/>競合・駆逐、 <input type="checkbox"/>遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input type="checkbox"/>定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/>被害が大きい、 <input type="checkbox"/>特殊性、 <input type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	茎は匍匐し、切々から発根。花序は柄は長く直立。茎が長く這って大群生することがある。					
⑤近似種との見分方	ツメクサダマシの形状がシロツメクサに似るも、前者は花序の直下に総包があるので区別できる。なお、ツメクサダマシは近畿地方での記録はない。					
⑥被害状況	ほぼ、府内全域に繁茂していると思われる。大群生するために、堤防などではミミズ・モグラが増え、堤防決壊の遠因になるほか、その場所の植物種の多様性を著しく低下させる。					
⑦必要な防除対策	茎の切れ端からも再生し、多年草であるため、完全除去は困難。夏の高温時に表土ごと削り取り、乾燥させるのが効果的である。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、北村四郎・村田源「原色日本帰化植物図鑑 木本Ⅰ」（保育社、1989）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、佐竹義輔他著「日本の野生植物（草本Ⅱ）」（平凡社、2003）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	キダチコマツナギ (トウコマツナギ)	学名	<i>Indigofera bungeana</i>	目科名	双子葉植物離弁花 類マメ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	中国など
	導入・侵入年代	1980年代後半	導入・侵入原因	砂防緑化用（吹き付け種子）		
②分布範囲	全国	関東以西の本州～沖縄（?）				
	府内	南丹市と亀岡市に多いが、実際にはもっと広く侵入していると思われる				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input checked="" type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input checked="" type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	最大で高さ4mになる中高木。枝先の特徴は在来のコマツナギと大差ないが、在来のものはなかば地を這うように育つ。葉は奇数羽状複葉で、小葉は7～13枚、長楕円形で、長さ0.8～1.5cmになり、コマツナギとはほとんど変わらない。葉腋に長さ4～10cmの総状花序をだし、淡紅紫色で、長さ4～5mmの蝶形花をつける。果実は円柱状、長さ25～30mmで、花梗は細く下垂する。					
⑤近似種との見分方	在来のコマツナギはなかば地を這うように育つため、樹高は1m以下。					
⑥被害状況	やせ地でもよく育つが、根粒菌によって窒素化合物が蓄積され、かつ密集して育つため、植物種の多様性が著しく低下する。在来のコマツナギとの間に種子ができるため、遺伝子汚染も懸念される。					
⑦必要な防除対策	一度窒素化合物が蓄積された土壌では、本来の植生の回復は至難である。また、在来のものと交雑する植物種は、野外の広範な場所に植えるべきではない。地表近くで切り戻して、低木状に仕立て直す必要がある。					
⑧改訂の理由	砂防植栽から逸出					
⑨参考文献	植村修二ほか「日本帰化植物写真図鑑第2巻」（2010）全農教。 吉田寛・森本幸裕「法面緑化における中国産コマツナギと常緑広葉樹の混播に関する研究」（2005）日本緑化工学会誌 31（2）：269～277					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	コメツブウマゴヤシ	学名	<i>Medicago lupulina</i>	目科名	双子葉植物離弁花類 マメ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	江戸時代	導入・侵入原因	牧草		
②分布範囲	全国	北海道ー沖縄				
	府内	京丹後市、舞鶴市、綾部市、京田辺市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、荒地、河川敷、造成地などの陽地に生え、茎は平伏または斜上。果実は黒熟し曲線の隆起脈がある。					
⑤近似種との見分方	外見がよく似たコメツブツメクサは果実が熟しても花被につつまれているが、コメツブウマゴヤシは果実の熟期に花被は脱落。					
⑥被害状況	府内では個体数も少なく、被害は報告されていない。					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）、清水他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ウマゴヤシ	学名	<i>Medicago polymorpha</i>	目科名	双子葉植物離弁花類マメ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	ヨーロッパ南部-地中海
	導入・侵入年代	江戸時代初期	導入・侵入原因	牧草		
②分布範囲	全国	北海道-沖縄				
	府内	亀岡市、大山崎町、八幡市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	海岸、河川敷、荒地、路傍などの陽地に生える一年草。茎は平伏又は斜上。					
⑤近似種との見分方	果実は渦巻状に巻き、そのふちに先の曲がった棘が顕著。					
⑥被害状況	ときに群生し、他の「種」を圧迫する。しかし府内ではいまのところ、問題にするような状況には至っていない。					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）、清水他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ナヨクサフジ	学名	<i>Vicia dasycarpa</i> <i>var.glabrescens</i>	目科名	双子葉植物離弁花類 マメ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	産業管理外来種
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	B a	原産地	ヨーロッパ、西アジア
	導入・侵入年代	1943年ごろ	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道ー沖縄				
	府内	京丹後市、綾部市、京都市、久御山町、京田辺市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	秋～春型の成長をするツル性の一年草。群生する。成長力旺盛で、繁るとその下は暗くなり、他の植物が生えられないほどになる。					
⑤近似種との見分方	クサフジ、ピロードクサフジに似るが、前者とは花柄がガクの基部につかずやや内側につくこと。後者のガクは多毛であるが、ナヨクサフジのガクは無毛であることで区別。なお、クサフジ（在来）は京都府内では知られておらず、ピロードクサフジ（帰化）も同様である。					
⑥被害状況	府内では局地的に繁茂、生育地では他の在来種を圧迫。					
⑦必要な防除対策	草刈りをまめに行うしかない。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、佐竹義輔他著「日本の野生植物（草本Ⅱ）」（平凡社、2003）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ハリエンジュ (ニセアカシア)	学名	<i>Robinia pseudoacacia</i>	目科名	双子葉植物離弁花 類マメ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	産業管理外来種
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	アメリカ
	導入・侵入年代	1875年ごろ	導入・侵入原因	庭木、街路樹、砂防、飼料		
②分布範囲	全国	日本全土				
	府内	京丹後市、京丹波町、亀岡市、京田辺市、宇治田原町、精華町				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input checked="" type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input checked="" type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	落葉高木、根から芽をだし繁殖するため根絶は困難。花は白色、佳香、蜜源となる。花は食用にも。					
⑤近似種との見分方	枝に棘のあるものをハリエンジュ（又はニセアカシア）といい、棘の無い者をトゲナシハリエンジュという。					
⑥被害状況	京丹後市久美浜町箱石海岸では、根から出た若木にすさまじい棘があり、手入れ中除去を困難にしている。クロマツ林の維持に支障をきたす。					
⑦必要な防除対策	根気よく伐採するしかない。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	北村四郎・村田源「原色日本帰化植物図鑑 木本Ⅰ」（保育社、1989）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ムラサキカタバミ	学名	<i>Oxalis corymbosa</i>	目科名	双子葉植物離弁花類カタバミ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	南アメリカ
	導入・侵入年代	江戸時代	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	関東－西日本（沖縄除く）				
	府内	福知山市、亀岡市、京都市、城陽市、京田辺市、井手町、精華町、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input checked="" type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	地下に鱗茎があり、花期に小鱗茎を多数つけ、旺盛に繁殖する。					
⑤近似種との見分方	仲間が多数帰化しており、地上部での区別はやや難しい。上記地下部の形態は区別に役立つ。					
⑥被害状況	かつて畑地の侵入で問題になったことがある。地下の小鱗茎は外れやすく根絶はむずかしい。不稔性のため結実せず、土を動かさなければ実害はほとんどない。					
⑦必要な防除対策	見つけ次第地下部を含めて丁寧に掘り取り抜き捨てる					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、北村四郎・村田源「原色日本帰化植物図鑑 木本Ⅰ」（保育社、1989）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、佐竹義輔他著「日本の野生植物（草本Ⅱ）」（平凡社、2003）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オッタチカタバミ	学名	<i>Oxalis stricta</i>	目科名	双子葉植物離弁花類カタバミ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1965年初見	導入・侵入原因	駐留米軍の荷物に混在説がある		
②分布範囲	全国	本州－九州（北部）				
	府内	南丹市、亀岡市、京都市、大山崎町、宇治市、木津川市、精華町、和束町				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、空地、河川敷などに生える多年草。根茎は地下に浅く横走り、地上茎は直立し、太く長い。					
⑤近似種との見分方	よく似たカタバミ（在来）とは？葉が卵形、茎が太く長いこと、茎上部の節から2本の葉を出し、節間がつまっていることも区別の着眼点である。					
⑥被害状況	河川敷の裸地では群生。従って今のところ大きな影響はない。しかし田の畦にも侵入してくるのをみかけるので要注意。					
⑦必要な防除対策	結実前に抜き捨てる					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	コニシキソウ	学名	<i>Chamaesyce maculata</i>	目科名	双子葉植物離弁花類 トウダイグサ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1895年頃	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道ー沖縄				
	府内	京丹後市、京丹波町、亀岡市、京都市、長岡京市、城陽市、京田辺市、精華町、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	茎は匍匐性、葉の中央部に濃赤褐色の斑紋がある。					
⑤近似種との見分方	在来種のコニシキソウによく似るが、コニシキソウの葉には斑紋がない。					
⑥被害状況	しばし群生し、他の草木を圧迫する。					
⑦必要な防除対策	種子拡散前の除草。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、北村四郎・村田源「原色日本帰化植物図鑑 木本Ⅰ」（保育社、1989）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、佐竹義輔他著「日本の野生植物（草本Ⅱ）」（平凡社、2003）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オオニシキソウ	学名	<i>Chamaesyce nutans</i>	目科名	双子葉植物離弁花類 トウダイグサ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1904年ころ	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	本州－九州				
	府内	京丹後市、宮津市、舞鶴市、綾部市、福知山市、京丹波町、南丹市、亀岡市、京都市、長岡京市、向日市、大山崎町、京田辺市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	茎は斜上一直立。全体大型の一年草。路傍、荒地、河川敷など人為的な陽地に生える。					
⑤近似種との見分方	ニシキソウ、コニシキソウなどは地上には平伏、オオニシキソウはほぼ直立する。茎、葉は前二種よりはるかに大型。					
⑥被害状況	しばし群生。在来種への圧迫が懸念される。					
⑦必要な防除対策	よく開花結実するので、種子の拡散を防ぐ。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、北村四郎・村田源「原色日本帰化植物図鑑 木本Ⅰ」（保育社、1989）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、佐竹義輔他著「日本の野生植物（草本Ⅱ）」（平凡社、2003）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ニシキソウ	学名	<i>Chamaesyce humifusa</i>	目科名	双子葉植物離弁花類 トウダイグサ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	アジアの熱帯～亜熱帯 に広く分布
	導入・侵入年代	不明	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	本州～沖縄				
	府内	不明				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	夏場を中心に生育する一年草。茎を切ると白い乳液が出る。葉は対生し長さ5～10mm、幅2～mmで、円-鈍頭。表面に斑紋はない。					
⑤近似種との見分方	コニシキソウが最も似ている。コニシキソウの葉面には通常紫赤色がかった斑紋があるが、本種にはない。					
⑥被害状況	コニシキソウに比べて本種は弱弱しく、近年ほとんど見かけることもなくなった。					
⑦必要な防除対策	なし					
⑧改訂の理由	府内産確定					
⑨参考文献	「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）、清水他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ハイニシキソウ	学名	<i>Chamaesyce prostrata</i>	目科名	双子葉植物離弁花類トウダイグサ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	暖帯～熱帯アメリカ
	導入・侵入年代	1960年代	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	関東地方以西の本州、四国、九州、沖縄				
	府内	標本が少なく、よくわからない。府内では道端や畑で散見する程度				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	春～秋型の成長をする小さな一年草。茎は地を這って広がり、赤色を帯び、ときに緑色、伏毛が生える。葉は長さ4～8mm、低い鋸歯縁、斑紋がなく、葉表には毛がないが、茎頂に近い葉の縁に毛があり、葉裏には毛がない。杯状花序の腺体は赤色、付属体は淡紅色、小さく縁取りのようで目立たない。果実は長さ約1.5mmの3稜形であり、稜付近だけに白毛が生える。種子は長さ約0.9mmの4稜形、不規則な横しわがある。					
⑤近似種との見分方	在来種のニシキソウは毛がまばらで、果実は無毛。コニシキソウは葉に黒い斑紋があり、果実の全面に伏毛が生える。					
⑥被害状況	府内ではまとまって発生する事例が知られておらず、道端や畑に散見する程度である。					
⑦必要な防除対策	一年草であるため、開花期に入る夏場までに抜いて除去する。					
⑧改訂の理由	府内産確定					
⑨参考文献	長田『原色日本帰化植物図鑑』（1976）、保育社；清水ほか「日本帰化植物写真図鑑」（2001）、全農教；清水ほか『日本の帰化植物』（2003）、平凡社					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ホソバヒメミソハギ	学名	<i>Ammannia coccinea</i>	目科名	双子葉植物離弁花類ミソハギ科
	カテゴリー(2019)	被害危惧種	タイプ(2019)	Aa	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	被害危惧種	タイプ(2005)	Aa	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1952年	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	本州中部ー沖縄				
	府内	京丹後市、舞鶴市、福知山市、南丹市、亀岡市、京都市、長岡京市、宇治田原町、精華町、京田辺市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input checked="" type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	水田、休耕田、河畦などの陽地に生える一年草。しばしば群生。					
⑤近似種との見分方	在来種のヒメミソハギに似るが、残存するガクは果実と同長。葉は大きく、基部の張り出しも大きい。					
⑥被害状況	因果関係はわからないが、本種の勢力拡大に伴い、在来のヒメミソハギが衰退。近年はほとんどみかけなくなった。					
⑦必要な防除対策	発芽率100%という（世界の雑草Ⅱ p76）から防除は困難。ただ、耕作中の水田では休耕田ほど株は多くないので、そこに防除のヒントがあるように思う。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	メマツヨイグサ (アレチマツヨイグサ)	学名	<i>Oenothera biennis</i>	目科名	双子葉植物離弁花類アカバナ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1955年頃	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道－九州				
	府内	京丹後市、与謝野町、宮津市、亀岡市、京都市、京田辺市、精華町				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、荒地、河川敷、海岸砂地などの陽地に生える大型の2年草。しばしば群生。花は径1.5－3cm。					
⑤近似種との見分方	オオマツヨイグサによく似るが、こちらは花卉の長さが3.5－5cmに及び。					
⑥被害状況	大型であるため、群生すれば他の草を圧倒する。					
⑦必要な防除対策	除草するしかない。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	カラシナ	学名	<i>Brassica juncea</i>	目科名	双子葉植物離弁花類 アブラナ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	その他の総合対策 外来種
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	ユーラシア
	導入・侵入年代	明治以前	導入・侵入原因	食用		
②分布範囲	全国	北海道ー沖縄				
	府内	福知山市、綾部市、亀岡市、京都市、大山崎町、八幡市、京田辺市、宇治田原町、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	栽培から逸出し、河川敷にときとして大群生をなす。					
⑤近似種との見分方	河川敷に群生するセイヨウアブラナとはカラシナの茎上部の葉は有柄、ときに無柄であるが茎を抱かない。セイヨウアブラナは無柄で茎を抱く。					
⑥被害状況	在来種への圧迫。堤防や草地の富栄養化で植生が単調になるほか、ミミズやモグラの増加で堤防決壊の遠因になる。					
⑦必要な防除対策	結実前の草刈り。発芽は8月後半に多いため、9月上旬ころ抜くと効果的である。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）、清水他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ミチタネツケバナ	学名	<i>Cardamine hirsuta</i>	目科名	双子葉植物離弁花類 アブラナ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	1990年代初頭	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道一本州				
	府内	京丹後市、舞鶴市、宮津市、福知山市、綾部市、南丹市、京丹波町、亀岡市、京都市、大山崎町、八幡市、京田辺市、宇治田原町、木津町				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input checked="" type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍だけでなく攪乱地や畑にも生えるが、水湿地には侵入しない。花（果）時にロゼッタが残存、株立、一時猛烈な繁殖力を見せたが、いまは勢力がいくぶんか弱っている。					
⑤近似種との見分方	茎、葉はほとんど無毛、株立、茎上部の葉柄に数対のやや長い毛が生える。これはこの仲間にはみられない特徴。					
⑥被害状況	群生すれば、在来種への圧迫となる。					
⑦必要な防除対策	開花前に刈り取るか抜き捨てる。					
⑧改訂の理由	記述の変更と追加					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社.2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教.2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オランダガラシ	学名	<i>Nasturtium officinale</i>	目科名	双子葉植物離弁花類 アブラナ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	1870年代	導入・侵入原因	食用		
②分布範囲	全国	北海道～九州				
	府内	亀岡市、京都市、京田辺市、宇治田原町				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	里の川や谷川などの陽地に群生川床の面積を覆うことがある。水中で茎を分ち繁殖する。茎の切れ端でも、下流に流れて定着する。					
⑤近似種との見分方	オランダガラシ属には本種ただ一種があり、大株では茎が10mmを超える。					
⑥被害状況	小川の水面を覆い尽くすこともあり、他の水草への影響が甚大である。山間部の小川を中心に、近年栽培由来のものが広がっている。					
⑦必要な防除対策	定期的な刈り取り。ただし、下流へ茎の断片を流さない配慮を要する。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ホソアオゲイトウ	学名	<i>Amaranthus patulus</i>	目科名	双子葉植物離弁花類ヒユ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害甚大種	タイプ (2005)	Aa	原産地	熱帯アメリカ
	導入・侵入年代	1920年代に帰化	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道ー沖縄				
	府内	福知山市、綾部市、京丹波町、亀岡市、京都市、京田辺市、宇治田原町、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	河川敷、休耕田、荒地、路傍などの陽地に生え、ときに大群落とをなす。一年草であるため、同所に定着するとは限らない。					
⑤近似種との見分方	似た仲間が多く、区別は難しい。					
⑥被害状況	大群落をなすなど、生態系に及ぼす影響は大きい。畑地に生えると強害雑草となることがある。					
⑦必要な防除対策	一年草のため、種子をつける前に抜き捨てるのが望ましい。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	アオビユ（ホナガイヌビユ）	学名	<i>Amaranthus viridis</i>	目科名	双子葉植物離弁花類ヒユ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	南アメリカ
	導入・侵入年代	1926年帰化	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道ー沖縄				
	府内	舞鶴市、福知山市、亀岡市、京都市、八幡町、京田辺市、精華町				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	河川敷、休耕の田畑、荒地、路傍などの陽地に生える一年草。繁殖力が強く、休耕の田畑を占有することがある。					
⑤近似種との見分方	この仲間では花序（種）が細く長い。果実に著しいしわがある。					
⑥被害状況	繁殖力が強く、在来種への影響が危惧される。					
⑦必要な防除対策	種子をつける前に抜き捨てるのが最善である。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ノゲイトウ	学名	<i>Celosia argentea</i>	目科名	双子葉植物離弁花類ヒユ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	熱帯アジア
	導入・侵入年代	不明。栽培系統は江戸期？	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	本州西部～沖縄				
	府内	京都市、向日市、長岡京市ほか				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	荒地や河川敷を中心に、乾燥地に生えることが多い。耐暑性が強く、肥料分の少ないところでもよく育つ。栽培系統の「鶏頭」の野生型と考えられるが、現在の野生型も栽培されることがあるため、変異が多い。					
⑤近似種との見分方	栽培の鶏頭（ケイトウ）は花穂が帯化するもので、見分けるのは容易である。					
⑥被害状況	工事後の河川敷などで群生することが多く、河川生態系にとっては要注意である。畑などでは、今のところ目立った被害はない。					
⑦必要な防除対策	毎年種子で更新するため、小苗の間に抜き捨てるのが簡単である。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）、清水他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ケアリタソウ	学名	<i>Chenopodium ambrosioides</i>	目科名	双子葉植物離弁花類ヒユ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	メキシコ
	導入・侵入年代	江戸時代	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道、本州（岩手、山形以南）－九州				
	府内	京丹後市、伊根町、舞鶴市、福知山市、綾部市、京丹波町、京都市、京田辺市				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/>生態系被害、 <input type="checkbox"/>農林水産業被害、 <input type="checkbox"/>人身・健康被害、 <input type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/>植生への影響、 <input type="checkbox"/>競合・駆逐、 <input type="checkbox"/>遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input type="checkbox"/>定着性が高い、 <input type="checkbox"/>環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/>繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/>被害が大きい、 <input type="checkbox"/>特殊性、 <input type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	春～秋型の成長をする一年草、海岸、河川敷、路傍、荒地など至る所の陽地に生えるが、肥沃な土壌では大きく繁茂する。下記の近似種に押され、近年は衰退の傾向にあると思われる。					
⑤近似種との見分方	近年、アメリカアリタソウ、ゴウシュウアリタソウなどの帰化が報告されているが、区別は難しい。					
⑥被害状況	群生すれば、在来種への影響大と思われる。					
⑦必要な防除対策	膨大な種子をつけるため、開花前に根ざわから刈り取るのが最上である。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、「日本の帰化植物」（平凡社、2003）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	メキシコマンネングサ	学名	<i>Sedum mexicanum</i>	目科名	双子葉植物離弁花類ベンケイソウ科
	カテゴリー(2019)	被害危惧種	タイプ(2019)	Ba	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	-	タイプ(2005)	-	原産地	不明
	導入・侵入年代	1960年代後半	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	関東以西の本州～九州				
	府内	京都市などの都市部でたまに見かける程度で、府内の郊外には少ない				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	屋上緑化などによく使われる、耐暑性の強い植物。葉は無柄で3-5輪生し、花は傘状に開く花序枝にたくさん付く。花序に付く葉は互生。種子には乳頭状の突起が密生する。					
⑤近似種との見分方	府内の堤防のブロック上や石垣にはツルマンネングサがよく見られ、葉は平たく対生する。コモチマンネングサはムカゴ状の殖芽をつけ、庭などで広がるが花はまばら。					
⑥被害状況	府内ではまだ、目立った被害は報告されていない。					
⑦必要な防除対策	乾燥に強いので、抜いて近くに放置すると、そこから再び広がる。熱湯をかけるか、焼却処分すること。					
⑧改訂の理由	府内産確定					
⑨参考文献	清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教.2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ヒレタゴボウ	学名	<i>Ludvigia decurrens</i>	目科名	双子葉植物離弁花類アカバナ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	南北アメリカ
	導入・侵入年代	1955年	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	本州、四国、九州				
	府内	京都市、八幡市、京田辺市、精華町、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] ■生態系被害、 ■農林水産業被害、 □人身・健康被害、 □生活被害 [影響内容] □上位捕食者となる、 ■植生への影響、 □競合・駆逐、 □遺伝子かく乱、 □在来種への病気・寄生虫の媒介、 □土壌・環境攪乱、 ■希少種・固有種への影響 [性質特性] ■定着性が高い、 ■環境適応性が高い、 ■繁殖能力が高い、 ■拡散能力が高い [被害程度] ■対策の緊急性が高い、 □被害が大きい、 □特殊性、 □回復困難性					
④生態的特性	春～秋型の成長をするやや大型の一年草。水田、河川敷、池の岸などの湿地に生える。茎に4稜があり、切断名は4稜形。葉の基部は茎に延下し翼となる。					
⑤近似種との見分方	キダチキンバイがよく似ているが、これには翼がない。					
⑥被害状況	府内では南部の水田や湿りがちの畑で大繁殖するようになり、徐々に北部にも広がってきている。					
⑦必要な防除対策	休耕田や放棄田を中心に大繁殖する。種子は微細で、一定の範囲に風で飛散するほか、水流によっても運ばれる。開花期に抜き取り・刈り取りを実施することが大切である。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	□IUCNワースト100、 □日本生態学会ワースト100、 □特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オオバナミズキンバイ	学名	<i>Ludwigia grandiflora</i>	目科名	双子葉植物離弁花類アカバナ科
	カテゴリー(2019)	被害危惧種	タイプ(2019)	Ba	国リストカテゴリー	緊急対策外来種
	カテゴリー(2005)	-	タイプ(2005)	-	原産地	暖帯～熱帯アメリカ
	導入・侵入年代	2000年代前半	導入・侵入原因	アクアリウム植物		
②分布範囲	全国	近畿地方				
	府内	京都市、向日市、長岡京市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input checked="" type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	湿りがちの陸地から開放水域に生育する多年草。葉は対生し光沢がある。茎は陸上で斜上から直立して高さ1mほどりなり、開放水域では水面に浮かんで広がる。陸地に生えた場合地下部に頑丈な根を張り、重機でないと除去困難なほどの厚みのある群落を形成する。6-10月に直径3-4cmほどの黄色い5弁花を咲かせる。					
⑤近似種との見分方	ウスゲオオバナミズキンバイは本種と亜種関係にあり、最もよく似ている。琵琶湖水系で繁茂しているのはウスゲ型であるが、両亜種の生態はほとんど同一であるため、ともに広義のオオバナミズキンバイの名で呼ばれることが多い。					
⑥被害状況	府内では平成の終わりころ鴨川に琵琶湖由来とみられる個体が確認された。一部では中州や寄り洲を占拠するほど繁茂し、植物種の多様性を著しく減少させた。また鴨川を経て桂川や淀川に流失し、大阪府で繁茂する原因の一つになっている。					
⑦必要な防除対策	多年草のため抜き取り除去が中心になるが、茎の断片からも再生する能力があるため、慎重かつ丁寧に行う必要がある。すなわち、下流部に流失防止のネットを張り、作業後にそれを回収すること、抜き取り時に地下部にある茎や根を見逃さないこと。茎部が地表や地下部に残ると、すぐに再生するおそれがある。					
⑧改訂の理由	近年琵琶湖から侵入					
⑨参考文献	植村修二他『増補改訂 日本帰化植物写真図鑑 第2巻』（2015）、全農教：稗田真也ほか「琵琶湖における侵略的外来水生植物ウスゲオオバナミズキンバイ」（2020）植物地理・分類研究 第68巻2号：65-71：稗田真也「特定外来生物オオバナミズキンバイの生活史特性から繁茂の理由を探る」、（2018）環動昆 第29巻第3号：91-93。					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	アメリカミズユキノシタ	学名	<i>Ludvigia repena</i>	目科名	双子葉植物離弁花類アカバナ科
	カテゴリー(2019)	被害危惧種	タイプ(2019)	Ba	国リストカテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー(2005)	被害危惧種	タイプ(2005)	Ba	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1970年頃	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	神奈川県、京都府				
	府内	京都市北区深泥池。亀岡市からも情報がある（未確認）				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input checked="" type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	多年草で、湿地を這い水面にも進出し浮く。					
⑤近似種との見分方	在来のミズユキノシタに似るが、この果実は長さ3.5-4mm。葉は互生。アメリカミズユキノシタの果実は長さ10-12mm。葉は対生。					
⑥被害状況	深泥池では水辺に小群落をあちこちでつくり他の草を圧倒している。ボランティアの除去作業もあって、今のところ繁殖は局地的であるが要注意。					
⑦必要な防除対策	根気よく取り除く。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（2003）平凡社；多紀保彦（監修）『決定版 日本の外来生物』（2008）平凡社					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	コマツヨイグサ	学名	<i>Oenothera laciniata</i>	目科名	双子葉植物離弁花類 アカバナ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	北アメリカ東部
	導入・侵入年代	1914年に記録有り	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	本州以南				
	府内	京丹後市、宮津市、亀岡市、向日市、八幡市、城陽市、京田辺市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	海岸や河川敷の砂地、砂がちの畑などに生える一～二年草。茎は斜上又は平状。葉は羽状に深く又は浅く裂ける。花は径2～3cm。					
⑤近似種との見分方	他のマツヨイグサ類に比べ、葉が羽状に裂け、花は小さい。茎は多くは倒伏状。					
⑥被害状況	砂がちの畑に生えた場合、根絶しがたい雑草となる。					
⑦必要な防除対策	畑に侵入したものは、開花前に極力抜き取る必要がある。裸地に生えるものも、広い面積を占有する場合には、抜き捨てるのが望ましい。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ニワウルシ（シンジュ）	学名	<i>Ailanthus altissima</i>	目科名	双子葉植物離弁花類二ガキ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	中国
	導入・侵入年代	1880年頃	導入・侵入原因	植木として移入		
②分布範囲	全国	北海道－九州				
	府内	京丹後市、綾部市、福知山市、京都氏、向日市、長岡京市、八幡市、京田辺市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	落葉高木。葉は羽状複葉で長さ40－100cm。雌雄異株である。果実は翼状で長さ4cm以上。その中央部に1種子を入れる。					
⑤近似種との見分方	他に似るものはない。					
⑥被害状況	成長が早く河川敷から道路にかけてしばしば群生。他の植物への影響は、甚大。					
⑦必要な防除対策	若木のうちに引き抜くか、根際から刈り取る。成長すれば樹高2.5mに達する高木となるから、特に若木のうちに除去することが大事である。伐採した場合、萌芽で更新することがある。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	北村四郎・村田源「原色日本帰化植物図鑑 木本Ⅰ」（保育社、1989）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、佐竹義輔他「日本の野生植物 木本Ⅰ」（平凡社、1989）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	アレチギシギシ	学名	<i>Rumex conglomeratus</i>	目科名	双子葉植物離弁花類 タデ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	B a	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	1905	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道ー沖縄				
	府内	京丹後市、舞鶴市、福知山市、亀岡市、京都市、京田辺市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	主に路傍・荒地・海岸砂丘に生え、ときに群生。					
⑤近似種との見分方	枝が広角度に展開し、花被片は卵形で全緑、葉は他のギシギシ類に較べ細い。					
⑥被害状況	多数群生することもあり、植物種の多様性を低下させる。					
⑦必要な防除対策	開花時に刈り取って、種子を作らせないようにする。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1976）、北村他「原色日本植物図鑑草木Ⅱ」（保育社、1987）、「日本の帰化植物」（平凡社、2003）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ナガバギシギシ	学名	<i>Rumex crispus</i>	目科名	双子葉植物離弁花類 タデ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	その他の総合対策 外来種
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	B a	原産地	ユーラシア
	導入・侵入年代	1891年牧野：植研究	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道－沖縄				
	府内	京丹後市、舞鶴市、亀岡市、京都市、京田辺市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	多年草で、路傍、河川敷、田の畦、荒地などに生えやや大型になる。					
⑤近似種との見分方	葉は長大、花被片は広卵形で、ほぼ全縁、茎や葉はのちに赤く染まる。ときに群生。					
⑥被害状況	固まって群生することがあり、植物種の多様性を低下させる。頑丈な根を持ち、田畑に侵入すると除去が困難になる。					
⑦必要な防除対策	開花時に刈り取り、種子を作らせない。本種は回復が早いため、刈り取りは複数回行う。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、北村四郎・村田源「原色日本植物図鑑草木Ⅱ」（保育社、1987）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	シロバナマンテマ	学名	<i>Silene gallica</i>	目科名	双子葉植物離弁花類ナデシコ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	その他の総合対策 外来種
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	1844-1848	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	北海道-九州				
	府内	京丹後市、舞鶴市、宮津市、綾部市、亀岡市、京田辺市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	秋～春型の成長をする一年草。海岸や河川敷に多いが、市街地にもみることがある。しばしば群生する。					
⑤近似種との見分方	マンテマは花弁中央に鮮やかな赤いスポットが入るが、本種では花弁全体が白色-淡紅色。					
⑥被害状況	現時点では、差し迫った被害は見られない。					
⑦必要な防除対策	大量に生えるのは好ましくないので、開花時に適宜刈り取って種子を作らせないようにする。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	アメリカネナシカズラ	学名	<i>Cuscuta pentagona</i>	目科名	双子葉植物合弁花類ヒルガオ科
	カテゴリー(2019)	被害危惧種	タイプ(2019)	Aa	国リストカテゴリー	その他の総合対策外来種
	カテゴリー(2005)	被害危惧種	タイプ(2005)	Aa	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1960年代※	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道ー沖縄				
	府内	京丹後市、舞鶴市、福知山市、綾部市、京都市、長岡京市、八幡市、城陽市、京田辺市、井手町、精華町、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、荒地、海岸砂丘などの陽地に生える1年草。つる性の寄生植物。茎は漆橙黄色。他種多様な相手に寄生する。					
⑤近似種との見分方	在来のネナシカズラに似るが、ネナシカズラの茎は赤みを帯びより太く花序は総状。アメリカネナシカズラは茎が細く花序は固まりとなる。					
⑥被害状況	本種は大繁殖したり、その翌年は数が減ったり生態がよくわからない。					
⑦必要な防除対策	困難					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	マルバルコウ	学名	<i>Ipomoea coccinea</i>	目科名	双子葉植物合弁花類 ヒルガオ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	重点対策外来種、 -
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	熱帯アメリカ
	導入・侵入年代	江戸時代	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	本州（関東以西）－沖縄				
	府内	京丹後市、福知山市、亀岡市、京都市、長岡京市、京田辺市、宇治田原町、井手町、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	つる性の一年草。葉腋から花柄を伸ばしその先に5－6の花をつける。花は朱赤色で直径14－20mm。郊外の線路傍や荒地、河川堤防で見ることが多い。					
⑤近似種との見分方	ヒルガオ科の外来種は多いが、本種に似たものはない。					
⑥被害状況	群生すれば他の植物に悪影響を及ぼす。					
⑦必要な防除対策	特有の丸みを帯びた葉をもつ蔓草なので見つけやすい。初期除草が有効である。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ノアサガオ	学名	<i>Ipomoea indica</i>	目科名	双子葉植物合弁花類 ヒルガオ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	南アメリカ熱帯域 (?)
	導入・侵入年代	不明	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	関東南部以西の本州～沖縄				
	府内	南部の河川沿いや空き地で、ときに野生化				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	本種には一年草タイプでよく結実する在来型と、多年草タイプでほとんど種子を作らない外来型がある。在来型は観賞用・薬用として奈良時代に渡来したと考えられるが、多年草タイプの分類は一時混乱し、日本に入った正確な時期は不明。多年草タイプは自家不和合性が強く、ほとんど結実しないが、暖地では冬も枯れずに成長して樹木などを覆いつくすはで伸びる。地面を這う場合には、下層植生に甚大な影響がある。					
⑤近似種との見分方	マルバアサガオが最も似ているが、日本本土では一年草である。					
⑥被害状況	河川敷や空き地に侵入すれば、樹木を枯らし下層植生をほとんど壊滅させる。暖地ほど猛威を振るう性質があり、府内ではそこまでの影響をまぬかれている。					
⑦必要な防除対策	フェンスなどで栽培されているものの根茎を投棄しないよう、周知徹底すること。野生化したものは、発見次第抜き取ることが肝要である。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	植村修二他『増補改訂 日本帰化植物写真図鑑 第2巻』(2015)、全農教					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	アメリカイヌホオズキ	学名	<i>Solanum americanum</i>	目科名	双子葉植物合弁花類ナス科
	カテゴリー(2019)	被害危惧種	タイプ(2019)	Aa	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	被害危惧種	タイプ(2005)	Aa	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1950年初頭	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	本州（関西以西）－沖縄				
	府内	福知山市、綾部市、京丹波町、亀岡市、京都市、城陽市、長岡京市、京田辺市、精華町、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、休耕田、農作業道、河川敷地などの陽地に生える一年草。茎は直立-斜上。高さ50-80cm、花は白-紫。葉の先は尖る傾向がある。					
⑤近似種との見分方	類似の仲間が多く区別は困難。その中でも本種は花、果実が小さく、葉先が尖ることによって他の仲間から区別しやすい。					
⑥被害状況	しばしば群生するため、他の植生への影響が懸念される。					
⑦必要な防除対策	こまめな草刈りを励行するしかない。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オオカワヂシャ (オオカワヂサ)	学名	<i>Veronica anagallis-aquatica</i>	目科名	双子葉植物合弁花 類オオバコ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	緊急対策外来種
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	ヨーロッパアジア北 部
	導入・侵入年代	1867年採取	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	岩手、秋田、山形、石川を除く本州全都府県。徳島、愛媛、大分、佐賀の各県。				
	府内	宮津市、舞鶴市、亀岡市、京都市、向日市、長岡京市、大山崎町、京田辺市、井手町、精華町、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input checked="" type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	大小の河川の岸辺、畦、埋め立て地の湿地などに生える二年草。草丈30-100cm、花は淡青紫色。					
⑤近似種との見分方	在来のカワヂシャによく似ているが葉の鋸歯にはより大きく明らかな。オオカワヂシャの鋸歯は細く突起状。花も大きく花柱も長い。					
⑥被害状況	河川などの水辺の植物に悪影響。性質が強くて大きく広がるほか、在来のカワヂシャと雑種ホナガカワヂシャを作り、その遺伝子をかかく乱する)。					
⑦必要な防除対策	河川など生育地が広範囲であるため至難であるが、結実前の抜き取りや草刈りが効果のある方法であろう。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オオイヌノフグリ	学名	<i>Veronica persica</i>	目科名	双子葉植物合弁花類オオバコ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	西アジア
	導入・侵入年代	1884年頃	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道ー沖縄				
	府内	京丹後市、舞鶴市、福知山、綾部市、京丹波町、亀岡市、京都市、大山崎町、八幡市、京田辺市、宇治田原町、木津川市、笠置町、南山城村				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、畦、畑地、荒地、河川敷、いたるところの陽地に生える2年草。茎は匍匐。花は青紫で美しく径10mm前後					
⑤近似種との見分方	フラサハソウにやや似るが、この葉は広卵円形で大きく3裂、花は淡青紫路で径5mm。オオイヌノフグリの葉は広卵形で多くの鋸歯がある。また在来のイヌノフグリは葉の長さが巾をほぼ等しいが、オオイヌノフグリの葉は巾より長さが勝る。					
⑥被害状況	畑地の雑草。路傍や堤防では、しばしば群生し、部分的に斜面を覆い尽くす。					
⑦必要な防除対策	生育地が広く個体数も多く困難。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅰ」（全農教、1987）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オオマツバウンラン	学名	<i>Linaria canadensis</i> <i>var. texana</i>	目科名	双子葉植物合弁花 類オオバコ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	準被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	不明
	導入・侵入年代	不明	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	不明（耐寒性の関係で、関東以西の本州、四国、九州と思われる）				
	府内	福知山市大江町、綾部市、亀岡市、京田辺市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	マツバウンランに酷似し、生育地も同様である。					
⑤近似種との見分方	マツバウンランの距は1.5-2mmであるのに対し、オオマツバウンランでは8-10mmに達する。近年まで両者は混同されていた。					
⑥被害状況	現時点では特になし					
⑦必要な防除対策	特になし					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教.2001）：清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社.2003）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ヘラオオバコ	学名	<i>Plantago lanceolata</i>	目科名	双子葉植物合弁花類オオバコ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	江戸末期	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道ー沖縄				
	府内	京丹後市、舞鶴市、福知山、京丹波町、南丹市、亀岡市、京都市、八幡市、京田辺市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	大きな株となる多年草で路傍、畦、河川敷、荒地などの陽地に生える。花茎を多数直立させ、根生葉よりはるかに高い位置で開花し、花被片は反曲する。					
⑤近似種との見分方	ツボミオオバコがよく似ているが、これの花は開かないが、不稔の花は平開する。					
⑥被害状況	大きな群落をなすこともなく、畑地への侵入を防げば大きな影響はないと思われる。					
⑦必要な防除対策	抜き取り					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅰ」（全農教、1987）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	アメリカアゼナ	学名	<i>Lindernia dubia</i>	目科名	双子葉植物合弁花類アゼナ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1936年頃	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道～九州				
	府内	京丹後市、福知山市、綾部市、亀岡市、京都市、長岡京市、八幡市、京田辺市、笠置町、加茂町				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	水田、特に休耕田、池の端、河川敷の湿地などに生える一年草。しばしば群生し大小の群落をつくる。草丈10～30cm。葉に数個の鋸歯がある。					
⑤近似種との見分方	ヒメアメリカアゼナとは花柄の長さで区別でき、在来のアゼナは葉に鋸歯が出ない。					
⑥被害状況	休耕田では田一面を多い尽くすほど群生することもあるが、耕作をすればこのようにはならない。数は多いが特に大きな被害はないと思われる。					
⑦必要な防除対策	特になし					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ヒメオドリコソウ	学名	<i>Lamium purpureum</i>	目科名	双子葉植物合弁花類シソ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	明治26年頃	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道～沖縄				
	府内	舞鶴市、福知山市、亀岡市、京都市、八幡市、京田辺市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	秋～春型の成長をする一年草。路傍、耕作地、河川敷地、草地、堤防、柿、栗などの果樹園内、田の畦などに群生。茎上部の葉はしばしば紅紫色。花は上部の葉脈につく。					
⑤近似種との見分方	モミジバヒメオドリコソウに全体が似ているが、ヒメオドリコソウの葉は鋸歯縁で深く裂けることはない。					
⑥被害状況	密生状に群生するため、他の植物を阻害する。					
⑦必要な防除対策	群生地では果実が熟する前の草刈り。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	クワモドキ（オオブタクサ）	学名	<i>Ambrosia trifida</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー(2019)	被害危惧種	タイプ(2019)	Aa	国リストカテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー(2005)	被害危惧種	タイプ(2005)	Aa	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1952年頃	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道－九州				
	府内	京丹後市、宮津市、福知山市、亀岡市、京都市、長岡京市、八幡市、京田辺市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	大型の一年草、茎は高さ3mに達する。葉は掌状に3－5裂。花序の構成はブタクサと同じ。路傍、空地、河川敷などに生えしばしば群生する。					
⑤近似種との見分方	花序の形はブタクサに似るが、全体ははるかに大きく、葉が掌状に分裂する。ブタクサの葉は羽状に分裂。					
⑥被害状況	ブタクサ同様に、花粉アレルギーを引き起こすという。群生すれば、他の植生を損壊する。					
⑦必要な防除対策	本種を食害するブタクサハムシは知られているが、現状では開花期に刈りとるしか手はない。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ヒロハホウキギク	学名	<i>Aster subblatus</i> var. <i>sandwicensis</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1960年ごろ	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	本州（関東以西）－沖縄				
	府内	京丹後市、舞鶴市、綾部市、福知山市、南丹市、亀岡市、京都市、京田辺市、井手町、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	高さ1.5mに達する一年草又は越年草で路傍、空き地、休耕田、河川敷などでしばしば群生する。					
⑤近似種との見分方	近畿地方では、ほとんど見かけなくなったホウキギクに最も似て、しばしば混同されていた。ホウキギクは花序の枝が鋭角になり、舌状花は白色。ヒロハホウキギクは花序の枝はより広角度に開き、舌状花は漆紅紫などに違いがある。					
⑥被害状況	よく群生するので他の植生を圧迫する。まれに水田の縁に生えることもあり。水田雑草となる。					
⑦必要な防除対策	結実前の薊りとりしか手はない。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	アメリカセンダングサ	学名	<i>Bidens frondosa</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	その他の総合対策 外来種
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1920年頃	導入・侵入原因	不明（衣類に付着して入った可能性が高い）		
②分布範囲	全国	北海道－琉球				
	府内	京丹後市、宮津市、与謝野町、舞鶴市、福知山市、綾部市、南丹市、京丹波町、亀岡市、京都市、京田辺市、精華町、木津町				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、空き地、河川敷、水田など乾地でも湿地でも生える1年草。茎は普通50－150cm。葉は対生し3－5（7）に切れ込む。花序の下に葉状の苞がある。果実の先端に2本の刺がある。					
⑤近似種との見分方	在来のセンダングサに似るが、これの花序直下には葉状の苞はなく、果実の刺は3－4個。また、明かな舌状花がある。アメリカセンダングサの茎は、多少とも紫色を帯びるのも区別点である。					
⑥被害状況	環境への適応性に優れ、どこでも生える。水湿地を好む傾向があり、水田にも侵入することがある。					
⑦必要な防除対策	結実前の刈りとり及び草刈。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オオアレチノギク	学名	<i>Coryza sumatrensis</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー(2019)	被害危惧種	タイプ(2019)	Aa	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	被害危惧種	タイプ(2005)	A a	原産地	南アメリカ
	導入・侵入年代	1920年代	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	本州—琉球				
	府内	京丹後市、舞鶴市、福知山市、綾部市、京丹波町、南丹市、亀岡市、京都市、長岡京市、京田辺市、宇治田原町、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	秋～春型の成長をする一年草。草丈180cm前後に達する。茎・葉は有毛、頭花は舌状花がなく径5mm。					
⑤近似種との見分方	アレチノギクとは主茎が止まらず伸張、ヒメムカシヨモギとは葉の縁に開出毛がなく舌状花が無いことで区別できる。頭花も大きい。					
⑥被害状況	しばしば密生状に群生し、他の植物を圧倒する。					
⑦必要な防除対策	開花期の薊り取りしか手はない。しかし荒地などへは種子が風に散布され、すぐにも生える。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅰ」（全農教、1987）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 津軽俊介・光田重幸

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ヒメジョオン	学名	<i>Erigeron annuus</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー(2019)	被害危惧種	タイプ(2019)	Aa	国リストカテゴリー	その他の総合対策外来種
	カテゴリー(2005)	被害危惧種	タイプ(2005)	Aa	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	江戸末期	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	北海道ー琉球				
	府内	舞鶴市、福知山市、南丹市、亀岡市、京都市、京田辺市、精華町、木津川市、南山城村				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	山間林道脇、市街地の空地、路傍、畦、河川敷など至る所の陽地に生え、しばしば群生する1～2年草。					
⑤近似種との見分方	ヘラバヒメジョオンがよく似る。この葉はほとんど全縁であるが、ヒメジョオンには明瞭な鋸歯がある。またハルジョオンは蕾を持つ茎や枝が下垂する。					
⑥被害状況	山地、農耕地、市街地の空地などに生え河川敷や路傍などに群生し、他の植生を圧迫する。ネマトーダやウイルスの寄主となり牧場では要注意。					
⑦必要な防除対策	花期の草刈。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅰ」（全農教、1987）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ヒメムカシヨモギ	学名	<i>Erigeron canadensis</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	明治初期	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道ー琉球				
	府内	京丹後市、舞鶴市、福知山市、綾部市、京丹波町、南丹市、亀岡市、京都市、長岡京市、八幡市、京田辺市、精華町、宇治田原町、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	秋～春型の成長をする一年草。市街地、農地、路傍、河川敷など至る所の陽地に生え、1～1.8mに達する。しばしば密生状の群落をなす。					
⑤近似種との見分方	オオアレチノギクの形状に似るが、ヒメムシヨモギの頭花はより小さく、微小な舌状花がある。ケナシヒメムカシヨモギは、やせ地に生え、総苞片の先端に黒紫色の斑点がある。					
⑥被害状況	群生し他の植生を圧迫。畑地などの雑草で農産物の減収の因となることがある。					
⑦必要な防除対策	花期の草刈り、幼植物の抜き取り。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967） 清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ハルジオン	学名	<i>Erigeron philadelphicus</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	大正中期	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道～九州				
	府内	福知山市、綾部市、亀岡市、京都市、長岡京市、京田辺市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、空地、畑地、牧草地、芝生などの陽地に生え、しばしば群生する多年草。腐植質の多い土壌ではとくに繁茂する。					
⑤近似種との見分方	ヒメジョオンに似て花は春に咲き、より大きく径1.5～2.0mm。白色～淡紅紫色をおび、蕾のころ枝ごと下垂する。					
⑥被害状況	畑や庭などに侵入した場合、多年草であるため除去に苦労する。地下の根茎でも繁殖するため、丁寧に掘り取る必要がある。					
⑦必要な防除対策	開花期の刈り取り及び地下部の除去。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅰ」（全農教、1987）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ハキダメギク	学名	<i>Galinsoga quadriradiata</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	熱帯アメリカ
	導入・侵入年代	大正年間	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道ー琉球				
	府内	福知山市、綾部市、南丹市、亀岡市、京都市、八幡市、城陽市、京田辺市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	畑地、空地、路傍、休耕田、小川の堤防などの陽地に生える1年草。しばしば群生する。草丈20~60cm。葉は卵形ー広卵形、対生、頭花白色。舌状花は3裂。					
⑤近似種との見分方	コゴメギクと極めてよく似ているが、コゴメギクの舌状花には冠毛がなく、花の鋸歯は低く目立たない。					
⑥被害状況	大きな畑一面を覆い尽くすほど群生するところもあり、畑地の雑草として除去が大変である。					
⑦必要な防除対策	花期の刈り取り、発芽後の早ければ4週間で開花する。したがって年3~4回世代を交代する。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅰ」（全農教、1987）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ノボロギク	学名	<i>Senecio vulgaris</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	明治初期	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道～琉球				
	府内	久美浜町、亀岡市（特に多い）、京田辺市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	農耕地帯に特に多く、路傍、砂質の畑、芝生などの陽地に生え、しばしば群生する。蕾をつける前の若株では一見シュンギクの苗かと思まごう。秋～春型の成長をする一年草。					
⑤近似種との見分方	他に似たものはない。					
⑥被害状況	特に多い農耕地帯（畑、水田の畦、農作業道）では雑草としてやっかいになる。					
⑦必要な防除対策	こまめに取り除く。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅰ」（全農教、1987）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	セイヨウタンポポ	学名	<i>Taraxacum officinale</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	1900年初頭	導入・侵入原因	札幌農学校からの逸出説がある		
②分布範囲	全国	北海道～琉球				
	府内	京丹後市、舞鶴市、福知山市、南丹市、京丹波町、亀岡市、京都市、向日市、長岡京市、大山崎町、城陽市、京田辺市、井手町、精華町、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input checked="" type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、空地、畑、山間の林道脇、市街地、公園、駐車場など至る所に生える多年草。頭花は大きく径4～5.5 cm。総苞外片は反曲する。また、単為生殖を行う。					
⑤近似種との見分方	アカミタンポポがよく似ているが、これの果実は褐赤色であるのに対し、セイヨウタンポポの果実は淡褐色。					
⑥被害状況	多くは市街周辺や荒地で見かけたが近年は田の畦にまで侵入しているのを見かけるようになった。在来種との交雑も報じられている。世界的農地の雑草。					
⑦必要な防除対策	地下に長い直根があるので根絶は困難。若い株は食用（サラダ、おひたし、佃煮）となるので大いに利用されたい。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅰ」（全農教、1987）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オオオナモミ	学名	<i>Xanthium occidentale</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー(2019)	被害危惧種	タイプ(2019)	Aa	国リストカテゴリー	その他の総合対策外来種
	カテゴリー(2005)	被害危惧種	タイプ(2005)	Aa	原産地	メキシコ
	導入・侵入年代	1920年代	導入・侵入原因	不明（衣類に付着して入った可能性が高い）		
②分布範囲	全国	北海道～九州				
	府内	京丹後市、伊根町、舞鶴市、福知山市、綾部市、亀岡市、京都市、長岡京市、京田辺市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	高さ50～200cmに達する大型の1～2年草。果体一面に先の曲がった刺があり、人の衣服や動物に附着して勢力を拡大。路傍、空地、農耕地、河川敷、川岸、水を落した池などに生える。					
⑤近似種との見分方	近畿地方から絶滅したオナモミ（在来）と最も似ている。これの果体はより小さく長さ8～14mm、表面に軟毛が多い。オオオナモミの果体は長さ15～25mm、表面に毛が少なく光沢がある。					
⑥被害状況	普通数株が群れることが多く、河川敷など条件次第で群落をなし、他の植生への影響は大である。					
⑦必要な防除対策	花期の刈り取り。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅰ」（全農教、1987）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	コセンダングサ	学名	<i>Bidens pilosa</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	熱帯アメリカ
	導入・侵入年代	明治末	導入・侵入原因	不明だが、人の衣類などに付着して入ったと思われる		
②分布範囲	全国	本州—琉球				
	府内	京丹後市、伊根町、亀岡市、京都市、京田辺市、城陽市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、荒地、河川敷、休耕田などにしばしば群生する夏型の一年草。草丈120前後に達す。頭花は微褐黄色、舌状花はない。果実（瘦果）の先に3～4本の刺がある。人の衣服や動物の毛に附着して拡散する。					
⑤近似種との見分方	アメリカセンダングサがやや水湿地を好むがコセンダングサはやや乾いた所に生える。また前者のような頭花の下は葉状の苞はない。舌状花もない。茎葉は緑系で、アメリカセンダングサのように紫色を帯びない。					
⑥被害状況	群生し、しばしば単独の群落をなす。この群落内では他の植生は圧倒される。					
⑦必要な防除対策	抜き取りまたは開花中の草刈。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅰ」（全農教、1987）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ブタナ	学名	<i>Hypochaeris radicata</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	1930年代	導入・侵入原因	不明（牧草の種子に混入？）		
②分布範囲	全国	北海道～琉球				
	府内	京丹後市、福知山市、綾部市、京丹波町、亀岡市、京都市、長岡京市、京田辺市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input checked="" type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	常緑の多年草。葉はロゼット状、茎を数本伸ばし上部で分枝、花は黄色。一見タンポポと見まごう。路傍、車道脇、荒地、公園、ゴルフ場、休耕田内などの陽地に生える。					
⑤近似種との見分方	まぎらわしいものにヒメブタナがある。これの葉は縁を除いてほとんど無毛。果実の全てに冠毛柄があるのに対し、ブタナは葉の全面に粗毛が多く、周辺花の果実には冠毛柄がない。					
⑥被害状況	芝生、公園、農地ではやっかいな雑草となる。京都府では大繁殖という状況ではないが今後の推移に要注意。					
⑦必要な防除対策	こまめな除草。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅰ」（全農教、1987）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オニノゲシ	学名	<i>Sonchus asper</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	1880年代	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道～沖縄				
	府内	舞鶴市（冠島を含む）、福知山市、綾部市、南丹市、亀岡市、京都市、京田辺市、宇治田原町、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input checked="" type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、畑地、休耕田、河川敷などに多い1～2年生、茎の葉は光沢があり縁の刺は痛い。基部は丸く茎を抱く。果実に横脈はない。					
⑤近似種との見分方	在来種のノゲシ（ハルノゲシ）によく似ているが、茎を抱く葉の基部は先が狭三角形となり、刺もあまり痛くない。果実の縦脈の間に細い横脈がある。ノゲシとの雑種をおアイノゲシという。					
⑥被害状況	ムギ、野菜畑での雑草として、やっかいである。					
⑦必要な防除対策	畑地では抜き取るしかない。種子は風で飛散するため、春の開花時までには除去するのが望ましい。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅰ」（全農教、1987）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オニヤブソテツ (広義)	学名	<i>Cyrtomium falcatum</i>	目科名	シダ類オシダ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	おそらく国内起源が大 半
	導入・侵入年代	2000年頃	導入・侵入原因	観賞用・植栽植物用		
②分布範囲	全国	在来のものと判別しがたい型があり特定できないが、関東南部以西の日本				
	府内	都市部を中心に、山間部にまで侵入				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input checked="" type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	ナガバヤブソテツに似るが、これまで府内では見なかったようなタイプのものが都市部の石垣や側溝に広がって来ている。一部は林道に沿ってコンクリート壁に侵入している。					
⑤近似種との見分方	ナガバヤブソテツよりも羽片基部に丸みがあり、羽片は浅一中裂する。通常のオニヤブソテツのような羽片基部の突起を持たない。					
⑥被害状況	現段階では被害といえるほどではないものの、在来のナガバヤブソテツは有性生殖種であるため、遺伝的なかく乱が懸念される。					
⑦必要な防除対策	公園や店舗あるいは住宅地の飾りとして異所性のベニシダ類・オニヤブソテツ類が植栽されているが、これらは無融合生殖のため孢子による拡散性が高い。千株以上の単位で山採り品を造園業者に卸すシステムもある。行政の指導や啓発を望む。					
⑧改訂の理由	温室起源と見られる。					
⑨参考文献	この記事がおそらく最初の報告になる。					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ボタンウキクサ	学名	<i>Pistia stratiotes</i> var. <i>cuneata</i>	目科名	単子葉植物サトイモ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	緊急対策外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	A	原産地	南アフリカ
	導入・侵入年代	1990年ごろ	導入・侵入原因	園芸用		
②分布範囲	全国	本州（中部以西）－琉球				
	府内	亀岡市桂川（保津川）、宇治川、八幡市（三川合流点付近）				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	浮遊性の植物、葉はロゼット状に広がり、その間から走出枝を出す。その先端に苗を生じて増える。葉身はピロード状の手触りである。					
⑤近似種との見分方	水面を浮遊する植物で他に似たものはない。					
⑥被害状況	京都府ではまだ群れが小規模であるが、爆発的な増殖の可能性があり要注意。					
⑦必要な防除対策	すぐ取って乾燥させる。発生源は投棄か何らかの原因で温水が流れているところである。恒常的に発生するならば、発生源を突き止めて除去し、根絶する。					
⑧改訂の理由	京都府ではまだ群れが小規模であるが、爆発的な増殖の可能性があり要注意。京都府では宇治市木幡池の近くの工場温排水域が主要発生源だったが、対策によって宇治川では消滅した。					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社.2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草」（全農教、1987）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教.2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ハルガヤ	学名	<i>Anthoxanthum odoratum</i>	目科名	単子葉植物イネ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	その他の総合対策 外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	A	原産地	ユーラシア
	導入・侵入年代	明治初期	導入・侵入原因	牧草		
②分布範囲	全国	北海道～九州				
	府内	京丹後市、宮津市、福知山市、綾部市、京丹波町、南丹市日吉町、亀岡市、京都市、大山崎町、八幡市、京田辺市、精華町、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、荒地、河川敷草地、農耕地などに生える多年草。しばしば群生する。稈（茎）は叢生し、稈頂部に花序をつける。全草乾けばクマリンの芳香がある。					
⑤近似種との見分方	葉や小穂は無毛から多毛まで変異があり多毛のものをハルガヤ、小穂の柄や苞穎に毛のないものをメハルガヤ（ケナシハルガヤ）とし亜種（長田、1989）や変種（桧山、1947）に分ける意味もあるが違いは僅少であるため、ここではそれらをまとめて扱った。					
⑥被害状況	時に純群落をなすことがあり、他の植生への影響が大きいと思われる。府内では寒冷地ほど被害が大きい傾向がある。					
⑦必要な防除対策	除去する必要がある場所では花期に薙り取る。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅲ」（全農教、1997）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、長田武正「日本イネ科植物図譜」（平凡社、1989）、長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	メハルガヤ（ケナシハルガヤ）	学名	<i>Anthoxanthum odoratum</i> subsp. <i>Alpinum</i>	目科名	単子葉植物イネ科
	カテゴリー(2019)	準被害危惧種	タイプ(2019)	Aa	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	-	タイプ(2005)	A	原産地	ユーラシア
	導入・侵入年代	明治初期	導入・侵入原因	牧草		
②分布範囲	全国	北海道～九州				
	府内	ハルガヤと区別しがたいものもあり、ハルガヤに準じる				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	ハルガヤに準じる					
⑤近似種との見分方	近似種はハルガヤのみ。ハルガヤの記述を参照。					
⑥被害状況	ハルガヤに準じる。					
⑦必要な防除対策	ハルガヤに同じ。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅲ」（全農教、1997）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、長田武正「日本イネ科植物図譜」（平凡社、1989）、長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オオクサキビ	学名	<i>Panicum dichotomiflorum</i>	目科名	単子葉植物イネ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	その他の総合対策 外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	A	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1927年頃	導入・侵入原因	不明であるが、飼料作物として作られたことがある		
②分布範囲	全国	北海道ー琉球				
	府内	舞鶴市、福知山市、南丹市、亀岡市、京都市、長岡京市、八幡市、京田辺市、精華町、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、山間車道脇、林道、用水路の縁、池の岸辺、河川敷などの陽地に生え、茎は太く径5～10mm、高さ40～100cm。花序の枝は斜上し垂れ下がらない。					
⑤近似種との見分方	又カキビ（在来）と似ているが茎（稈）の下部は、しばしば倒伏状で節から根を下ろす。花序の枝は開出し先は垂れ下がり、小枝も垂れて小穂をまばらにつける。					
⑥被害状況	世界的な農地の雑草、ダイズやラッカセイなどの減収をもたらすという。工事後の砂地や湿地に侵入し、大繁殖することが多い。結果的に植物種の多様性が、大きく減少することになる。					
⑦必要な防除対策	春～秋型の成長をするため、群生地での刈り取りを結実前の夏場に行う。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅲ」（全農教、1997）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、長田武正「日本イネ科植物図譜」（平凡社、1989）、長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 津軽俊介・光田重幸

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	アメリカスズメノヒエ	学名	<i>Paspalum notatum</i>	目科名	単子葉植物イネ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	産業管理外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	A	原産地	熱帯アメリカ
	導入・侵入年代	1960年代	導入・侵入原因	緑化用		
②分布範囲	全国	本州—琉球				
	府内	綾部市、南丹市、亀岡市、京都市、京田辺市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	農村路傍、河川敷、堤防、池の端などに生える多年草。横に這う根茎がある。葉身基部の縁に数本の長毛がある外無毛。花序は2～3個の総から成り小穂は無毛。					
⑤近似種との見分方	横に這う根茎を持つものは他にコアメリカスズメノヒエがあるが、京都府内では今のところ見つかっていない。					
⑥被害状況	しばしば群生し他の植生を駆逐する。暖地では牧草として利用されることもあるが、畑への侵入もあるという。とくに、日当たりのよい乾燥気味のところで猛威を振るう傾向がある。					
⑦必要な防除対策	出穂（結実前）期の刈り取り、地下部の掘り起こししか手はない。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅲ」（全農教、1997）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、長田武正「日本イネ科植物図譜」（平凡社、1989）、長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ナギナタガヤ	学名	<i>Vulpia myuros</i>	目科名	単子葉植物イネ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	産業管理外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	A	原産地	地中海-西アジア
	導入・侵入年代	明治時代	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	本州-九州				
	府内	京丹後市、宮津市、綾部市、亀岡市、京都市、京田辺市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	叢生する一年草。路傍、空地、河川敷、田の畦、公園、芝生などの陽地に生える。とくに、乾燥するやせ地でしばしば群生。稈・葉は細く全体にしなやか、下部の花序は開花期の盛りとなっても葉鞘内に収まっている。外観は無毛。					
⑤近似種との見分方	オオナギナタガヤが最も似ているが花序の最下の小穂は葉鞘から抜き出ている。護穎の縁にはまばらにやや長い毛が列生。					
⑥被害状況	群生するので他の植生への圧迫。とくに、乾燥するやせ地で猛威を振るうことがあり、植物種の多様性を大幅に減少させる。					
⑦必要な防除対策	一年草であり、出穂期の刈りとりが有効。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社.2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅲ」（全農教、1997）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教.2001）、長田武正「日本イネ科植物図譜」（平凡社、1989）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ハナヌカススキ	学名	<i>Aira elegans</i>	目科名	単子葉植物イネ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	B	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	1930年代	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	本州－九州				
	府内	亀岡市、八幡市、城陽市、京田辺市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/>生態系被害、 <input type="checkbox"/>農林水産業被害、 <input type="checkbox"/>人身・健康被害、 <input type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/>植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/>競合・駆逐、 <input type="checkbox"/>遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input checked="" type="checkbox"/>定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>被害が大きい、 <input type="checkbox"/>特殊性、 <input type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	路傍、公園、河川敷などに生える1年草。1株から数十本の稈を出す。草丈10～30cm。稈上部で多くの枝を分かち、その先に花序をつける。小穂は長さ1.5～2.2mm、2小花からなる。第1小花には芒がなく、第2小花に芒が出る。群生すれば美しい。					
⑤近似種との見分方	ヌカススキに酷似する。これはハナヌカススキの小穂に比べ小穂がやや大きく、長さ2.5～3mm。2小花とも芒があるので区別できる。					
⑥被害状況	河川敷などに群生し、時に密生状となる。その様子も美しいが、他の小型の植物を圧迫する場合がある。					
⑦必要な防除対策	花穂が若い内に薙り取るのが1つの方法であるが、今のところ他の植生に害を及ぼすほどではない。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「日本イネ科植物図譜」（平凡社、1989）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ヒメコバンソウ	学名	<i>Briza minor</i>	目科名	単子葉植物イネ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	B	原産地	地中海地方
	導入・侵入年代	江戸末期	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	本州ー沖縄				
	府内	京丹後市、舞鶴市、福知山市、綾部市、京丹波町、南丹市、亀岡市、京都市、久御山町、京田辺市、精華町、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、グラウンド、河川敷及び堤防、空地、農作業区、神社境内などの陽地に生える一年草。草丈15~60cmで姿はやさしく愛らしい。花序は枝先が下垂し、その先に小穂を鈴なりにつける。小穂は長さ3~5mm。					
⑤近似種との見分方	小穂の形状はコバンソウに似るが大きさが全く違う。					
⑥被害状況	コバンソウ同様これを好む人が多い。さしせまった被害はないと思われる。					
⑦必要な防除対策	特になし。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社.2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅲ」（全農教、1997）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教.2001）、長田武正「日本イネ科植物図譜」（平凡社、1989）、長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ヒゲナガスズメノ チャヒキ	学名	<i>Bromus rigidus</i>	目科名	単子葉植物イネ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	B	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	1910年頃	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道～九州				
	府内	京丹後市、宮津市、舞鶴市、亀岡市（保津川）、城陽市（木津川）				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input checked="" type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	海岸砂上、河川敷（砂礫地）などに生える多年草、群生する。護穎の先は長さ3～6cmに及び長いまっすぐな芒があり小穂は枝ごとやや下向する。葉や葉鞘は多毛。					
⑤近似種との見分方	キツネガヤ（在来種）にやや似ているが平地～低山の半陰地に生え生育化に大きな違いがある。また、葉や葉鞘の毛はより短い。					
⑥被害状況	府内の分布は局地的で、差し迫った被害は確認されていない。ただ、放置すると畑などに侵入するおそれがあるため、耕作地の近くではこまめな除去が必要だろう。					
⑦必要な防除対策	多年草であるので地下部を掘り取ることで群生地での刈りとり。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「日本イネ科植物図譜」（平凡社、1989）、長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オニウシノケグサ	学名	<i>Festuca arundinacea</i>	目科名	単子葉植物イネ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	産業管理外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	B	原産地	ヨーロッパ-西アジア
	導入・侵入年代	明治時代?	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道-九州				
	府内	京丹後市久美浜町、福知山市夜久野町、南丹市美山町、亀岡市、八幡市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input checked="" type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、荒地、造成地、河川敷、海岸砂上などに生える多年草。稈は叢生。高さ1.5mに及び。葉は巾3~12mm、長さ10~50cm。花序は長さ15~30cm、小穂はややまばら。やや劣るものの牧草として利用される。					
⑤近似種との見分方	ヒロハウシノケグサと最も似ているがこれの葉耳（三日月状に稈を囲む）には毛がない。オニウシノケグサの葉耳には列生する。					
⑥被害状況	砂防や緑化に用いられているが今は広く野生化。しばしば群生し他の植生を圧迫。					
⑦必要な防除対策	花期の草刈り。根の堀取り。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅲ」（全農教、1997）、長田武正「日本イネ科植物図譜」（平凡社、1989）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ヒロハウシノケグサ	学名	<i>Festuca pratensis</i>	目科名	単子葉植物イネ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	B	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	明治時代	導入・侵入原因	牧草		
②分布範囲	全国	北海道～九州				
	府内	京丹後市、舞鶴市、綾部市、福知山市、京都市、亀岡市、京都市、京田辺市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input checked="" type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	オニウシノケグサと同様。					
⑤近似種との見分方	姿がオニウシノケグサに酷似するがヒロハウシノケグサの葉耳（葉の基部にある三日月状の突起）は無毛。					
⑥被害状況	休耕地や河川敷などで密生状の群落となることがあり他の植生を排除してしまう。					
⑦必要な防除対策	定期的な草刈り。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「日本イネ科植物図譜」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オオスズメノカタ ビラ	学名	<i>Poa trivialis</i>	目科名	単子葉植物イネ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	B	原産地	ヨーロッパ-西南アジア
	導入・侵入年代	明治以降	導入・侵入原因	牧草？		
②分布範囲	全国	本州（関東以西）-九州				
	府内	京丹後市、福知山市、綾部市、南丹市、亀岡市、京都市、京田辺市、長岡京市、八幡市、城陽				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	平地の草地、路傍、荒地、山間の林道脇などに生える多年草。細長い地下茎をひく。葉の先は舟形。葉舌は長さ4~10mm。					
⑤近似種との見分方	西日本の平地に生え、地下茎を有するものは他にナガハグサがあるが、これの葉舌は3mm以下で全体に細い。					
⑥被害状況	他の植生への圧迫、風媒化であるため他の同属在来種への遺伝子汚染が懸念される。					
⑦必要な防除対策	群生地では草刈りが拡散防止に有効と思われるが、地下茎があるので根絶は至難。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社.2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草」（全農教、1987）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教.2001）、長田武正「日本イネ科植物図譜」（平凡社、1989）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	コバンソウ	学名	<i>Briza maxima</i>	目科名	単子葉植物イネ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	C	原産地	地中海地方
	導入・侵入年代	明治初期	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	本州-九州				
	府内	京丹後市、宮津市、舞鶴市、福知山市、綾部市、亀岡市、京都市、八幡市、京田辺市、城陽市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	海岸砂上、路傍、荒地、河川敷などの陽地に生える一年草。稈（茎）は叢生し、小穂は小判状で垂れ下がり特異の姿となる。					
⑤近似種との見分方	同属のヒメコバンソウは小穂が小さく長さ3~5mm。コバンソウの小穂は長さ8~25mm。他に似たものはない。					
⑥被害状況	海岸林の縁では、しばしば群生し他の植生を圧迫する。姿が愛らしいため、これを好む人も多い。特に大きな被害を与えるものではないと思われる。					
⑦必要な防除対策	こみすぎた群生地では花期の抜き取り。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅲ」（全農教、1997）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、長田武正「日本イネ科植物図譜」（平凡社、1989）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	シマスズメノヒエ	学名	<i>Paspalum dilatatum</i>	目科名	単子葉植物イネ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	その他の総合対策 外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	C	原産地	南アメリカ
	導入・侵入年代	1915年（小笠原）	導入・侵入原因	緑化用（戦後本州で）		
②分布範囲	全国	本州-琉球				
	府内	舞鶴市、亀岡市、京都市、八幡市、久御山町、京田辺市、精華町、木津町				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	農地、路傍、河川敷、堤防、空地などの陽地に生える多年草。叢生し草丈50～150cm、花序の「総」は開出し3～7個、小穂は縁にだけ長毛がある。稈基部の葉鞘下部にのみ毛がある。					
⑤近似種との見分方	タチスズメノヒエが最も似ているが、葉鞘、葉身の全てに毛があり、花序の「総」は10～20個。小穂の背面は全面に長毛がある。					
⑥被害状況	府内各地で群生するを見る。拡散が急速で生態系被害は、計り知れない。					
⑦必要な防除対策	多年草であるから除去は困難。出穂期（結実前）の草刈りは拡散防止に役立つと思われる。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、長田武正「日本イネ科植物図譜」（平凡社、1989）、長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ホテイアオイ	学名	<i>Eichhornia crassipes</i>	目科名	単子葉植物ミズアオイ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ac	国リスト カテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	A	原産地	アルゼンチン周辺
	導入・侵入年代	明治時代	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	本州（東北地方以南）－琉球				
	府内	亀岡市、京都市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input checked="" type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	富栄養の池、河川、水路などを浮遊する多年草。株の基部からランナーを延ばし繁殖する。葉柄の中程は、やや球状に肥大し浮袋となる。夏花茎を伸ばし淡紫色の美しい花が咲く。					
⑤近似種との見分方	水面を浮遊する植物で広卵心形－円形の葉をつけ、その柄が浮袋となり、淡紫色の花をつけるものは他にない。					
⑥被害状況	ランナーを延ばし短期間に群生し、小川や水路を塞ぎ暖地では、しばしば大問題となっている。京都府内では、そのような例はまだ聞かないが、川や池に存在するので油断できない。なお、京都府では温排水が流れ込む水域以外では越冬せず、そのような発生源がある場合には継続的に除去して発生を抑えることが重要であろう。					
⑦必要な防除対策	大繁茂すれば植物体をすくい取るしか手はない。冬まで放置すると草体が枯れて沈み、水底がヘドロ化するおそれがある。標本の採取例は少ないが府内ではもっと広範囲に分布すると思われる。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ナガバオモダカ	学名	<i>Sagittaria graminea</i>	目科名	単子葉植物オモダカ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	B	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1970年代	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	京都及び関東				
	府内	深泥ヶ池のみ(?)				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	池や河川に生える多年草。止水～静水域にみられる。府内では今のところ深泥ヶ池にのみ知られているが、放置すれば大繁茂する。葉はへら形で細長く地下茎で繁殖する。雌雄異株。					
⑤近似種との見分方	へらオモダカ（在来）に似ているが、これには地下茎がない。また雌雄同株など大きな違いがある。					
⑥被害状況	深泥ヶ池ではかつて大繁茂。京都市は業者に依頼し、これを除去したが最近復活の兆しがあるという。又、研究者グループによって3～4年ごとに別のところを除去するなど、多額の費用と手間を要している。また、京都でも水草業者による本種の販売があり、今後各地に逸出することがあり得るため、要注意である。					
⑦必要な防除対策	地下茎があるので深い池では根絶至難。数年おきに人海戦術で除去するしか手はない。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社.2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教.2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	コカナダモ	学名	<i>Elodea nuttallii</i>	目科名	単子葉植物トチカガミ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	A	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1960年初頭	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	本州（東北以南）－九州				
	府内	亀岡市、京都市、向日市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	池沼、河川、用水路に生える沈水性の多年草、日本への帰化はみ株のみ。栄養繁殖。					
⑤近似種との見分方	茎下部の葉は対生、中～上部の葉は普通3輪生するので他の似た仲間から区別できる。					
⑥被害状況	府内でのクロモ（在来）の減少とコカナダモの増加とは反比例する。					
⑦必要な防除対策	水源の深い池などでは水を抜かないで除去するしかない。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	タカサゴユリ	学名	<i>Lilium formosanum</i>	目科名	単子葉植物ユリ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	その他の総合対策 外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	B	原産地	台湾
	導入・侵入年代	1920年代	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	東西南部以西の本州、四国、九州、沖縄				
	府内	京丹後市、宮津市、福知山市、京都市、京田辺市、木津川市の市街地や公園や高速道路沿い。				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input checked="" type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、法面、石垣、海岸松林内、水田の法面などに生える多年草。茎は高さ1.5m、葉は細く線形、先は尖る。花は白色、横向一やや下向きに咲き長さ15～20cm。花期は夏～秋。					
⑤近似種との見分方	栽培種のテッポウユリをやや小型にしたような姿であるが、野生するものでは他に似たものはない。外花被片に褐色の中筋がないものもあり、シンテッポウユリとの異同が問題になるが、今日ではタカサゴユリに含める考え方が一般的である。					
⑥被害状況	花が美しく野生地では大事にされる場合もあるが、繁殖力旺盛であるため注意を要する。					
⑦必要な防除対策	地下の鱗茎（ユリ根）はやや深い位置にあり、掘り取ることが困難。花期に地上部は刈り取る。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社.2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教.2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	メリケンガヤツリ	学名	<i>Cyperus eragrostis</i>	目科名	単子葉植物カヤツリグサ科
	カテゴリー(2019)	準被害危惧種	タイプ(2019)	Ba	国リストカテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー(2005)	-	タイプ(2005)	B	原産地	熱帯アメリカ
	導入・侵入年代	1950年代後半	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	本州（関東以西）－琉球				
	府内	亀岡市、京都市、向日市、大山崎町、八幡市、京田辺市、城陽市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	河川敷や湿った陽地に生える常緑の多年草。茎は高さ30～100cm、三稜形、小穂は扁平、長さ10～15mm、果実は三稜形で長さ1mm。倒卵形。					
⑤近似種との見分方	この属には多くの帰化種があり、それぞれ区別は難しい。常緑であるのが、一つの目安になる。					
⑥被害状況	他の湿生植生への影響は目に見えないが確実であろう。水田にも侵入するが、今のところ目立った被害は知られていない。					
⑦必要な防除対策	群生地では刈り取り、地下部の除去。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草」（全農教、1987）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	カロライナツクサ	学名	<i>Commelina caroliniana</i>	目科名	単子葉植物ツクサ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	インドとその周辺
	導入・侵入年代	2010年頃	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	東海以西の本州、九州				
	府内	亀岡市？、京都市？				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/>生態系被害、 <input type="checkbox"/>農林水産業被害、 <input type="checkbox"/>人身・健康被害、 <input type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/>植生への影響、 <input type="checkbox"/>競合・駆逐、 <input type="checkbox"/>遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input checked="" type="checkbox"/>定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/>繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/>被害が大きい、 <input type="checkbox"/>特殊性、 <input type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	農地や河川周辺に生え、ときに群生する。花の大きさは在来のツクサと同程度であるが、花弁が三枚あること（ツクサでは一枚が退化しており、二枚）、花色が明るい水色である。					
⑤近似種との見分方	花弁が三枚である点でシマツクサ（府内に記録あり）に似るが、シマツクサの花は小さく、また花色はツクサと同程度の青色である。					
⑥被害状況	この仲間は一時分類が混乱しており、原産地が北アメリカではなくインド周辺であることが分かったのも最近のことである。府内における本種の詳細な分布と被害状況は不明である。よく似たものが亀岡市や京都市山科区などから報告されている。					
⑦必要な防除対策	いまのところ目立った被害があるとは言えない。本種の特徴を把握したうえで、抜き捨てるのが望ましい。					
⑧改訂の理由	府内産確定。意外に普通種になっている。					
⑨参考文献	植村修二他『増補改訂 日本帰化植物写真図鑑 第2巻』（2015）、全農教					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	セイヨウミヤコグサ	学名	<i>Lotus corniculatus</i>	目科名	双子葉植物離弁花類 マメ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	1970年代	導入・侵入原因	緑化用・牧草用に用い込まれたと思われる		
②分布範囲	全国	沖縄を除く全土				
	府内	高速道路のPA・SAや河川堤防に散発的に見られる				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	やせ地でもよく育ち、多数の花をつける多年草。茎はやや斜めに立ち高さ10～50cmで中空でない。葉は3小葉からなる複葉で小葉は卵形～倒卵形。多くは多少毛をもつ。葉の基部の托葉は大きさ・形ともふつうの小葉と変わらず、5小葉に見える。花は枝先に3～7個ほど放射状に集まり花序となる。					
⑤近似種との見分方	在来のミヤコグサによく打似ているが、枝先に付く花は材や胃のもので1-3個であるのに対し、セイヨウでは3-7である。また、在来のミヤコグサの茎や葉は無毛であるが、セイヨウはふつう有毛。					
⑥被害状況	在来のミヤコグサとは変種関係にあるため、相互に容易に交雑すると考えられる。遺伝子かく乱についての研究は未見であるが、抜き捨てるべきものだろう。					
⑦必要な防除対策	多年草であり、開花期に花を見て抜き捨てるのが望ましい。					
⑧改訂の理由	府内産確定					
⑨参考文献	長田 原色日本帰化植物図鑑(1976).: 保育社: 清水ほか 日本帰化植物写真図鑑(2001) 全農教					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
(執筆者) 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	エビスクサ	学名	<i>Sema obtusifolia</i>	目科名	双子葉植物離弁花類 マメ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	熱帯アメリカ
	導入・侵入年代	江戸時代	導入・侵入原因	薬用		
②分布範囲	全国	本州（関東以南）－沖縄				
	府内	京丹後市、舞鶴市、亀岡市、京田辺市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	港湾、市街地の空地、農耕地帯の路傍、休耕地、砂地などの陽地に生える一年草。葉は偶数羽状複葉。小葉は倒卵形。果実はササゲ状であんがさ10-20cm。					
⑤近似種との見分方	クサセンナ、オオバセンナが帰化しているが、これらの葉は先が尖る。この二種はまだ府内ではみかけない。					
⑥被害状況	いまのところ目立った状況ではない。					
⑦必要な防除対策	本種は栽培からの逸失か、別ルートでの帰化かは不明。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社.2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教.2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	タチオランダゲンゲ（雑種）	学名	<i>Trifolium hybridum</i>	目科名	双子葉植物離弁花類マメ科
	カテゴリー（2019）	準被害危惧種	タイプ（2019）	Ba	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー（2005）	被害危惧種	タイプ（2005）	Ba	原産地	ヨーロッパ、アフリカ、西アジア
	導入・侵入年代	1902	導入・侵入原因	牧草として移入		
②分布範囲	全国	北海道～沖縄				
	府内	宮津市、綾部市、南丹市、亀岡市、京都市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	シロツメクサとムラサキツメクサの両者に似ている。					
⑤近似種との見分方	シロツメクサとは茎が匍匐せず斜上一直立することにより、ムラサキツメクサとは花序の直下に葉がないことで区別する。					
⑥被害状況	しばしば群生。そのため他の草を圧迫。					
⑦必要な防除対策	多年草であるから根絶は困難。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、佐竹義輔他著「日本の野生植物（草本Ⅱ）」（平凡社、2003）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ゲンゲ（レンゲ）	学名	<i>Astragalus sinicus</i>	目科名	双子葉植物離弁花類 マメ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	中国大陸
	導入・侵入年代	江戸時代以前	導入・侵入原因	緑肥・観賞用		
②分布範囲	全国	定義上国内外来扱いのため、詳細は不明。冬季多雪地をのぞいた本州南部以南。				
	府内	府内のほぼ全域				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	広く知られた緑肥・蜜源植物であり、しばしば田畑周辺に逸出する一年草。秋～春型の成長をし、初夏には結実して枯れる。湿りがちのところを好むが、停滞水には弱い。日当たりのよいところを好み、森林内には入らない。					
⑤近似種との見分方	花を輪状につける特有の姿となり、紛らわしいものはない。					
⑥被害状況	水田耕作の時期や方法が変わったのと、化学肥料の普及により、近年は田でもほとんど作られなくなった。逸出するものも減っており、被害といえる事例の報告は近年見当たらない。					
⑦必要な防除対策	現時点では必要なし。					
⑧改訂の理由	農耕地周辺に逸出					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オキジムシロ	学名	<i>Potentilla supina</i>	目科名	双子葉植物離弁花類バラ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	1950年初頭	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	本州－九州				
	府内	舞鶴市、亀岡市、京都市、八幡市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input checked="" type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	京都府産のpotentillaはカワラサイコを除きほとんどが茎はツル性となるが、オキジムシロの茎が斜上一直立する。					
⑤近似種との見分方	カワラサイコの葉に似ているが、カワラサイコの小葉は長さ2－5cm。オキジムシロの小葉は長さ11－25mm。					
⑥被害状況	府内ではとくに被害の事例は報告されていない。					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）、清水他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	アメリカフウロ	学名	<i>Geranium carolinianum</i>	目科名	双子葉植物離弁花類フウロソウ科
	カテゴリー(2019)	準被害危惧種	タイプ(2019)	Ba	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	被害危惧種	タイプ(2005)	Ba	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1932年頃	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	宮城県以南の本州ー沖縄				
	府内	福知山市、亀岡市、京都市、八幡市、京田辺市、精華町、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	秋～春型の成長をする一年草。荒地、河川敷、休耕田などの陽地に生え、円形の葉が掌状に深裂。裂辺は細い。1960-1970年ごろ各地で繁茂。一時衰退したが近年また繁茂の傾向にある。堤防などで刈草を燃やすと、その跡地によく生えてくる。アルカリ性土壌を好むとみられる。					
⑤近似種との見分方	いまのところ近似種は見あたらない。					
⑥被害状況	種子は風散布であるため、畑に侵入すると周辺の畑にも広がり、根絶は難しい。					
⑦必要な防除対策	大型に育つと根を深く張るので、秋～冬に小さな掌状葉の段階で抜き捨てるのかよい。開花は晩春～初夏であり、そのころまでには確実に除去すること。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、佐竹義輔他著「日本の野生植物（草本Ⅱ）」（平凡社、2003）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ヒメフウロ	学名	<i>Geranium robertianum</i>	目科名	双子葉植物離弁花類フウロソウ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	北半球の温帯
	導入・侵入年代	2005年ころ?	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	不明				
	府内	京都市周山地区、左京区、長岡京市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	葉はやや鳥足状に3回中裂する一年草。石垣や林道のそばの岩壁などに見られる。在来のヒメフウロと見分けがつかないくらい似ているが、府内には在来のものは知られていない。					
⑤近似種との見分方	ヤサカフウロがよく似ていて、葯の色や葉の分岐で区別できるとするが、相互の変異は重なっているようで、ここでは同種として扱う。チゴフウロとは葉の形や切れ込みの仕方で区別容易である。					
⑥被害状況	一部の涼しい山間部の崖地で群生することはあるが、全体が繊弱で愛らしい山草風であり、通常は被害軽微である。					
⑦必要な防除対策	群生する場合には適宜抜き捨てるようにしないと、その場所の種多様性が大きく減るおそれがある。					
⑧改訂の理由	府内産報告あり					
⑨参考文献	植村修二他『増補改訂 日本帰化植物写真図鑑 第2巻』(2015)、全農教					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オオマツヨイグサ	学名	<i>Oenothera erythrosepala</i>	目科名	双子葉植物離弁花類アカバナ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	ヨーロッパ（雑種起源）
	導入・侵入年代	1870年頃	導入・侵入原因	観賞用？		
②分布範囲	全国	北海道ー沖縄				
	府内	京丹後市、亀岡市、京都市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	荒地、路傍、畑地、河川敷、海岸などの陽地に生える大型の2年草。しばしば群生する。茎には基部があかくふれた毛が多い。					
⑤近似種との見分方	メマツヨイグサ、オニマツヨイグサら似たものが多く、それぞれの種で変異が多いため区別は難しい。					
⑥被害状況	近年やや衰退の傾向にあるようであるが、群生した場合には他の草への影響が大きい。					
⑦必要な防除対策	開花するとその株は枯れるため、開花時の刈り取りが有効である（種子をつくらせない）。近似種のメマツヨウグサ、アレチマツヨイグサ、オニマツヨイグサも外来種であるため、 <input type="checkbox"/> ゼット状態の小苗を抜き取ってもよい。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	マメグンバイナズナ	学名	<i>Lepidium virginicum</i>	目科名	双子葉植物離弁花類 アブラナ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1892年（牧野説）	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道ー琉球				
	府内	京丹後市、舞鶴市、亀岡市、京都市、城陽市、京田辺市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、荒地、河川敷、農作業道などの陽地にしばしば群生。					
⑤近似種との見分方	果実が単配状で小さい。					
⑥被害状況	目立った被害は見受けられないが、群生地では在来種への影響が懸念される。					
⑦必要な防除対策	現時点では必要ないと思われる。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ハナダイコン (シヨカツサイ)	学名	<i>Hesperis matronalis</i>	目科名	双子葉植物離弁花 類アブラナ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	ユーラシア北部
	導入・侵入年代	江戸時代以前	導入・侵入原因	観賞用（中国から）		
②分布範囲	全国	北海道～九州				
	府内	各地				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input type="checkbox"/>生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/>農林水産業被害、 <input type="checkbox"/>人身・健康被害、 <input type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/>植生への影響、 <input type="checkbox"/>競合・駆逐、 <input type="checkbox"/>遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input checked="" type="checkbox"/>定着性が高い、 <input type="checkbox"/>環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/>繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/>被害が大きい、 <input type="checkbox"/>特殊性、 <input type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	<p>秋～春型の成長をする一年草。草丈は60 - 90cmになる。葉は互生し、下部の葉はやや深く切れ込んで、複葉状になることもある。茎上部の葉はへら形の単葉で、基部はアブラナのように茎を抱く。花は4-は5月に咲き、直径2cmほどの薄紫色。</p>					
⑤近似種との見分方	<p>開花するまでは、同じように野生化するナタネ（セイヨウナタネ）と紛らわしいが、開花すれば花色で明瞭に区別できる。カラシナ（セイヨウカラシナ）の葉は茎を抱かないため、それとの区別は容易である。</p>					
⑥被害状況	<p>道路わきや林縁に逸出・野生化するのを時に見かけるが、本来は寒地の植物であり、府内ではほとんど定住しない。</p>					
⑦必要な防除対策	<p>あまりに多く繁茂するようなら多様性重視の観点から刈り取る必要があるが、野生状態に見えても住民が意図的に播種している場合もある。それを見極めてから対処する。</p>					
⑧改訂の理由	<p>園芸からの逸出</p>					
⑨参考文献	<p>長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）</p>					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<p><input type="checkbox"/>IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/>日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/>特定外来生物（外来生物法）、</p>					
<p>（執筆者） 光田重幸</p>						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	タンシウチワ	学名	<i>Opuntia stricta</i>	目科名	双子葉植物離弁花類サボテン科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	中南米
	導入・侵入年代	江戸時代初期?	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	関東以西の本州—九州、沖縄				
	府内	不明				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/>生態系被害、<input type="checkbox"/>農林水産業被害、<input checked="" type="checkbox"/>人身・健康被害、<input type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、<input checked="" type="checkbox"/>植生への影響、<input type="checkbox"/>競合・駆逐、<input type="checkbox"/>遺伝子かく乱、<input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、<input type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、<input type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input type="checkbox"/>定着性が高い、<input type="checkbox"/>環境適応性が高い、<input type="checkbox"/>繁殖能力が高い、<input type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、<input type="checkbox"/>被害が大きい、<input type="checkbox"/>特殊性、<input type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	主に海岸部や河川敷に逸出しているウチワサボテン。耐寒性はやや強く、暖地の路地で越冬する。短刺（芒刺）はほとんどなく、鋭い長刺が発達する。莖節は自然に落下することがあり、それで繁殖するほか、種子でも繁殖可能。					
⑤近似種との見分方	近似種が多いが、戸外で越冬し、短刺が発達せず鋭い長刺のみのウチワサボテンは、本種と見てよい。					
⑥被害状況	住宅地で垣根代わりに植えられているのは精華町などで見られるものの、野外に逸出しているものは府内では未見。鋭い刺があるので人的被害にいたる可能性があり、逸出した場合には除去も困難である。					
⑦必要な防除対策	野外に逸出させないように注意喚起が必要。					
⑧改訂の理由	府内産確定					
⑨参考文献	植村修二他『増補改訂 日本帰化植物写真図鑑 第2巻』（2015）、全農教					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オオイタドリ	学名	<i>Fallopia sachalinensis</i>	目科名	双子葉植物離弁花類タデ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	日本あるいは韓国
	導入・侵入年代	1990年代?	導入・侵入原因	砂防?		
②分布範囲	全国	自生のものもあり確定できないが、四国・九州のものは外来である。				
	府内	京丹後市（自生の可能性も残る）、和束町、南山城村。府内のものは遺伝的に日本海グループ				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	高さ3mに達する壮大な多年草。地下茎で繁殖し、密な群落を作る。群生地地表は暗くなるため、その場所を占有する。					
⑤近似種との見分方	在来のイタドリが似ているが、全体に大きく、葉は丸みを帯びる。					
⑥被害状況	群生地では植物種の多様性が低下するほか、イタドリとの交雑により雑種のアイイタドリができるため、遺伝子の攪乱が懸念される。					
⑦必要な防除対策	府南部個体群は林道わきにあり、重機によって根茎ごと除去するのが望ましい。					
⑧改訂の理由	確実に外来のものあり					
⑨参考文献	植村修二他『増補改訂 日本帰化植物写真図鑑 第2巻』(2015)、全農教					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オランダミミナグサ	学名	<i>Cerastium glomeratum</i>	目科名	双子葉植物離弁花類ナデシコ科
	カテゴリー(2019)	準被害危惧種	タイプ(2019)	Ba	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	被害危惧種	タイプ(2005)	B a	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	明治末期に渡来発見	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道、本州、四国				
	府内	京丹後市から南山城村までの府内全域				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input checked="" type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	秋～春型の成長をする一年草。都市部や平地を中心に、田の畦、休耕田、畑地、路傍、河川敷、荒地などのいたるところに群生する。					
⑤近似種との見分方	在来種のみミナグサは一般に茎の色が紫色を帯び果柄が短い、本種は茎が緑色で果柄が長いなどの点で区別する。					
⑥被害状況	群生するため、在来のみミナグサに与える影響が懸念される。					
⑦必要な防除対策	春に開花するため、それ以前に刈り取る。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、北村四郎・村田源「原色日本植物図鑑草木Ⅱ」（保育社、1987）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ムシトリナデシコ	学名	<i>Silene armeria</i>	目科名	双子葉植物離弁花類ナデシコ科
	カテゴリー(2019)	準被害危惧種	タイプ(2019)	Ba	国リストカテゴリー	その他の総合対策外来種
	カテゴリー(2005)	被害危惧種	タイプ(2005)	B a	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	幕末	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	北海道～九州				
	府内	京丹後市、舞鶴市、亀岡市、京都市、京田辺市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	秋～春型の成長をする一年草。茎に帯状の粘着部がある。河川敷にとくによく生える。					
⑤近似種との見分方	この属では他に似たものは全くない。					
⑥被害状況	今のところ顕著な被害は認められないが、繁殖がつづけば植生への影響が懸念される。					
⑦必要な防除対策	結実する前に除草する。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ブラジルチドメグサ	学名	<i>Hydrocotyle ranunculoides</i>	目科名	双子葉植物離弁花類セリ科
	カテゴリー(2019)	準被害危惧種	タイプ(2019)	Ba	国リストカテゴリー	緊急対策外来種
	カテゴリー(2005)	-	タイプ(2005)	-	原産地	南北アメリカ
	導入・侵入年代	1998年頃	導入・侵入原因	アクアリウム植物		
②分布範囲	全国	詳細は不明。関西以西の本州と九州				
	府内	府内では未発見（よく似たウチワゼニクサは京丹後市、京都市で見つかっている）				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	多年生の抽水植物で茎の長さは1m以上になる。水に浮いた状態で水面に広がり、ときには水面を覆いつくす。葉身は3～7cmで上面につやがあり、根は水中では30cm近く伸びる。花序は節に1～3個で葉に隠れるようにしてつき、目立たない。					
⑤近似種との見分方	ウチワゼニクサ（別名タテバチドメグサ）では葉がしばしば垂直に開き、花序は大きくて葉群から突き出て咲く。					
⑥被害状況	府内未発見であるが、繁茂すると水生生物に甚大な被害をもたらすため、今後の注意が必要である。					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	水湿地に定着					
⑨参考文献	植村修二他『増補改訂 日本帰化植物写真図鑑 第2巻』（2015）、全農教					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	コブシ	学名	<i>Magnolia kobus</i>	目科名	双子葉植物離弁花類モクレン科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	国内
	導入・侵入年代	不明	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	不明				
	府内	府南部（宇治川以南）				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input type="checkbox"/>生態系被害、<input type="checkbox"/>農林水産業被害、<input type="checkbox"/>人身・健康被害、<input type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、<input checked="" type="checkbox"/>植生への影響、<input type="checkbox"/>競合・駆逐、<input type="checkbox"/>遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、<input type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、<input type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input type="checkbox"/>定着性が高い、<input type="checkbox"/>環境適応性が高い、<input type="checkbox"/>繁殖能力が高い、<input type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、<input type="checkbox"/>被害が大きい、<input type="checkbox"/>特殊性、<input type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	<p>湿地や造成跡地のような明るい場所で見ることが多い。形態はコブシと同じであるが、植栽された痕跡はなく、本来はコブシが自生している地域ではないため、小鳥などによる種子の散布が原因と見られる。</p>					
⑤近似種との見分方	<p>形態的にはコブシと変わらない。府内には大型になるキタコブシ系もあるが、拡散しているものは幼木段階のため、違いはよくわからない。</p>					
⑥被害状況	<p>明るい湿地は希少生物が密集しているところであり、樹林化を防ぐためにも憂慮される。</p>					
⑦必要な防除対策	<p>アセス調査などで見つかった場合には除去するのが望ましい。</p>					
⑧改訂の理由	<p>一部は植栽のものからの逸出。在来自生種もあり。</p>					
⑨参考文献	<p>行年 恭兵ほか「国内外来種コブシからシデコブシへの遺伝子浸透の可能性」第127回日本森林学会大会（2016）</p>					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<p><input type="checkbox"/>IUCNワースト100、<input type="checkbox"/>日本生態学会ワースト100、<input type="checkbox"/>特定外来生物（外来生物法）、</p>					
<p>（執筆者） 光田重幸</p>						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ナンテン	学名	<i>Nandia domestica</i>	目科名	双子葉植物離弁花類 メギ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	中国（国内外来もある？）
	導入・侵入年代	不明	導入・侵入原因	観賞と薬用		
②分布範囲	全国	関東南部以西の本州。四国・九州				
	府内	府内では各地の森林に見られる				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	常緑性の低木で、広く栽培されるほか、森林域で普通に自生状にみられる。とくに石灰分を多く含む石灰岩・緑色岩地帯には多く、かつて自生があった可能性も捨てきれない。					
⑤近似種との見分方	間違えるようなものはない。					
⑥被害状況	森林域で見られるほとんどのものは、小鳥などの種子散布によるものであると思われる。もとの自生のものが混じっていても、現時点では見分けることは不可能と思われる。生態系に影響を与えているのは事実としても、問題になるような被害はシュロよりずっと少ない。					
⑦必要な防除対策	ヒイラギナンテンよりはるかに森林域での個体数が多いものの、外来植物として問題になることはほとんどない。ヒヨドリなどの自然な採餌行動に影響を与えられるため、森林域であまりに個体数が多いようなら、適宜間引く必要がある。					
⑧改訂の理由	一部は確実に国内外来性。自生のものもあるとみられる。					
⑨参考文献	ナンテンの国内外来個体についての文献は見当たらないが、国外外来であるヒイラギナンテンやホソバヒイラギナンテンについては、以下に言及がある。植村修二他『増補改訂 日本帰化植物写真図鑑 第2巻』（2015）、全農教					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オシロイバナ	学名	<i>Mirabilis jalapa</i>	目科名	双子葉植物離弁花類オシロイバナ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	熱帯アメリカ
	導入・侵入年代	江戸時代（元禄年間）	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	北海道～沖縄				
	府内	亀岡市以南の河川敷や斜面・空地で見ることが多いが、府内に広く分布している。				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	暖地では根茎が枯れないため多年草となる。性質が強く草丈も1.5mほどと高くなるため、毎年同じ場所で見られることが多い。古くから観賞用に栽培されてきた園芸植物が逸出・野生化したものであるが、付近の住民が世話をしていることもある。種子をつぶすと白い粉状になり、子供の「おしろい遊び」に使われた。					
⑤近似種との見分方	似たものはない。					
⑥被害状況	堤防などで繁茂すると有機物が溜まる原因になる。また、林縁などで繁茂すると生物多様性が低下するので、注意が必要になる。					
⑦必要な防除対策	公共の場所であれば、状況に応じて適宜刈り取る。					
⑧改訂の理由	園芸からの逸出					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オオキバナカタバミ	学名	<i>Oxalis pes-caprae</i>	目科名	双子葉植物離弁花類カタバミ科
	カテゴリー(2019)	準被害危惧種	タイプ(2019)	Ca	国リストカテゴリー	その他の総合対策外来種
	カテゴリー(2005)	-	タイプ(2005)	-	原産地	南アフリカ
	導入・侵入年代	明治中期以降	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	関東以西の本州～沖縄				
	府内	府南部の公園付近や路傍。まだ確認地点は少ないが、拡大傾向				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	春から初夏に開花する多年草で、ほぼ常緑。主に栄養繁殖、根部の鱗茎が分離して増えるが、結実して種子でも増える可能性がある。地上茎はなく葉はすべて根生。葉は3小葉からなり、ハナカタバミほどではないがやや光沢があって、紫褐色の斑点が散在する。花茎の頂部に直径1.5～3cm、黄色の花が1～5個つく。					
⑤近似種との見分方	地上茎がなく花が大きいと、同じ黄花の在来カタバミや外来のオッタチカタバミとの区別は容易。ハナカタバミやムラサキカタバミなどとは花色で区別できる。					
⑥被害状況	府南部で局所的に公園の近くや路傍で広がり始めている。現段階で特に被害は認められないが、九州から奄美諸島では車道わきに群生しているところがあり、今後の警戒が必要である。					
⑦必要な防除対策	地下部の鱗茎による繁殖がほとんどみられるため、掘り取りが有効である。しかしムラサキカタバミと同様に、鱗茎が散らばると再生するため、掘り取りにあたっては注意が必要。					
⑧改訂の理由	すでに定着し、普通種。					
⑨参考文献	清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教.2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	マメアサガオ	学名	<i>Ipomoea lacunosa</i>	目科名	双子葉植物合弁花類 ヒルガオ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	A a	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1940年代	導入・侵入原因	輸入雑穀に種子が混入		
②分布範囲	全国	本州（関東以西）－沖縄				
	府内	亀岡市、京都市、宇治市、長岡京市、大山崎町、京田辺市、宇治田原町、				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、荒地、河川敷などの陽地にはえるつる性の一年草。花は白色。径2cm。花柄に著しい突起が多い。					
⑤近似種との見分方	ホシアサガオがよく似ているが、マメアサガオより花柄が長く、花の数も多い。また花柄の突起は少ない。					
⑥被害状況	群生するため、他の植物を圧倒。しかし日本では外来植物の多いところに生えるため、特に被害は認められない。ダイズ類。トウモロコシ類など畑への侵入を防ぐことが大事。					
⑦必要な防除対策	本国ではトウモロコシ、ダイズ、ワタなどの耕作地で農業被害が報告されている。発見次第抜き取ること。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	マツバウンラン	学名	<i>Linaria canadensis</i>	目科名	双子葉植物合弁花類オオバコ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1940年代初頭	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	関東以西ー瀬戸内海沿岸				
	府内	福知山市、亀岡市、京都市、京田辺市、城陽市、宇治田原町				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	荒地、路傍、河川敷、芝生の中などに生える2年草。茎は直立し、50cm前後、花は青紫色。					
⑤近似種との見分方	オオマツバウンランと外見は良く似る。これの距は長く、8ー9mmに達する。					
⑥被害状況	今のところ被害は認められないが、繁殖力旺盛なため、今後の推移に要注意。					
⑦必要な防除対策	種子が実るに抜き取る。群生した場合。花はなかなか美しい。目下のところ放置してもよいと思われる。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	タチイヌノフグリ	学名	<i>Veronica arvensis</i>	目科名	双子葉植物合弁花類オオバコ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	準被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	1984年頃	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道～沖縄				
	府内	京丹後市、舞鶴市、福知山市、南丹市、亀岡市、京都市、八幡市、京田辺市、宇治田原町、精華町、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、畑、川原、海岸、砂地、芝生などの陽地に生える小型の一年草。秋～春型の成長をする。茎は直立し、花は葉腋に小さく径4mm、白紫色。					
⑤近似種との見分方	オオイヌノフグリは地上をはい。タチイヌノフグリは直立。花弁は前者は大きく紫青色。					
⑥被害状況	畑地の雑草。自然界では大きな影響は認められない。					
⑦必要な防除対策	特になし					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ヒメアメリカアゼナ	学名	<i>Lindernia anagallidea</i>	目科名	双子葉植物合弁花類アゼナ科
	カテゴリー(2019)	準被害危惧種	タイプ(2019)	Aa	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	準被害危惧種	タイプ(2005)	Aa	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1933年頃?	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	本州（関東以西）				
	府内	京丹後市、亀岡市、京都市、長岡京市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	水田特に休耕田、河川敷、溜池などの陽地に生える。茎は高さ15-25cm葉脈から葉より長い花柄を出す。陽湿地の植物である。					
⑤近似種との見分方	近年までアメリカアゼナと混同されちたが、花柄がより長い（長の2倍位）のため別種であると気づかれた。しかし雑種もあるとみられ、同定は容易ではない。そのため渡来年代には諸説がある。					
⑥被害状況	休耕田などで密生状の群落をなすが、一時的なもので特に問題ありとは思えない。					
⑦必要な防除対策	微細な種子を多量に生産するので、特に防除策はない。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社.2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教.2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	タケトアゼナ	学名	<i>Lindernia dubia</i> var.?	目科名	双子葉植物合弁花 類アゼナ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1936年西宮市で初 確認	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道～沖縄				
	府内	おそらく全域				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	水湿地に生える一年草で、やや乾いた畑でも見ることがある。対生する葉には低い鋸歯がある。同様の特徴を持つアメリカアゼナの一系統と考えられ、水田除草剤に抵抗性を示す系統が問題になっている。					
⑤近似種との見分方	アメリカアゼナ（狭義）の葉の基部は狭い楔形であるが、タケトアゼナでは円形。在来のアゼナの葉には鋸歯がない。					
⑥被害状況	水田で問題になるが、稲が育つ頃には本種よりはるかに葉が高くなるため、ほとんど被害はない。					
⑦必要な防除対策	あまり繁茂するようなら、稲成長初期に機械除草や器具除草を考えるとよい。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ブタクサ	学名	<i>Ambrosia artemisiifolia</i> var. <i>elatio</i> r	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー(2019)	準被害危惧種	タイプ(2019)	Aa	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	被害危惧種	タイプ(2005)	Aa	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	明治初期	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道ー沖縄				
	府内	京丹後市、舞鶴市、亀岡市、向日市、長岡京市、京田辺市、精華町、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、空地、農作業道、河川敷、堤防、海岸砂上に至るまで陽地に群生する一年草。茎は高さ30ー120cm。葉は羽状に深裂。雌雄異花で穂状の花序の上部は雄性。下部に数個雌花がつく。					
⑤近似種との見分方	ブタクサモドキが最も似ているが、この葉は1回羽状細裂、雌花の苞には粗く固い毛が生える。横に伸びる地下茎の存在がブタクサと決定的な違いである。					
⑥被害状況	風媒花であるため、多量の花粉を散布し、花粉アレルギーを起こすとして問題になった。本種は近年衰退の傾向にあり、一頃のように大繁茂は影を潜めたが今後の推移を見守る必要がある。					
⑦必要な防除対策	開花中の草刈りが有効と思われるが、生育地が広く困難である。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ウスベニチチコグサ	学名	<i>Gnaphalium purpureum</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー(2019)	準被害危惧種	タイプ(2019)	Aa	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	準被害危惧種	タイプ(2005)	Aa	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1930年代	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	本州（関東以西）－九州				
	府内	京丹後市、福知山市、綾部市、南丹市、亀岡市、京都市、長岡京市、久御山町、宇治市、京田辺市、精華町、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、空地、荒地、芝生、公園の端などに生える1～2年草。茎は高さ15～40cm。葉はへら形、下面は灰白色、総苞は鋭尖頭で紫紅色。					
⑤近似種との見分方	チチコグサモドキが最も似ている。これの総苞は鋭頭－鈍頭で褐色。					
⑥被害状況	現時点での被害は取り立てて云うほどではない。					
⑦必要な防除対策	開花期の除草。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社.2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教.2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	アレチノギク	学名	<i>Conyza bonariensis</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	準被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	南アメリカ
	導入・侵入年代	明治中期	導入・侵入原因	羊毛のクズに附着して		
②分布範囲	全国	本州（関東・近畿）（かつては日本本土に広く分布していたため、もっと広域の可能性あり）				
	府内	亀岡市、京都市、京田辺市（府内もっと広域に及ぶと思われる）				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	主茎が50～60cmで止まり側枝が主茎より高く伸張する特性がある。					
⑤近似種との見分方	よく似たオオアレチノギクは草丈120～200mに達し主茎が途中で止まることはない。					
⑥被害状況	しばしば群生し他の植物を圧迫する。					
⑦必要な防除対策	抜き取りや開花時の刈り取り。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅰ」（全農教、1987）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オオキンケイギク	学名	<i>Coreopsis lanceolata</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	緊急対策外来種
	カテゴリー (2005)	準被害危惧種	タイプ (2005)	B a	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	明治中期	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	ほぼ全国				
	府内	福知山市、綾部市、亀岡市、京田辺市、精華町、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/>生態系被害、<input type="checkbox"/>農林水産業被害、<input type="checkbox"/>人身・健康被害、<input type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、<input checked="" type="checkbox"/>植生への影響、<input type="checkbox"/>競合・駆逐、<input type="checkbox"/>遺伝子かく乱、<input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、<input type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、<input checked="" type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input type="checkbox"/>定着性が高い、<input type="checkbox"/>環境適応性が高い、<input checked="" type="checkbox"/>繁殖能力が高い、<input checked="" type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、<input type="checkbox"/>被害が大きい、<input type="checkbox"/>特殊性、<input type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	近年高速道路の法面に種子吹付けが行われるようになり、急速に拡散する因となった。しばしば群生、大群落をなす。河川敷や堤防でも大繁殖することがある。					
⑤近似種との見分方	ハルシャギク（稀に逸出・帰化）と似ているが、これの舌状花基部には赤く染まるので黄色一色のオオキンケイギクとは区別できる。					
⑥被害状況	群生した場合は他の植物に悪影響を及ぼす。					
⑦必要な防除対策	群生地では開花期に刈り取る。しかし花が美しく目立つため無知によるクレームがつく心配があるので説明を要す。地下部は頑丈であるから、根茎を残さないよう丁寧に掘り取るのが望ましい。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ベニバナボロギク	学名	<i>Crassocephalum crepidioides</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	準被害危惧種	タイプ (2005)	B a	原産地	熱帯アフリカ
	導入・侵入年代	1940年代	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	本州、四国、九州、沖縄、小笠原諸島				
	府内	舞鶴市、冠島、福知山市、綾部市、京丹波町、亀岡市、京田辺市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、登山道脇、森林伐採跡、林道脇、河川敷、畦、他の岸、休耕田など至る所の陽地に生える一年草。茎は70cmに達し全草軟弱。頭花は点頭し橙赤色。シュンギク様の香気がある。					
⑤近似種との見分方	別属のダンドボロギクがよく似ているが葉は広線形-狭披針形。頭花は白色で、下垂しない。					
⑥被害状況	シカの不嗜好植物で、林道端などでよく群生する。ただ、群生しても一時的なもので本来の極性が回復すれば消滅する。空地や陽地を渡り歩く漂泊種で、ほとんど大きな被害を及ぼすことはない。					
⑦必要な防除対策	特になし。シュンギク同様、食用となるので摘み取って大いに利用したい。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅰ」（全農教、1987）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	タカサブロウ外来型（アメリカタカサブロウ）	学名	<i>Eclipta thermalis</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	準被害危惧種	タイプ (2005)	B a	原産地	熱帯アメリカ
	導入・侵入年代	1948年	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	本州（関東以西）の西日本				
	府内	京丹後市、舞鶴市、福知山市、南丹市、亀岡市、京田辺市、精華町				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/>生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/>農林水産業被害、 <input type="checkbox"/>人身・健康被害、 <input type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/>植生への影響、 <input type="checkbox"/>競合・駆逐、 <input checked="" type="checkbox"/>遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input type="checkbox"/>定着性が高い、 <input type="checkbox"/>環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/>被害が大きい、 <input type="checkbox"/>特殊性、 <input type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	従来のタカサブロウと区別する研究者と区別出来ないとする研究者がいて、実態はよく判らない。しかしタカサブロウと別種とする意見には賛成しがたい。主に水田の縁、休耕田など湿地に多い。					
⑤近似種との見分方	タカサブロウとそっくりであるが、これの茎の節間上部は肥大せず、葉の鋸歯は不明瞭。アメリカタカサブロウは茎の節間上部が肥大し、葉の鋸歯は明瞭。					
⑥被害状況	水田雑草として繁茂することがある。また、在来のタカサブロウと交雑が進んでいる可能性もある。					
⑦必要な防除対策	開花時までには刈り取る。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社.2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教.2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					

（執筆者） 津軽俊介・光田重幸

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ダンドボロギク	学名	<i>Erechtites hieracifolia</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	準被害危惧種	タイプ (2005)	B a	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1930年代	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	本州ー琉球				
	府内	舞鶴市冠島、綾部市、南丹市、亀岡市、京都市、長岡京市、京田辺市、宇治田原町				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	春～秋型の成長をする一年草。林道脇、伐採後の山林、市街地の空地、休耕田、河川敷などの陽地に生え、しばしば群生する。					
⑤近似種との見分方	ベニバナボロギク（別属）によく似るが、これの葉は不規則に分裂、頭花は下垂し橙赤色。ダンドボロギクの葉は広線形ー披針形で分裂せず、頭花は白色。					
⑥被害状況	ベニバナボロギクと同じような環境に生え時に混生。しばしば群生するが、定着性にとぼしく空地を求めて漂泊する。					
⑦必要な防除対策	花期の刈り取り。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅰ」（全農教、1987）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ケナシヒメムカシヨモギ	学名	<i>Erigeron pusillus</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー(2019)	準被害危惧種	タイプ(2019)	Ba	国リストカテゴリー	その他の総合対策外来種
	カテゴリー(2005)	準被害危惧種	タイプ(2005)	Ba	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1920年代	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	本州－琉球				
	府内	京丹後市久美浜町、同網野町、宮津市、精華町				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、空地、海岸林内の砂地、池の端などに生える1～2年草。見かけはヒメムカシヨモギに極めて似ている。痩せ地、やや乾いた所などに生え、府内では海岸林下に多い。また湿地の縁にも生え、この場合大柄となる。					
⑤近似種との見分方	ヒメムカシヨモギによく似るが、茎・葉に毛が少なく、又は無毛である。総苞片の先に黒紫色の斑点が出るのはよい特徴である。					
⑥被害状況	特に被害があるとは思えないが、群生し大型となれば他の植生への圧迫が懸念される。					
⑦必要な防除対策	抜き取り。開花期の刈り取り。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ヘラバヒメジョオン	学名	<i>Erigeron strigosus</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	準被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	大正時代	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道ー琉球				
	府内	福知山市夜久野町、京田辺市、城陽市、精華町、南山城村				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	丘陵地の路傍、川岸の土手、河川敷などの陽地に生える1～2年草。姿はヒメジョオンとよく似る。分類学上問題のある種で、今はヤナギバヒメジョオンと同一とされることが多い。					
⑤近似種との見分方	ヒメジョオンに似るが、ヘラバヒメジョオンは茎・葉に毛が少なく、又は無毛。葉は全縁またはほとんど全縁でヘラ形。ヒメジョオンよりやや乾いた痩せ地を好む。					
⑥被害状況	ヒメジョオンと比べ、はるかに数が少なく、路傍や荒地に生えるので今のところ被害の心配はあまりない。今後の数の推移に要注意。					
⑦必要な防除対策	開花期の刈り取り。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅰ」（全農教、1987）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	タチチチコグサ	学名	<i>Gnaphalium calviceps</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー(2019)	準被害危惧種	タイプ(2019)	Ba	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	準被害危惧種	タイプ(2005)	Ba	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1910年代	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道～九州				
	府内	亀岡市、京都市、久御山町、京田辺市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、荒地、農作業道、公園などの陽地に生える1年草。茎中部以上の葉は細長く、倒披針形、頭花は茎頂・枝先に穂状につく。					
⑤近似種との見分方	似た仲間が多く区別は極めて難しい。府内ではまだ稀なエダウチチチコグサに最も似ているが、これの総苞片は円頭、タチチチコグサでは鋭頭。					
⑥被害状況	現時点では取り立てて云うほどの被害はないと思われる。					
⑦必要な防除対策	開花期の除草。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅰ」（全農教、1987）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	チチコグサモドキ	学名	<i>Gnaphalium pennsylvanicum</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー(2019)	準被害危惧種	タイプ(2019)	Ba	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	準被害危惧種	タイプ(2005)	Ba	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1910年ごろ	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	本州－九州				
	府内	亀岡市、京都市、京田辺市、城陽市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	畑、公園、空地、路傍、民家の庭、河川敷などに生える1～2年草。草丈15～40cm。葉はへら形、総苞は鋭頭で下半分に綿毛が多く褐色。					
⑤近似種との見分方	姿はウスベニチチコグサが最も似ているが、これの総苞は鋭尖頭で帯紅紫色。					
⑥被害状況	現時点では取り立てていう程の被害は無いと思われる。					
⑦必要な防除対策	開花期の除草。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ウラジロチチコグサ	学名	<i>Gnaphalium spicatum</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー(2019)	準被害危惧種	タイプ(2019)	Ba	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	準被害危惧種	タイプ(2005)	Ba	原産地	南アメリカ
	導入・侵入年代	1970年代	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	本州（関東以西）－九州				
	府内	舞鶴市、綾部市、亀岡市、京都市、長岡京市				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/>生態系被害、<input type="checkbox"/>農林水産業被害、<input type="checkbox"/>人身・健康被害、<input type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、<input checked="" type="checkbox"/>植生への影響、<input type="checkbox"/>競合・駆逐、<input type="checkbox"/>遺伝子かく乱、<input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、<input type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、<input checked="" type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input type="checkbox"/>定着性が高い、<input type="checkbox"/>環境適応性が高い、<input type="checkbox"/>繁殖能力が高い、<input checked="" type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、<input type="checkbox"/>被害が大きい、<input type="checkbox"/>特殊性、<input type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	路傍、空地、芝生、公園などに生える1～2年草。冬期根生葉がロゼット状となる。葉は上面緑色、下面雪白色。茎の葉も基部狭まっても広く、葉柄状とならない。総苞は、はじめ赤紫色のち褐色。					
⑤近似種との見分方	チチコグサモドキは花時根生葉はなく（ウラジロチチコグサは花時ロゼットが残る）、茎の葉の下部は柄のように細くなる。総苞は蕾でも赤紫色をおびず褐色。					
⑥被害状況	取り立てて云うほどの被害はないと思われる。					
⑦必要な防除対策	花期の除草。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社.2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教.2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	トゲチシャ	学名	<i>Lactuca scariola</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	準被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	1940年代	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道～九州				
	府内	京丹波町、亀岡市（多い）、京都市、向日市、京田辺市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、荒地、公園、河川敷、休耕田などの陽地に生える1～2年草。茎は高さ1～2m、葉は90°ねじれて垂直に立つ。道路の分離帯の植え込みの間で見かけることも多い。					
⑤近似種との見分方	この属では他に似たものはない。葉の特異な様子ですぐ判る。					
⑥被害状況	大型であるため群生すれば、やっかいであり、特に景観上問題となる。					
⑦必要な防除対策	開花期の刈り取り。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅰ」（全農教、1987）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ナルトサワギク	学名	<i>Senecio madagascariensis</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー(2019)	準被害危惧種	タイプ(2019)	Ba	国リストカテゴリー	緊急対策外来種
	カテゴリー(2005)	-	タイプ(2005)	C	原産地	東アフリカ
	導入・侵入年代	1970年代前半	導入・侵入原因	緑化用資材に混入？		
②分布範囲	全国	東西南部以南の本州、四国、九州				
	府内	詳細は不明であるが、府南部ではやや稀に見かけるようになった				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	一年草型と多年草型があるといわれるが、気候要因（冬の温度）による可能性もある。葉は披針形で鋭く尖り、通常鋸歯縁であるが、しばしば羽状に中-深裂する。頭花は径2.5cmほどで、外側に舌状花が十数個並び、湿りのある場所を好むが、路傍や高速道路の植え込みのような乾燥地にも生える。					
⑤近似種との見分方	在来のサワギクにやや似ているが、サワギクは溪流沿いなどの日陰地に生え、葉はほぼ羽状に深裂するため区別は容易。					
⑥被害状況	府内ではまだ純群落程度に群生するには至っていない。しかし今後の注意が肝要である。サワギク類は食用になるが、本種はアルカロイド類を含むために有毒とされる。					
⑦必要な防除対策	見かけが可憐なため意図的に移植栽培されることがあるが、特定外来生物として無許可の移動や栽培は禁止されている。見つけ次第刈り取って現場に放置し、枯れたのを確認後焼却処分にする。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社.2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教.2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	アカミタンポポ	学名	<i>Taraxacum laevigatum</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	準被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	1910年代	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道ー沖縄				
	府内	舞鶴市、福知山市、綾部市、京丹波町、南丹市、亀岡市、京都市、京田辺市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input checked="" type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、空地、梅林、山地林道脇、車道の割れ目、住宅地の路傍や石垣などに生える多年草、頭花は径2～3 cm、果実は褐赤色ー暗赤色。					
⑤近似種との見分方	セイヨウタンポポによく似るが葉はより細く裂け、果実が赤みをおびることで区別する。花もより小さい（セイヨウタンポポでは径3.5～5 cm）。					
⑥被害状況	近年次第に増加の傾向にあるが、今のところセイヨウタンポポより小さく、大きな被害は認められない。在来種との交種も報告されており、遺伝子かく乱が懸念される。					
⑦必要な防除対策	抜き取るしか手はない。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オオハンゴンソウ	学名	<i>Rudbeckia laciniata</i> <i>var. laciniata</i>	目科名	双子葉植物合弁花 類キク科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	緊急対策外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	C	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	明治中期 逸出確認 は1955年	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	北海道～沖縄				
	府内	京都市左京区				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/>生態系被害、<input type="checkbox"/>農林水産業被害、<input type="checkbox"/>人身・健康被害、<input type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、<input checked="" type="checkbox"/>植生への影響、<input type="checkbox"/>競合・駆逐、<input type="checkbox"/>遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、<input type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、<input checked="" type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input type="checkbox"/>定着性が高い、<input type="checkbox"/>環境適応性が高い、<input type="checkbox"/>繁殖能力が高い、<input type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、<input type="checkbox"/>被害が大きい、<input type="checkbox"/>特殊性、<input type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	<p>八重咲のものをハナガサギクという（キヌガサギクと混同しないよう注意）。冷涼で湿潤な環境を好むが、かなり幅広い環境でも生育する夏緑性の多年草。適地では大群落を成して、他の植物を締め出してしまう。ただし暖地で夏に乾燥するところでは、広がることは稀。</p>					
⑤近似種との見分方	<p>高く伸びる草体や花（頭状花）はキクイモやイヌキクイモに似ているが、オオハンゴンソウの葉は互生し、単羽状に深～浅裂する。キクイモ類の葉は茎の下半部で対生、葉は鋸歯縁である。ハンゴンソウは別属の在来種で、葉は単羽状全裂。</p>					
⑥被害状況	<p>京都市左京区の生育地では溪流沿いに繁茂し、一部は近くの農地や道端にも広がっている。溪流に沿うものは高茎の群落となり、他の植物を圧倒しており、植生の単純化が進む。</p>					
⑦必要な防除対策	<p>根茎で越冬する多年草であるため、掘り起こして根茎ごと除去する必要があるが、溪流に沿う場所では根茎の切れ端を下流に流さない配慮が必要。農地や道端のものは種子の供給源になるため、やはり掘り取りが望ましい。特定外来生物であるため、しかるべき法的手続きが事前に必要である。</p>					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	<p>長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）</p>					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	キクタニギク	学名	<i>Chrysanthemum seticuspe f. boreale</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Cd	国リスト カテゴリー	その他の総合対策 外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	中国北部・朝鮮半島
	導入・侵入年代	1990年代	導入・侵入原因	輸入吹き付け種子		
②分布範囲	全国	(在来のものを除いて) 東北北部、富山、広島、鳥取、島根、四国東部、長崎 (対馬)				
	府内	府内に在来系はあるが、外来系の報告は未知				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/>生態系被害、 <input type="checkbox"/>農林水産業被害、 <input type="checkbox"/>人身・健康被害、 <input type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/>植生への影響、 <input type="checkbox"/>競合・駆逐、 <input checked="" type="checkbox"/>遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input type="checkbox"/>定着性が高い、 <input type="checkbox"/>環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/>繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/>被害が大きい、 <input type="checkbox"/>特殊性、 <input type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	<p>日当たりのよい岩場や崖地に生える多年草。種としてはアワコガネギクの別名でも知られる。暖地では石灰分を含んだ岩石地帯に遺存的に見られるが、寒地ではその傾向ははっきりしない。自家受精しないことが多く、個体数が減ると生存が危ぶまれるものの一つである。</p>					
⑤近似種との見分方	<p>同時期に咲くシマカンギクとは、頭花の大きさの違いで明瞭に区別可能。在来系と外来系の区別は難しく、互いの変異も十分に調べられていない現状では、種子吹き付けの状況証拠から判断するのが大切である。</p>					
⑥被害状況	<p>府内からは外来系の報告はなく、すべて在来のものとみられる。名前の由来となった京都市東山区菊谷では一度絶滅し、近隣から異所性のものが導入されているが、厳密に言えばこれは国内外来にあたり、好ましいことではない。</p>					
⑦必要な防除対策	<p>府内で見られるキクタニギクは現状ではすべて在来の希少個体と考えられ、むしろ保護すべきものである。</p>					
⑧改訂の理由	<p>砂防用種子に由来？</p>					
⑨参考文献	<p>植村修二他『増補改訂 日本帰化植物写真図鑑 第2巻』(2015)、全農教</p>					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<p><input type="checkbox"/>IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/>日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/>特定外来生物（外来生物法）、</p>					
(執筆者) 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ノヂシャ	学名	<i>Valerianella olitoria</i>	目科名	双子葉植物合弁花類 スイカズラ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Aa	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	明治初期	導入・侵入原因	食用		
②分布範囲	全国	本州－九州				
	府内	京丹後市、宮津市、福知山、亀岡市、長岡京市、大山崎町、八幡市、京田辺市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	高さ10－40cmほどの一年草又は二年草。茎は直立交叉しながら数回分枝する。葉は対生、花は白紫色。径1.5mm。草地、河川敷、堤防斜面などの陽地に生える。					
⑤近似種との見分方	シロノジシャ、モモイロノジシャなど同属の帰化種が報告されているが、前者とは果実の形が異なり後者とは花の色で区別する。					
⑥被害状況	今のところ被害の報告はないが、群生すれば他の植物への影響は避けられない。近年次第に勢力を拡大している。					
⑦必要な防除対策	除草以外に手はない。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ケチョウセンアサガオ	学名	<i>Datura wrightii</i>	目科名	双子葉植物合弁花類ナス科
	カテゴリー(2019)	準被害危惧種	タイプ(2019)	Ba	国リストカテゴリー	その他の総合対策外来種
	カテゴリー(2005)	-	タイプ(2005)	-	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1950年代?	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	関東南部以西の暖地				
	府内	福知山市、京都市、京田辺市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	耐寒性の関係で一年草とされることもあるが、本来は多年草である。葉にはピロード状の短毛が密生する。花は夏場を中心に夜に開き、白色で強い香りがある。有名な有毒植物であり、取り扱いには注意を要する。					
⑤近似種との見分方	チョウセンアサガオやヨウシュチョウセンアサガオの葉は、全体無毛である。					
⑥被害状況	近年は情報を聞かないが、果実などを口に含めば死に至ることもあるとされる毒草である。					
⑦必要な防除対策	花壇に植えられているもの以外は、早期に除去することが望ましい。					
⑧改訂の理由	平野部に定着					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ヒロハフウリンホ オズキ	学名	<i>Physalis angulata</i> L. <i>var. angulata</i>	目科名	双子葉植物合弁花 類ナス科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	北～熱帯アメリカ
	導入・侵入年代	1820年代が最初?	導入・侵入原因	何回かに分けて侵入したと思われるため不明		
②分布範囲	全国	沖縄を除く全国				
	府内	福知山市の由良川河川敷に多いが、ほぼ全域に散発				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	夏型の成長をする一年草。枝は開出気味に出て、主茎は不明瞭。花は淡クリーム色で花冠の底部は紫黒色。果実（液果）は1cmほどの球形で緑色。強い霜にあたると枯れる。					
⑤近似種との見分方	ホソバフウリンホウズキは葉の細い系統と思われる。オオブドウホウズキはよく似ているが、全体大型で果実は直径4cmに達し、栽培されるものである。					
⑥被害状況	群生すれば生態系や植生への影響は避けられないが、一部の河川敷を除いてそこまでには至っていない。ナス科であるから、同科の希少種の生育地に障害をもたらす可能性はある。					
⑦必要な防除対策	熟した果実は生食ではおいしくないが、トマト同様にソース材料によい。駆除がてら食べるとよい。					
⑧改訂の理由	府内産確定					
⑨参考文献	清水建美（編）『日本の帰化植物』（2001）平凡社；清水矩宏ほか『日本帰化植物写真図鑑』（2001）全農教					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ヤナギハナガサ（サンジャクバーベナ）	学名	<i>Verbena bonariensis</i>	目科名	双子葉植物合弁花類クマツツラ科
	カテゴリー(2019)	準被害危惧種	タイプ(2019)	Ba	国リストカテゴリー	その他の総合対策外来種
	カテゴリー(2005)	準被害危惧種	タイプ(2005)	Ba	原産地	南アメリカ
	導入・侵入年代	不明（戦後？）	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	日本全土				
	府内	舞鶴市、亀岡市、京都市、宇治田原町、京田辺市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、荒地、河川敷などの陽地に生える多年草。茎は4稜形、1.5mmに達し、粗毛が多く、ザラつく。花は茎3mm。長い筒部がある。紅紫色。					
⑤近似種との見分方	アレチハナガサがよく似る。花の筒部はヤナギハナガサの約半長ほどでガク片の先は細長くなる。					
⑥被害状況	各地で見かけるが大きな群落は見ない。従って、大きな影響を及ぼすとは考えにくい。					
⑦必要な防除対策	繁殖の傾向にあるところでは根ごと抜き取る。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	アレチハナガサ	学名	<i>Verbena brasiliensis</i>	目科名	双子葉植物合弁花類クマツツラ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	その他の総合対策 外来種
	カテゴリー (2005)	準被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	南アメリカ
	導入・侵入年代	1957年頃	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	東北南部ー西日本（沖縄除く）				
	府内	福知山市、亀岡市、京都市、長岡京市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、荒地、川原などの陽地に生える多年草。しばしば群生する。茎は直立。高さ1.5m。粗い毛が多く。4稜形。花は淡紫色。					
⑤近似種との見分方	ヤナギハナガサと似るが、花の筒部がより短く、ガク裂片は鋭尖頭。					
⑥被害状況	大きな被害はいまのところ認められない。					
⑦必要な防除対策	根ごと掘り取る。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ダキバアレチハナガサ	学名	<i>Verbena x incompta</i>	目科名	双子葉植物合弁花類クマツヅラ科
	カテゴリー(2019)	準被害危惧種	タイプ(2019)	Ca	国リストカテゴリー	その他の総合対策外来種
	カテゴリー(2005)	-	タイプ(2005)	-	原産地	南アメリカ
	導入・侵入年代	1930年代初頭	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	関東以南の本州?~沖縄（長らくアレチハナガサと混同されていたため詳細不明）				
	府内	詳細不明。福知山市以南? 府南部ではやや普通				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	日当たりのよい裸地や草地、河川敷などに生える多年草。茎は高さ1.5mに達し、断面は四角形で中実。葉は対生し、基部はやや茎を抱く。穂状花序は円柱形で長さ2~5cm、花期6~9月。					
⑤近似種との見分方	ヤナギハナガサと比べて花穂が長く伸び、茎は中実。アレチハナガサと比べて葉の基部が茎を抱く。					
⑥被害状況	多年草であり繁殖力も強いため、放置すると広がって植生上の影響が大きい。景観上も好ましいものではない。					
⑦必要な防除対策	根からの再生力に乏しいため、小さいうちに抜き捨てるのが最良。とくに河川敷などで希少植物とともにある場合には、除去を徹底する。					
⑧改訂の理由	府内産確定					
⑨参考文献	植村修二他『増補改訂 日本帰化植物写真図鑑 第2巻』(2015)、全農教					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ビロードモウズイカ	学名	<i>Verbascum thapsus</i>	目科名	双子葉植物合弁花類ゴマノハグサ科
	カテゴリー(2019)	準被害危惧種	タイプ(2019)	Ba	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	準被害危惧種	タイプ(2005)	Ba	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	明治初頭	導入・侵入原因	観賞用-逸出		
②分布範囲	全国	北海道ー沖縄				
	府内	京丹後市、福知山市（今のところ局地的）、城陽市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	海岸造成地、公共施設（自然休養センター、郷土資料館等々）の敷地内、路傍、のり面などに生える2年草。丈は1ー2m、全体星状毛に覆われる。花は黄色。					
⑤近似種との見分方	同族のものが数種日本に帰化しているが、全草ビロード状に多毛なものは他にない。なお、京都府では今のところ本種以外のものをまだ見かけない。					
⑥被害状況	時に新設道路ののり面などで群生。草が大型であるため大繁殖ともなれば他の草や木（苗）に及ぼす影響大である。					
⑦必要な防除対策	苗のうちに抜き取る。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	キキョウソウ	学名	<i>Triodanis perfoliata</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キキョウ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	準被害危惧種	タイプ (2005)	B a	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	明治中期	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	本州（福島県以南）－九州				
	府内	亀岡市、京都市、長岡京市、城陽市、京田辺市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、公園のスミ、河川敷などの陽地に生える一年草。高さ1mに及ぶが普通は40－50cm、葉は互生。広く短く基部は茎を抱く。花は紫色で5裂。葉脈につく。果実の中ほどに穴があり、そこから種子がこぼれる。					
⑤近似種との見分方	ヒナキキョウソウに形状が似るが、キキョウソウより葉が狭く鋭頭。キキョウソウの葉は円頭である。					
⑥被害状況	大きな被害の報告はない。時々小群落をなすがその場合は、多少の影響は他の植物に及ぼす。					
⑦必要な防除対策	はびこった場合は抜き取る。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	メリケンムグラ	学名	<i>Diodia virginiana</i>	目科名	双子葉植物合弁花類 アカネ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	1960年代後半	導入・侵入原因	不明（牧草種子に混入？）		
②分布範囲	全国	関東南部以西の本州、九州				
	府内	府南部（鴨川水系周辺）				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	北アメリカ原産の1年草。やや湿った場所に生じ、ときに水田畦畔にも発生する。茎は基部で四方に分岐して横に広がり、マット状を呈する。葉は広線形で対生し、表面は濃い緑色でやや革質、ほぼ無毛。花は葉腋につき、白色の筒形で先端4裂する。抽水・沈水状態でも育つ。					
⑤近似種との見分方	オオフトバムグラと似ているが、オオフトバムグラの花は淡桃色で乾燥がちのやせ地に多いのと違い、こちらは花は白く湿潤な肥沃地で繁茂する。					
⑥被害状況	現況では目立つような被害はないが、湿潤な肥沃地で大繁殖することが報告されており、警戒が必要である。					
⑦必要な防除対策	抜き取りを徹底する。					
⑧改訂の理由	府内産確定					
⑨参考文献	清水建美（編）『日本の帰化植物』（2001）平凡社；清水矩宏ほか『日本帰化植物写真図鑑』（2001）全農教					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	イヌカタヒバ	学名	<i>Selaginella moellendorffii</i>	目科名	シダ類イワヒバ科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	アジアの熱帯～亜熱帯
	導入・侵入年代	不明	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	関東南部以西の本州、四国、九州、沖縄				
	府内	亀岡市、京都市、宇治市、長岡京市、京田辺市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/>生態系被害、 <input type="checkbox"/>農林水産業被害、 <input type="checkbox"/>人身・健康被害、 <input type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/>植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/>競合・駆逐、 <input type="checkbox"/>遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input checked="" type="checkbox"/>定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input checked="" type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/>被害が大きい、 <input type="checkbox"/>特殊性、 <input type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	暖地の石垣から森林（竹林を含む）の林床に散発的に見られる。茎の分岐で広がるほか、秋に枝先にできる無性芽で増える。乾燥に強く、在来のカタヒバと違って高湿度を要しない。					
⑤近似種との見分方	在来のカタヒバでは枝先に無性芽ができないが、イヌカタヒバでは秋口に脱落性の無性芽ができ、それで繁殖することが多い。また、カタヒバでは腹葉に鋸歯がなく、背葉の縁に白膜がないが、イヌカタヒバではルーペで認められる鋸歯があり、背葉の縁は白膜で彩られる。					
⑥被害状況	各地で増加傾向にあるものの近似種のカタヒバと競合することはほとんどなく、繁殖のスピードも遅い。今後の推移を見守る段階である。					
⑦必要な防除対策	野山に投棄しないことが重要					
⑧改訂の理由	園芸起源のものが広く逸出					
⑨参考文献	植村修二他編著、『増補改訂 日本帰化植物写真図鑑 第2巻』、(2015)、全国農村教育協会					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	シラゲガヤ	学名	<i>Holcus lanatus</i>	目科名	単子葉植物イネ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	B	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	明治時代	導入・侵入原因	牧草からの逸出		
②分布範囲	全国	日本各地				
	府内	京丹後市、伊根町、福知山市、綾部市、京都市、京丹波町、亀岡市、京田辺市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	低山の林道脇、畑地、溝の中、池の端などに生える多年草。葉鞘、葉身、苞穎、護穎などに短軟毛が多く、そのため全草が白っぽく見える。手触りはピロード状。					
⑤近似種との見分方	ニセシラゲガヤに最も似ている。シラゲガヤの芒はカギ型ー釣針型に曲がるがニセシラゲガヤの芒は真直である。					
⑥被害状況	今のところ生態系被害のみ。					
⑦必要な防除対策	定期的な除草及び草刈り。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社.2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅲ」（全農教、1997）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教.2001）、長田武正「日本イネ科植物図譜」（平凡社、1989）、長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ナガハグサ	学名	<i>Poa pratensis</i>	目科名	単子葉植物イネ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Bd	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	B	原産地	ユーラシア
	導入・侵入年代	明治初期	導入・侵入原因	牧草		
②分布範囲	全国	ほぼ全国の低地				
	府内	京丹波町、亀岡市、京都市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	陽草地に生える多年草。細長い地下茎をひく。稈（茎）は普通叢生し頂部に花序をつける。					
⑤近似種との見分方	この仲間で地下茎をひき西日本の平地に生えるものにオオスズメノカタビラがある。ナガハグサの葉舌は低平であるが、オオスズメノカタビラの葉下は先が尖り長さ3～8mmに達する。					
⑥被害状況	近年、京都府内では衰退の傾向にあるようにも思える。環境次第で群生するので他の植生への圧迫がある。					
⑦必要な防除対策	地下茎で増えるので除去は至難。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社.2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅲ」（全農教、1997）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教.2001）、長田武正「日本イネ科植物図譜」（平凡社、1989）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ヒメヒオウギズイセン	学名	<i>Tritonia crocosmaeflora</i>	目科名	単子葉植物アヤメ科
	カテゴリー(2019)	要注目種	タイプ(2019)	Aa	国リストカテゴリー	その他の総合対策外来種
	カテゴリー(2005)	-	タイプ(2005)	A	原産地	南アフリカ(ヨーロッパで改良)
	導入・侵入年代	明治年代中頃	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	日本全土				
	府内	府内ほぼ全域				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	環境適応性が強く、暖地から寒地、また全日照地から暗い林道傍まで生育する。球根性で、雑種として改良されたものであるため、一般には結実しない。そのため広い面積を占有することはないが、球根によって徐々に広がる。					
⑤近似種との見分方	葉は単面葉であるためセキショウやアヤメと似た形態であるが、小型で水質地に生えることもないため区別は容易である。					
⑥被害状況	球根で増えるため広がるのが比較的遅く、現状では被害は軽微。しかし花は目立つため、森林域に咲いたものでは訪花昆虫をかく乱するほか、情緒的にも問題がある。					
⑦必要な防除対策	人家周辺や野山に球根を廃棄しないことが大切である。増えたものは焼却処分にするのが望ましい。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社.2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草」（全農教、1987）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教.2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ヒレニワゼキショウ	学名	<i>Sisyrinchium bermundianum</i>	目科名	単子葉植物アヤメ科
	カテゴリー(2019)	要注目種	タイプ(2019)	Ca	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	-	タイプ(2005)	C	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	明治20年ごろ	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	全国に広く帰化				
	府内	舞鶴市、福知山市、綾部市、京丹波町、亀岡市、京都市、京田辺市、精華町、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、空地、民家の庭、公園、芝生などに生える多年草。草丈10～30cm。葉は細長く花は紫紅色で径1.5cm。内花被子、外花被子で同様に未開し、アヤメ科とは思えない咲き方をする。果実は径4mm前後。					
⑤近似種との見分方	この属には、いくつかの種が帰化しているようだが、それぞれ混乱し明確な分類がなされていない。。オオニワゼキショウ（長田、1976）といわれる形のもが府内各地で見られるが、これは草丈70cmに及び、花は淡紫色、果実も径5～6mmと大きい。					
⑥被害状況	愛らしい花を咲かせ植物体も小さく、これを好む人も多い。ただ、しばしば群生することがあり、その場合は他の植生に影響はあろうが、大したことはない。					
⑦必要な防除対策	群生の場合は適度な抜き取り。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	オオニワゼキショウ	学名	<i>Sisyringium sp.</i>	目科名	単子葉植物アヤメ科
	カテゴリー(2019)	要注目種	タイプ(2019)	Ca	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	-	タイプ(2005)	-	原産地	北アメリカ?
	導入・侵入年代	不明	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	不明				
	府内	舞鶴市、綾部市、亀岡市、京都市、八幡市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍、石垣、他の岸辺、砂地などの陽地に生える。草丈50～70cmでこの仲間では大きい。花は径1～1.2cmで淡紫色。果実は径5～6mm。					
⑤近似種との見分方	ニワゼキショウより大型で果実も大きい。ただし花は、やや小さい。					
⑥被害状況	不明。今後の推移に要注意。					
⑦必要な防除対策	抜き取る					
⑧改訂の理由	府内産確定					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	イヌクグ	学名	<i>Cyperus cyperoides</i>	目科名	単子葉植物カヤツリグサ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	おそらく国内起源
	導入・侵入年代	不明	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	一部は国内外来とみられるため、詳細は不明				
	府内	府南部（宇治川以南）にまれにみられる				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	本州ではもともと海岸付近の暖地に知られるだけのものだったが、府内では木津川水系、府外では大阪府の淀川水系で見られるようになった。海鳥などによる自然分布か、それとも人為的な国内外来か、現段階では判別が難しい。					
⑤近似種との見分方	カヤツリグサ類で試験管ブラシのように密な柱状の穂をつけるものは珍しく、とくに近似するものは近畿にはない。					
⑥被害状況	現時点で被害といえるものはない。					
⑦必要な防除対策	-					
⑧改訂の理由	府内産確定。府内のものはすべて外来？					
⑨参考文献	国内外来とみられる物の多くは外来（帰化）植物としての情報集積が遅れており、本種についてはむしろ在来植物図鑑類が参考になる。					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ハタケニラ	学名	<i>Nothoscordum gracile</i>	目科名	単子葉植物ヒガンバナ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Cb	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	明治中期(?)	導入・侵入原因	観賞用(?)		
②分布範囲	全国	関東～近畿、四国東部				
	府内	詳細不明。南部地域のところどころ				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍や畑地周辺に逸出している多年草。地下に鱗茎があり、そのまわりに多数のムカゴ状の芽（木子）をつける。乾燥に強く、ときにはアスファルトやコンクリートの隙間にも群生する。花は春から夏。					
⑤近似種との見分方	栽培のニラによく似ているが別属で、葉をもんでもニラ臭はない。ニラもよく逸出するが、ニラにはムカゴ状の芽はない。					
⑥被害状況	府内にはまだ少なく、たまに見かける程度であり、被害というほどの状況には至っていない。					
⑦必要な防除対策	除去するには地下部の鱗茎ごと掘り取る必要がある。そのさい、ムカゴ状の芽を落とさないように注意しなければ二三年で復活する。					
⑧改訂の理由	まれに逸出					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	シャグマハギ	学名	<i>Trifolium arvense</i>	目科名	双子葉植物離弁花類 マメ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	戦後に沖縄県に入った	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道～沖縄県。基本的に冷温帯の植物であり、暖地では少ない				
	府内	京都市、京田辺市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	秋～春型の成長をするい一年草。乾き気味の畑や道端などで見られ、土壌条件によって高さ10～40cmと変化が大きい。 全体に白色の毛が生え、茎は枝分かれして斜上から直立する。葉は互生して3小葉、茎先や葉腋から円柱状の総状花序を出し、長さ4～5mmで白色～淡い紅色の蝶形花を密につける。					
⑤近似種との見分方	クローバーの仲間であるが総状花序には毛が密生し、花も目立たないため、区別は容易である。					
⑥被害状況	府内では発生はごく散発的であり、大群生することもない。問題になるような被害事例の報告はない。					
⑦必要な防除対策	現状では必要ない。					
⑧改訂の理由	府内産確定。稀。					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ワタリミヤコグサ	学名	<i>Lotus tenuis</i>	目科名	双子葉植物離弁花類 マメ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Cb	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	1970年頃	導入・侵入原因	牧草由来と思われる		
②分布範囲	全国	北海道～九州				
	府内	不明。府内で見た記憶がないが、滋賀県には入っており、侵入している可能性はある。				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	道端や砂礫地、草地などで見かける多年草。木質の地下部から多数の茎を出して広がり、一つの茎は長さ1mほどになる。茎は稜の鈍い四角形、長さは20～90cmで無毛またはまばらに毛がある。葉は5小葉の複葉。小葉は狭卵形ないし披針形で、細い。花は葉腋から長く伸びた花序に1～6個つく。花冠は黄色で赤味を帯びる。					
⑤近似種との見分方	本種は小葉が細いこと、花弁はツボミの時にはっきりと赤色を帯びることから、他のミヤコグサ類との区別は容易。					
⑥被害状況	府内で被害の報告はない。					
⑦必要な防除対策	現時点では必要ない。					
⑧改訂の理由	府内産確定					
⑨参考文献	清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教.2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	アメリカスミレサ イシン	学名	<i>Viola soraria</i>	目科名	双子葉植物離弁花 類スミレ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	北アメリカ
	導入・侵入年代	明治期	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	北海道、本州、四国				
	府内	亀岡市、京都市、京田辺市（府内もっと広域に及びと思われる）				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	市街地にもみるが、林道端にもみられる多年草。根茎はワサビ状に肥厚し地中を横に伸びる。葉は光沢があり、長さ5-6cmの卵形～腎形で基部は深く湾入し、縁に波状の低い鋸歯がある。花後に葉は著しく大きくなり、花時の2倍に達する。花茎の先に直径2-3cmの中心部の色が濃い青紫色の花を1個つける。					
⑤近似種との見分方	スミレサ、イシンが最も似ているが、これの花は白または淡いピンクで、区別は容易である。					
⑥被害状況	人家近くに半野生状態になったものを見ることはあるが、森林域に入るものは散発的であり、特に被害といえる報告はない。					
⑦必要な防除対策	現時点では必要ないと思われる。					
⑧改訂の理由	府内産確定。やや稀。					
⑨参考文献	清水建美 『日本の帰化植物』（2003）平凡社、植村修二他『増補改訂 日本帰化植物写真図鑑 第2巻』（2015）、全農教					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ナガエコミカンソウ (ブラジルコミカンソウ)	学名	<i>Phyllanthus tenellus</i>	目科名	双子葉植物離弁花類 ミカンソウ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	マスカリン諸島
	導入・侵入年代	1990年代初頭	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	関東以西の本州、四国、九州				
	府内	京都市、京田辺市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	夏中心の成長をする一年草で、暖地では樹木状の多年草になることもある。路傍や道路の植え込みを中心に、日当たりのよい乾燥気味のところで見られる。					
⑤近似種との見分方	日本在来のコミカンソウに似ているが、全体にすこし大型で、花が数mmの長い柄の先につく点で区別は容易である。					
⑥被害状況	府内での発生は散発的であり、特に被害の報告はない。					
⑦必要な防除対策	特に必要ないと思われる。					
⑧改訂の理由	府内産確定					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	フウセンカズラ	学名	<i>Cardiospermum halicacabum</i>	目科名	双子葉植物離弁花類ムクロジ科
	カテゴリー(2019)	要注目種	タイプ(2019)	Ca	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	-	タイプ(2005)	-	原産地	インドから北アフリカ
	導入・侵入年代	明治初期	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	関東以西の本州、四国、九州				
	府内	都市部周辺で散発的に野生を見るが、定着に至らない				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	つる性の一年草で、夏中心の生育をする。葉は2-3出の複葉で、花は白く小さいが、よくアシナガバチなどが吸蜜に訪れる。かわいい風船のような果実は広く知られており、今でもときに栽培される。風船のような袋はひとりでは避けることはなく、風や水流によって運ばれるものと思われる。					
⑤近似種との見分方	特徴のある果実があれば間違えることはないが、白い小さな花でも同定は可能。					
⑥被害状況	府内ではこれといった被害を聞かない。					
⑦必要な防除対策	必要ないと思われる。					
⑧改訂の理由	園芸からの逸出					
⑨参考文献	清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教.2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	セイヨウフウチョウソウ	学名	<i>Tarenaya hassleriana</i>	目科名	双子葉植物離弁花類 フウチョウソウ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	熱帯アメリカ
	導入・侵入年代	明治初期	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	本州～沖縄				
	府内	まれに各地の路傍などに逸出するが、定着には至らない。				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/>生態系被害、<input type="checkbox"/>農林水産業被害、<input type="checkbox"/>人身・健康被害、<input type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、<input checked="" type="checkbox"/>植生への影響、<input type="checkbox"/>競合・駆逐、<input type="checkbox"/>遺伝子かく乱、<input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、<input type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、<input type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input type="checkbox"/>定着性が高い、<input type="checkbox"/>環境適応性が高い、<input type="checkbox"/>繁殖能力が高い、<input type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、<input type="checkbox"/>被害が大きい、<input type="checkbox"/>特殊性、<input type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	夏型の成長をする一年草で、暖地ほど旺盛な成長をして大株になる。クレオメの旧属名で知られ、夏場を中心に白からピンクの花で庭先を彩る古典的な観賞植物であるが、近年見ることは少なくなっている。アブラナ科に近縁で果実はよく似ており、葉を食べてモンシロチョウの幼虫が育つこともあるが、花は左右相称で葉は掌状複葉になるフウチョウソウ科に属する。					
⑤近似種との見分方	似たものはない。					
⑥被害状況	南西諸島では雑草として群生し、生態的な被害や刺による人的被害もあるというが、府内で雑草状態で見られることはまれである。					
⑦必要な防除対策	必要ないと思われる。					
⑧改訂の理由	園芸からの逸出					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ハゼラン	学名	<i>Talinum paniculatum</i>	目科名	双子葉植物離弁花類ハゼラン科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	西インド諸島？
	導入・侵入年代	明治初期	導入・侵入原因	観賞用・野菜用		
②分布範囲	全国	本州～沖縄				
	府内	全域				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input type="checkbox"/>生態系被害、 <input type="checkbox"/>農林水産業被害、 <input type="checkbox"/>人身・健康被害、 <input type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/>植生への影響、 <input type="checkbox"/>競合・駆逐、 <input type="checkbox"/>遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input type="checkbox"/>定着性が高い、 <input type="checkbox"/>環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/>繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/>被害が大きい、 <input type="checkbox"/>特殊性、 <input type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	<p>夏場を中心に生育する一年草。葉は多肉質で乾燥に強く、日当たりが良ければやせ地でも見られる。花は午後の短時間に開き直径数ミリで紫桃色、光沢がある。花は愛らしいため庭先や道端でやや普通に見かける。この仲間は野菜として東南アジア方面で栽培され、本種もそれと同種とされることもある。現行の分類ではスベリヒユ科から分離され、ハゼラン科とする。</p>					
⑤近似種との見分方	上記のように野菜用の近似種があるが、日本では未見。同種ともいわれる。					
⑥被害状況	暖地ほど広がりやすいが、府内では被害というほどには至らない。					
⑦必要な防除対策	必要ないと思われる。					
⑧改訂の理由	府内産確定					
⑨参考文献	清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教.2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ヒメマツバボタン	学名	<i>Portulaca pilosa</i>	目科名	双子葉植物離弁花類スベリヒユ科
	カテゴリー(2019)	要注目種	タイプ(2019)	Ca	国リストカテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー(2005)	-	タイプ(2005)	-	原産地	熱帯アメリカ
	導入・侵入年代	1950年代前半	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	関東南部以西の本州～沖縄				
	府内	市街地周辺の全域				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input type="checkbox"/>生態系被害、<input type="checkbox"/>農林水産業被害、<input type="checkbox"/>人身・健康被害、<input type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、<input type="checkbox"/>植生への影響、<input type="checkbox"/>競合・駆逐、<input type="checkbox"/>遺伝子かく乱、<input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、<input type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、<input type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input type="checkbox"/>定着性が高い、<input type="checkbox"/>環境適応性が高い、<input type="checkbox"/>繁殖能力が高い、<input type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、<input type="checkbox"/>被害が大きい、<input type="checkbox"/>特殊性、<input type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	市街地の乾燥気味の路傍などで見られる1年草。茎は赤褐色を帯び、よく分枝して地面に広がる。葉は互生し線状披針形、基部に白毛が束生する。花期は7-9月、枝先に径1cmほどの2-3花をつける。花弁は紅紫色で5個。種子は径約0.5mmで黒色。					
⑤近似種との見分方	奄美以南に分布するアマミマツバボタンやオキナワマツバボタンに類似するが、府内には紛らわしいものはない。園芸のマツバボタンとは、花の大きさで区別は容易。					
⑥被害状況	奄美以南では岩礁にもみられ、同様の環境に生育する在来種のアマミマツバボタンやオキナワマツバボタンとの交雑が懸念されるが、府内ではそのおそれはない。発生も散發程度である。					
⑦必要な防除対策	必要ないと思われる。					
⑧改訂の理由	府内産確定					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	スイセンノウ	学名	<i>Silene coronaria</i>	目科名	双子葉植物離弁花類ナデシコ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	南ヨーロッパ
	導入・侵入年代	江戸時代末期	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	日本全土				
	府内	府内全域				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input type="checkbox"/>生態系被害、 <input type="checkbox"/>農林水産業被害、 <input type="checkbox"/>人身・健康被害、 <input type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/>植生への影響、 <input type="checkbox"/>競合・駆逐、 <input type="checkbox"/>遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input type="checkbox"/>定着性が高い、 <input type="checkbox"/>環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/>繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/>被害が大きい、 <input type="checkbox"/>特殊性、 <input type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	<p>多年草であるが、寒地では秋～春型の一年草としても育つ。やや乾燥するところに生えることが多い。茎葉にピロード状の白毛が密生し、ぜんたい白っぽく見える。花は紫赤色、桃色、白、複色と多彩。古くから栽培されたものが、人家周辺や路傍に逸出している。</p>					
⑤近似種との見分方	<p>密生する白毛があるため、容易に見分けられる。フランネルソウの別名は、この特徴による。</p>					
⑥被害状況	<p>府内では散見する程度であり、群生には至らない。交雑する在来種も知られていない。</p>					
⑦必要な防除対策	<p>必要ないと思われる。</p>					
⑧改訂の理由	<p>園芸からの逸出</p>					
⑨参考文献	<p>長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）</p>					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<p><input type="checkbox"/>IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/>日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/>特定外来生物（外来生物法）、</p>					
<p>（執筆者） 光田重幸</p>						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	キウイフルーツ	学名	<i>Actinidia chinensis</i> <i>var. deliciosa</i>	目科名	双子葉植物離弁花 類マタタビ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	産業管理外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	ニュージーランド
	導入・侵入年代	1973年	導入・侵入原因	果樹として		
②分布範囲	全国	関東以西の本州～沖縄				
	府内	全域				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/>生態系被害、 <input type="checkbox"/>農林水産業被害、 <input type="checkbox"/>人身・健康被害、 <input type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/>植生への影響、 <input type="checkbox"/>競合・駆逐、 <input type="checkbox"/>遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input type="checkbox"/>定着性が高い、 <input type="checkbox"/>環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/>繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/>被害が大きい、 <input type="checkbox"/>特殊性、 <input type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	中国南部原産で、ニュージーランドで品種改良された蔓性の樹木。亜熱帯～暖帯で栽培され、冷温帯や熱帯には向かない。					
⑤近似種との見分方	シマサルナシに最も似ているが、キウイフルーツの果実は鶏卵大になり、葉も大きくて丸い。府内にシマサルナシの自生は知られていない。					
⑥被害状況	栽培の過程で剪定された枝が各地山林の林道わきに投棄され、それから発根したものが広がっているのを見かける。小鳥が食べた種子からの拡散もあり得るが、確認されていない。府内でのサルナシ類との交雑は知られていないが、注意する必要がある。					
⑦必要な防除対策	蔓性樹木であるだけに、植生に与える影響は小さくない。見つけ次第除去するのが望ましい。投棄しないよう周知徹底するとともに、種子で拡散していないかも調査する必要がある。					
⑧改訂の理由	栽培からの逸出					
⑨参考文献	植村修二他『増補改訂 日本帰化植物写真図鑑 第2巻』(2015)、全農教					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ムラサキノマイ	学名	<i>Oxalis triangularis</i>	目科名	双子葉植物離弁花類カタバミ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Cb	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	ブラジル・アルゼンチン
	導入・侵入年代	1990年頃(?)	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	関東南部以西の日本のところどころ				
	府内	京都市、京田辺市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	植物学的にはインカカタバミの一系統で、葉色のとくに紫色が濃いものにつけられた名前である。カタバミの仲間としては珍しく温暖多雨の気候に対応しており、暖地では常緑で温暖であれば長い期間にわたって開花する。花は白い。					
⑤近似種との見分方	独特の濃い紫色の葉色と大型で鋭い三角形の小葉が特徴的で、同属で似ているものはほかにない。					
⑥被害状況	路傍、芝地、石垣などの間に散見されるが、府内では被害というまでの状況にない。					
⑦必要な防除対策	現時点では必要ないと思われる。					
⑧改訂の理由	園芸からの逸出					
⑨参考文献	植村修二他『増補改訂 日本帰化植物写真図鑑 第2巻』(2015)、全農教					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
(執筆者) 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	アカザカズラ	学名	<i>Anredera cordifolia</i>	目科名	双子葉植物離弁花類ツルムラサキ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Cb	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	南アメリカ
	導入・侵入年代	明治年間	導入・侵入原因	野菜用・観賞用		
②分布範囲	全国	関東以西の本州、四国、九州、沖縄				
	府内	府南部に稀に逸出する				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	雲南百葉やオカワカメという名で知られている野菜で、最暖地では常緑。地下部に根茎があり、本州では地上部が枯れるが、根茎で越冬する。また、茎にできるムカゴで繁殖することもある。夏から秋にかけて小さな白い花を穂状につけ、観賞用に栽培されることもある。					
⑤近似種との見分方	肉厚の葉や白い穂状の花を確認すれば、似ているものはない。					
⑥被害状況	府内では逸出しても持続しない。熱帯植物であるためと思われる。					
⑦必要な防除対策	必要ないと思われる。					
⑧改訂の理由	府内産確定					
⑨参考文献	清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教.2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	フラサバソウ	学名	<i>Veronica hederifolia</i>	目科名	双子葉植物合弁花類オオバコ科
	カテゴリー(2019)	要注目種	タイプ(2019)	Ba	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	準被害危惧種	タイプ(2005)	Ba	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	1870年代	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	北海道～九州				
	府内	綾部市、亀岡市、京都市、大山崎町、京田辺市				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/>生態系被害、<input type="checkbox"/>農林水産業被害、<input type="checkbox"/>人身・健康被害、<input type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、<input checked="" type="checkbox"/>植生への影響、<input type="checkbox"/>競合・駆逐、<input type="checkbox"/>遺伝子かく乱、<input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、<input type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、<input checked="" type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input type="checkbox"/>定着性が高い、<input type="checkbox"/>環境適応性が高い、<input checked="" type="checkbox"/>繁殖能力が高い、<input type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、<input type="checkbox"/>被害が大きい、<input type="checkbox"/>特殊性、<input type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	<p>秋～春型の成長をするが、冬に発芽することもある一年草。茎は倒伏状～斜上。全体に白毛があり、がく片の縁にはやや粗い毛が裂生。花は淡青紫色、径4～5mm。果実期にも子葉が残る。路傍、やぶ陰、河川敷などに生える。</p>					
⑤近似種との見分方	<p>在来のイヌノフグリに似るが、これのがく片には短毛が全面にあり、粗毛はない。また、果実にも短毛が全面にある。</p>					
⑥被害状況	<p>冬期畑の雑草として問題になることもある。近年府内で勢力を拡大しつつある。</p>					
⑦必要な防除対策	<p>こまめな除草しかない。</p>					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	<p>長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、竹松哲夫・一前宣正「世界の雑草Ⅱ」（全農教、1998）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）</p>					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<p><input type="checkbox"/>IUCNワースト100、<input type="checkbox"/>日本生態学会ワースト100、<input type="checkbox"/>特定外来生物（外来生物法）、</p>					
<p>（執筆者） 津軽俊介・光田重幸</p>						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ヒサウチソウ	学名	<i>Bellardia trixago</i>	目科名	双子葉植物合弁花類 ハマウツボ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	地中海沿岸
	導入・侵入年代	1980年代初頭	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	本州の東海・近畿地方、四国				
	府内	八幡市、京田辺市、精華町、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	秋～春型の成長をする半寄生の一年草。5月の開花時には高さ15～25cmとなり、花はほぼ白色。河川の堤防付近で散発的に発生する。					
⑤近似種との見分方	セイヨウヒキヨモギは同じサイズで、半寄生である点も同じであるが、花は黄色である。					
⑥被害状況	いまのところ発生は少数で、被害といえるような状況にはない。					
⑦必要な防除対策	現時点では必要ない。					
⑧改訂の理由	府南部に定着					
⑨参考文献	植村修二他『増補改訂 日本帰化植物写真図鑑 第2巻』(2015)、全農教					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ヤセウツボ	学名	<i>Orobanche minor</i>	目科名	双子葉植物合弁花類 ハマウツボ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	地中海沿岸
	導入・侵入年代	1930年代後半	導入・侵入原因	牧草に混入		
②分布範囲	全国	本州、四国、九州北部				
	府内	八幡市、久御山町、城陽市、京田辺市、精華町、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/>生態系被害、 <input type="checkbox"/>農林水産業被害、 <input type="checkbox"/>人身・健康被害、 <input type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/>植生への影響、 <input type="checkbox"/>競合・駆逐、 <input type="checkbox"/>遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input type="checkbox"/>定着性が高い、 <input type="checkbox"/>環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/>繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/>被害が大きい、 <input type="checkbox"/>特殊性、 <input type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	寄生生活をする一年草で、葉緑素をもたない。全体的に褐色で、全高15-40cmほど。開花期は4-6月、花は12mm程度の大きさで、唇形花。茎の基部はキノコの壺状に肥大するが、根は貧弱。マメ科、セリ科、キク科などさまざまな植物に寄生し、とくにシロツメクサには多くつく。					
⑤近似種との見分方	山地に稀に自生するキヨスミウツボに似るが、はるかに大型で、自生地は重ならない。					
⑥被害状況	自生地は河川堤防や路傍などのやせ地が多く、イネ科植物には寄生しない。また肥沃な耕作地や湿地では生育不良になるため、経済的損害は発生しない。府内では木津川に多く見られ、レンリソウやオオバクサフジ（ともにマメ科）などの希少種への影響が懸念される。					
⑦必要な防除対策	現状では少ないが、上記希少種付近では除去が望ましい。					
⑧改訂の理由	府内産確定					
⑨参考文献	清水建美（編）『日本の帰化植物』（2001）平凡社；清水矩宏ほか『日本帰化植物写真図鑑』（2001）全農教					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ヤナギバルイラソウ	学名	<i>Ruellia simplex</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キツネノマゴ科
	カテゴリー(2019)	要注目種	タイプ(2019)	Ca	国リストカテゴリー	その他の総合対策外来種
	カテゴリー(2005)	-	タイプ(2005)	-	原産地	中南米
	導入・侵入年代	1970年代	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	関東南部～沖縄				
	府内	府内全域の平野部、民家周辺に散発的				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	水湿地の近くから路傍の乾燥地まで幅広い環境にみられるが、本来は湿りがちの土壌を好む。暖地の無霜地帯では低木じょうになる。茎はあまり分岐せず、高さ1m以下。葉は無柄、線形又は線状長楕円形。花は青紫色、ピンク、または白色。					
⑤近似種との見分方	国内には似たものはない。					
⑥被害状況	府内では栽培からの逸出がほとんどで、畑にみられる場合でも観賞用に植えられたものが多い。とくに被害らしいものは報告されていない。					
⑦必要な防除対策	現時点では必要ないと思われる。					
⑧改訂の理由	園芸からの逸出					
⑨参考文献	植村修二他『増補改訂 日本帰化植物写真図鑑 第2巻』(2015)、全農教					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	セイヨウニンジンボク	学名	<i>Vitex agnus-castus</i>	目科名	双子葉植物合弁花類シソ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	地中海北部（南ヨーロッパ～西アジア）
	導入・侵入年代	明治年間	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	栽培は東北地方南部以南～沖縄。逸出も同範囲とみられる				
	府内	京田辺市の木津川流域で逸出報告がある				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	落葉性の低木で、現在では観賞用に広く栽培されるが、近年河川敷や林縁への逸出が見られる。葉は掌状複葉で、小葉は5-7葉、ほとんど全縁。花は穂状になって咲き、青、ピンク、白などの品種がある。日当たりを好み、森林内には侵入しない。耐暑性は強く、かなりの耐寒性もある。					
⑤近似種との見分方	中国大陸から台湾にみられるニンジンボクに似ているが、ニンジンボクの小葉は3-5枚で、縁には大きな鋸歯がある。セイヨウニンジンボク同様に植栽されるが稀で、逸出の報告はない。					
⑥被害状況	逸出の報告は稀ではあるが、樹木であるから相対的に広い面積に影響が及ぶ。結実した枝を河川敷などの乾燥地に投棄した結果と思われる。					
⑦必要な防除対策	見つけ次第根元から伐採するのが望ましい。地下部からの再生は報告されていない。また、河川敷や林縁に剪定枝を投棄しないよう周知が必要。					
⑧改訂の理由	園芸からの逸出					
⑨参考文献	植村修二他『増補改訂 日本帰化植物写真図鑑 第2巻』（2015）、全農教					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	イワヨモギ	学名	<i>Artemisia gmelinii</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	アジア北部寒冷地
	導入・侵入年代	2000年代初頭?	導入・侵入原因	砂防吹付け種子		
②分布範囲	全国	本州～九州、奄美				
	府内	詳細は不明であるが、京都市東山区などに散見				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	本来は寒地の海岸部や内陸部の岩場に生育する亜低木で、日本では北海道に自生する。叢生し、高さ50～100(～150) cm、木質の根茎があり、密に軟毛があり又は無毛になる。茎は上部で分枝する。葉には腺点がある。					
⑤近似種との見分方	ヨモギ類は種類が多く見分けが困難ではあるが、本種は葉の切れ込み方がシャープでない特徴があるため、比較的容易に識別できる。					
⑥被害状況	岩場で亜低木上に育つため、群生すると占有面積が広くなり、植生に対する影響は大きくなる。加えて、岩場は稀少植物や固有植物がよく見られる環境の一つであり、それらに与える悪影響が憂慮されている。					
⑦必要な防除対策	府内のものは、見つけ次第抜き捨てるべきである。					
⑧改訂の理由	砂防の吹き付け種子から定着。在来個体も日本にあり。					
⑨参考文献	植村修二他『増補改訂 日本帰化植物写真図鑑 第2巻』(2015)、全農教					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
(執筆者) 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	マメカミツレ	学名	<i>Cotula australis</i>	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー(2019)	要注目種	タイプ(2019)	Ca	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	-	タイプ(2005)	-	原産地	オーストラリア
	導入・侵入年代	1940年頃	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	関東以西の本州、四国、九州				
	府内	詳細は不明。京都市をはじめ、都市部を中心に散見				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	路傍や空き地などに生える一年草。暖地ではほぼ一年中開花が見られる。茎の下部は平伏、途中から斜上して高さ5~20cmになり、長軟毛がある。葉は互生し、倒披針形で2回羽状に深~全裂し、先は鋭形、まばらに毛がある。頭花は5~10cmの柄の先に単生し、径5~8mm。総苞は円盤状で、総苞片は1列、広長楕円形で先は円頭、中央部は緑色で周囲は白色膜質となる。					
⑤近似種との見分方	強害外来種のメリケントキンソウによく似ており、小さい間は区別困難なほどであるが、マメカミツレは大きくなると地上茎が伸び、頭花にも明瞭な柄がある。					
⑥被害状況	主に都会地の空き地や路傍に散見される程度であり、目立つような被害は知られていない。					
⑦必要な防除対策	群生する場合も時にみられるため、抜き捨てるのが望ましい。					
⑧改訂の理由	京都市内の路傍で確認					
⑨参考文献	長田武正「原色日本帰化植物図鑑」（保育社、1967）、清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社、2003）、清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教、2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ハリアサガオ	学名	<i>Ipomoea turbinata</i>	目科名	双子葉植物合弁花類 ヒルガオ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Cb	国リスト カテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	南北アメリカの暖～熱帯
	導入・侵入年代	江戸期？	導入・侵入原因	観賞用・薬用		
②分布範囲	全国	関東以西の本州～沖縄				
	府内	南部に散発的				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	アカバナユウガオとも呼ばれ、野外のゴミ捨て場や空き地でまれに見られる。江戸期には入っていたとされるが、近年でもアカバナユウガオの名で種子が販売されており、また九州・沖縄方面では海流によって種子が漂着することも知られている。熱帯系のものであり、本州の暖地では永続性はない。					
⑤近似種との見分方	茎に刺状の突起があり、他のアサガオ・ヨルガオ類との区別は容易。					
⑥被害状況	府内の発生は散発的であり、永続性がない。茎にある刺は肉質であり痛いものではなく、人身被害は考えられない。					
⑦必要な防除対策	必要ないと思われる。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	植村修二他『増補改訂 日本帰化植物写真図鑑 第2巻』(2015)、全農教					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	シラホシムグラ	学名	<i>Galium aparine</i>	目科名	双子葉植物合弁花類 アカネ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Da	国リスト カテゴリー	-
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	ヨーロッパ
	導入・侵入年代	2000年頃?	導入・侵入原因	不明（衣服に付着?）		
②分布範囲	全国	詳細不明だが、関東～九州。東北や北海道にも、すでに侵入していると思われる				
	府内	詳細不明。府南部の平野部の荒れ地や道端、放棄畑に侵入している				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	道端や荒れ地、放棄畑などに生える草丈1m程度の一年草。茎には4稜があり、下向きの刺毛が見られ、葉腋上部に白い軟毛が密生する。葉は20-25mmの広線形～狭倒披針形で6-8輪生、縁と葉裏脈上に下向きの刺があり、葉表には上向きにカギ状に曲がった刺がある。花は葉腋から伸びた短い柄に少数付き、径2.5-3mmの白色。					
⑤近似種との見分方	ヤエムグラとよく似ているが、ヤエムグラでは花色が淡黄緑色で径1-1.5mmと少し小さく、花序に付く花は10個程度、葉腋上部に白い軟毛を欠く。					
⑥被害状況	ヤエムグラと混同されこれまであまり注目されてこなかったため、どの程度広がっているか明らかになっていない。また、生えるが所が荒れ地や道端、放棄された畑という人工的な場所がほとんどであるため、稀少種に対する影響も未知。					
⑦必要な防除対策	まだまだ調査が必要な段階といえる。					
⑧改訂の理由	府内産確定。すでに定着し、普通種。					
⑨参考文献	植村修二他『増補改訂 日本帰化植物写真図鑑 第2巻』(2015)、全農教					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	タマオオスズメノカタビラ	学名	<i>Poa trivialis subsp. sylvicola</i>	目科名	単子葉植物イネ科
	カテゴリー(2019)	情報不足種	タイプ(2019)	Bb	国リストカテゴリー	-
	カテゴリー(2005)	-	タイプ(2005)	B	原産地	地中海地域-中央アジア
	導入・侵入年代	近年	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	不明				
	府内	京丹後市、福知山市、舞鶴市、南丹市、亀岡市、京都市、宇治市、宇治田原町、京田辺市、木津川市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	オオスズメノカタビラと同様の環境に生え、姿も大きさも同様である。					
⑤近似種との見分方	オオスズメノカタビラの亜種。姿は両者酷似する。タマオオスズメノカタビラの稈（茎）基部の数節が球状、楕円状球形、紡錘形にふくることが異なる。					
⑥被害状況	他の植生への圧迫、遺伝子汚染が進行していると考えられる。					
⑦必要な防除対策	定期的な草刈りで拡散を押さえることに有効と思われる。根絶至難。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水建美著編「日本の帰化植物」（平凡社.2003）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 津軽俊介・光田重幸						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ハナガサギク（ヤエザキハンゴンソウ）	学名	<i>Rudbeckia laciniata</i> <i>var. hortensis</i> cv.	目科名	双子葉植物合弁花類キク科
	カテゴリー (2019)	情報不足種	タイプ (2019)	Cd	国リスト カテゴリー	緊急対策外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	C	原産地	不明（園芸起源）
	導入・侵入年代	不明	導入・侵入原因	観賞用		
②分布範囲	全国	種としてはオオハンゴンソウと同じものであり、特性も同じである。				
	府内	府内でこのタイプの野生化の報告例はない。				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	オオハンゴンソウに同じ。冷涼で湿潤な環境を好むが、かなり幅広い環境でも生育する夏緑性の多年草。適地では大群落を成して、他の植物を締め出してしまう。ただし暖地で夏に乾燥するところでは、広がることは稀。					
⑤近似種との見分方	オオハンゴンソウの管状花がすべて舌状花に変わったもの。					
⑥被害状況	府内未報告					
⑦必要な防除対策	見つかった場合にはオオハンゴンソウに同じ					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	清水矩宏他「日本帰化植物写真図鑑」（全農教.2001）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、					
（執筆者） 光田重幸						